

諸陵寮議案二十二年七月十七日
 京都府下山城國愛宕郡淨土寺町後一條院天皇御火葬所之儀ハ元來同帝御本陵ニ候處維新以前ヨリ制札
 而等御火葬所ト記載有之此迄御火葬所ノ振合ニ取扱來候ヘ共右ハ別紙考案書之通ニ付此際制札面等御
 改正相成可然哉地方官ヘノ御達案ヲ具シ此段相伺候也
 (別紙)

後一條院天皇菩提樹院陵
 山城國愛宕郡淨土寺町

類聚雜例長元九年四月十七日乙丑主上自去三月之比口不例御云々漸及成烈之間遂册於清涼殿
 院御案所可被立三味堂日時
 日本紀畧長元九年四月十七日乙丑成烈天皇落飾册於清涼殿春秋二十九日庚午成烈入棺子烈出
 禁中奉迎上東門院東對 五月十九日丙申奉火葬淨土寺西原東而也從今日立伽藍於神樂岡東名曰菩提
 樹院
 扶桑畧記長元九年四月十七日乙丑亥時天皇春秋二十九於清涼殿崩五月十九日葬神樂岡東邊今菩提樹
 皇年代私記長元九年四月十七日崩二十云々五月十九日火葬於神樂岡御滑暫安置淨土寺
 百練抄長曆元年六月二日上東門院供養菩提樹院
 百練抄真書長久元年十一月十日自淨土寺奉迎御骨於此院
 離按スルニ本陵ハ京都府下山城國愛宕郡神樂岡東邊ニアルヘン則チ前文ニ記セル如ク神樂岡東面
 ニ於テ火葬シ同所ニ伽藍ヲ立テ菩提樹院ト名ケ此院ニ御骨ヲ納メ奉リシ趣ニテ淨土寺町ナル同天
 皇ノ御火葬所ハ即チ菩提樹院ノ舊址ナルコト疑ナクレハ此御火葬所ヲ以テ直ニ本陵ト改定セラレ
 テ然ルヘキカ

宮内省ヨリ奈良縣ヘ達二十二年七月二十五日

今般其縣管内大和國十市郡倉橋村崇峻天皇御位牌殿地所及十二社神社境内迄ヲ一構トシテ同天皇御陵
 ト定メ修營之筈ニ候條當省諸陵寮京都出張所官員ヘ打合セ兆域見込相立段別記載實測圖面ヲ附シ至急可申出此旨相達ス
 移轉ノ積ヲ以テ代價移轉料トモ取調實測圖面ヲ附シ至急可申出此旨相達ス
 宮内省ヨリ山口縣ヘ達二十二年七月二十五日

今般其縣管内官幣中社赤間宮境内御影堂舊地ヲ以テ安德天皇御陵ト定メ且同境内平家塚ト唱フル石塔
 ハ該陵附屬トシテ保存可致筈ニ候條兆域見込相立段別記載實測圖面ヲ附シ至急可申出此旨相達ス

大和國十市郡倉橋村崇峻天皇御位牌殿地所及十二社神社境内迄ヲ一構トシテ同天皇御陵ト定メ修營之筈ニ候條當省諸陵寮京都出張所官員ヘ打合セ兆域見込相立段別記載實測圖面ヲ附シ至急可申出此旨相達ス

但該社々務所本文舊跡ニ接近候趣ニ付兆域取極ノ場合ニ於テ不都合ニ候ハ、他ヘ移轉ノ積ヲ以テ其費用トモ取調申出ヘシ

宮内省ヨリ内務省ヘ達二十二年七月二十五日

今般山口縣下官幣中社赤間宮境内御影堂舊地ヲ以テ安德天皇御陵ト被定候條此段及御通知候也
 追テ神社地御陵地區取調方ノ儀ハ山口縣ヘ相達置候條同縣ヨリ見込申出次第更ニ可及御照會存候此段申添候也

諸陵寮議案二十二年七月十一日

崇峻天皇御陵ノ儀ハ先年奈良縣下大和國十市郡倉橋村存崇塚ト點定相成候得共古史上ニ合セサルヲ以テ御修營ニ無之候處同御陵ハ別紙中取調書之通延喜式撰定ノ時既ニ陵地並陵戸モ無之次第不得止儀ニ付此際其最モ御縁故アル即チ同村中ニ所謂天皇屋敷現今御陵墓附屬地ヨリ倉橋宮跡ヲ一構トシテ御本陵ニ決定被爲在御修營相成度存候
 安德天皇御陵之儀モ別紙乙號取調書之通ニテ到底御本陵ハ無之次第是亦不得止儀ニ付此際山口縣下長門國豐浦郡下ノ關阿彌寺町官幣中社赤間宮境内御影堂舊地ヲ以テ同天皇御陵即チ阿彌陀寺陵ト御決定被爲在御修營相成度且同境内平家塚ト唱フル石塔ハ本陵ニ由緒有之箇所ニ付陪塚同様之取扱ヲ以テ同陵附屬トシテ御保存相成度存候
 前條ノ通ニ付地方官ヘ御達案相添此段相伺候也
 (別紙)

崇峻天皇倉梯岡陵二十二年七月二十四日議定

大和國十市郡

日本紀泊瀨部天皇五年十一月癸卯朔乙巳馬子宿禰辭於群臣曰今日進東國之調乃使東漢直駒弒于天皇是日葬天皇于倉梯岡陵
 古事記長谷部若雀天皇坐倉梯柴垣宮治天下御陵在倉梯岡上也
 諸陵式倉梯岡倉梯倉梯宮御宇崇峻天皇在大和國十市郡倉橋村ニアルヘク即チ倉梯ノ名稱ハ村號ニ存在シタルトモ陵地ノ所在タル諸說紛々トシテ一ナラス實地ニ就テ搜索ヲ盡セトモ遂ニ認得スルニ至ラサルハ蓋シ昔時ニ於テ已ニ湮滅ニ屬セシナラン延喜式ハ弘仁貞觀ノ二式ヲ合シテ撰錄セル書ナリ其諸陵式ノ所載ニ無陵地並陵戸ト云ヘリ是レ式撰撰以前ニ於テ埋没セシ明證ナリ喪葬令ニ凡先皇置陵戸令守非陵戸令守者十年一替トミエタリ又諸陵式ニ凡諸陵墓者每年二月十日差遣官人巡檢其兆域垣溝若有損壞者令守戸修理專當官人巡加檢校ト云ヘリ如此ナレハ陵地現存シタルニハ何ソ兆域ヲ定メ陵戸ヲ置カサル理アラザル然ルヲ無陵地并陵戸ト云ヘリ是昔時ニ在テ已ニ湮滅セリト云フニ

非スヤ又日本紀ニ據ルニ嘗帝ハ尋常ノ崩御ニアラス且御葬ニ於ケルモ比例無キ薄葬ナリシカハ營
 陵ノ卑小ナル論ヲ俟タス特ニ有司モ逆臣馬子ノ暴威ニ怖レテ崇典タル所ノ陵戸兆域ノ踏定ヲモ行
 ナレ得サリシハ疑フヘカラサル事實ナリ如此ナレハ數年ナラスシテ埋没ニ屬セサル理アラシヤ實
 ニ慨歎痛憤ノ至リナリ是即チ式條ニ無陵地拜陵戸ト記載セル所以ナリ上件ノ次第ナルヲ以テ猶熟
 考スルニ今倉橋村ニ皇居ナリシ柴垣宮舊地ト稱スル小丘アリ老樹鬱蒼トシテ傍ラニ十二社權現ノ
 小祠モアリ又接近ノ地ニ天皇屋敷ト稱スル小地モアリ此所ニハ天皇ノ禮牌ヲ安シタル小堂アリ往
 時ハ金福寺ト云フ傍モアリシナルヲ如此字ヲ天皇屋敷ト稱シ或ハ柴垣宮舊地ト傳稱シ來リタル
 ハ至ク最近ノ口碑ニアラシキ村祠一字ハ他ニ移轉セサルヲ得サルヘシ
 安徳天皇阿彌陀寺陵二十二年七月二十四日裁定

長門國豐浦郡赤間關

五月元曆二年四月四日丁酉雨下頭辨光雅朝臣來臨仰云院宣云追討大將軍義經去夜進飛脚相副申云去三
 月二十四日午刻於長門國浦合戰於浦上自午正至時云伐取之者云生取之衆不知其數寶物等御座之
 山同所申上也但諸主御事不分明云々文治三年四月二十三日午時此日被下先朝隆號勅賜例也上卿權大
 納言實家卿建久二年閏十二月十四日戌未刻參院以資實入見參崇徳院並安徳天皇等崩御之所建一堂可
 資彼御菩提并命之士卒減罪之勝因事可申沙汰之山仰奉經了二十二日四未刻參院召文書次第申之
 事同前但可崇徳院例依不擬神社無奉幣之沙汰也二十八日申今日以宗頼被仰條々事等又長門國可建
 一堂之山宜下者皆任御定可宜下之山仰了
 百練抄文治元年三月二十四日丁未於長門國門司關爲源軍平氏悉被覆落了前帝外祖母二品奉抱幼主沒
 海中同三年四月二十三日申午權大納言實家卿參入行尊號事於天皇安
 繼按スルニ本陵ハ前文ニ記セル如ク長門國浦御所ニ於テ一堂ヲ建テ御陵ニ擬セラレタル趣
 ナリナレハ今山口縣下ナル官幣中社赤間宮境内舊御影堂敷地ハ即チ其一堂ナルゴト明瞭ナレハコ
 官報抄錄二十二年七月二十九日決定セラレ然ルヘキカ
 奈良縣下大和國葛下郡今市村顯宗天皇傍丘磐丘南陵同國同郡今泉村武烈天皇傍丘磐丘北陵同國十
 市郡倉橋村崇徳天皇倉橋岡陵京郡府下山城國葛野郡宇多野村光孝天皇後田邑陵同國同郡村上村上天皇
 村上陵同國愛宕郡鹿ヶ谷町冷泉院天皇櫻木本國葛野郡宇多野村圓融院天皇後村上陵同國同郡大北山
 村三條院天皇北山陵同國同郡同村二條院天皇香隆寺陵山口縣下長門國豐浦郡赤間關安徳天皇阿彌陀寺
 陵京都府下山城國愛宕郡勝林院町順徳院天皇大原陵同國紀伊郡福稻村仲恭天皇九條陵同國同郡堀内村
 光明天皇大光明寺陵ハ兆域取關中ノ處今般夫々檢陵上奏裁可ヲ經タリ

後白川院天皇御陵へ人員參拜ノ儀ニ付守長ヨリ別紙ノ通伺出候處右御陵へ寺院ノ裏手ニテ道路際ニ御

諸陵寮京都出張所ヨリ諸陵寮へ問合二十一年四月十五日
 後白川院天皇御陵へ人員參拜ノ儀ニ付守長ヨリ別紙ノ通伺出候處右御陵へ寺院ノ裏手ニテ道路際ニ御

門有之立入ヲザレハ參拜難致場所ニ有之仍テ取締ノ爲守長守部ノ内一名出張爲政候ハ、御差支無之候
 別紙

甲第五部守長木村辨之進ヨリ諸陵頭へ伺
 後白川院天皇御陵往年ヨリ頭痛平癒之靈驗利生有之候ニ付人民器敬尊信瓊シ毎年五月三日ハ御祭日
 ニ付殊ニ參詣人有之來候趣然ニ御陵御製則モ有之候事ニ付先年殿掌藤木顯右參詣人ノ儀ニ付京都府へ
 伺出候處歸依信仰尊敬ノ事ニ候へハ御祭日一日ハ參詣可差許尤不都合無之様注意可致旨御指令有之候
 趣諸陵掌永元左兵衛ヨリ申傳有之候へトモ當年ハ殊ニ七百年ノ御年忌ニ相當リ候へハ參詣人モ多少有
 之候事ト思惟仕候然ニ矢張此迄ノ通相心得候テ宜敷事ニ候哉猶亦更ニ此段御伺申上候也

諸陵寮ヨリ京都出張所へ回答 二十一年四月十六日
 本月十二日付第四一八號ヲ以テ後白川院天皇御陵へ人民參拜ノ儀ニ付守長木村辨之進伺書添御問合越
 之趣了承右御見込ノ通爲取計候ハ、差支無之様被存候條此段申入候也

追テ守長伺書中當年ハ殊ニ七百年之御年忌ニ相當云々ト見へ候へトモ右ハ事實相違ニハ無之哉爲念
 副申候也

諸陵寮京都出張所ヨリ本寮へ通報 二十二年四月十五日
 清淨華院出火ニ付類焼ニ罹ル御墓

- 梅香院御墓
- 臺嶺院御墓
- 梅密院御墓
- 凌雲院御墓
- 無量心院御墓
- 涼照院御墓
- 高岳院御墓
- 瑞林院御墓

清淨華院出火ノ際諸御墓類焼ス

慶光天皇御陵修營ニ付
閑院宮御墓ニ參拜心
得方

臻岸院御墓
右當地寺町通清淨華院一昨十三日午後三時三十分出火該寺燒失致候ニ就テハ右堂宇ニ接近セル前書御
墓所精々火防爲致候得共寺院建物燒倒シ損所出來候ニ付不取敢此段及御通報候也
諸陵寮ヨリ閑院宮家令へ通牒 二十二年七月八日
今般當寮京都出張所ヨリ別紙寫ノ通申越候付三項共申越ノ通ニテ可然旨回報致置候爲御承知置此段申
入候也

諸陵寮京都出張所ヨリ本寮へ照會 二十二年七月四日
慶光天皇御陵今般修營相成候ニ付左ノ件々及御問合候
一閑院宮御墓へ緣故アル者及舊家來等參拜或ハ掃除ノ爲メ立入度旨守長へ申出之節ハ掃除口開扉爲立
入可然哉
一閑院宮ニ於テ會テ建設致候物入小屋之儀ハ墓地ト共ニ當寮ニ引渡シ相成タルモノト見做シ當方ニ於
テ使用シ差支無之候哉
一閑院宮御墓所同宮ニ於テ祭祀法會等執行之節若シ正門開扉之儀申出候ハ、其意ニ應シ可然哉
右何分之儀御申越相成度候也
諸陵寮ヨリ京都出張所へ回答 二十二年七月八日
七月四日付土陵發第一〇〇四號ヲ以テ慶光天皇御陵修營ニ付閑院宮御墓參拜者等之儀ニ關スル御問合
之趣了承右者三項共御申越ノ通ニテ可然候條此段及御答候也

雜載

宮内省達 二十二年七月二十七日

本年五月達第六號帝國博物館官制總長職制中帝國博物館一切ノ事務ヲ管理シノ下へ帝室ノ寶器ヲ保管
シノ九字ヲ加フ

(參考)
宮内省達 第二十二年五月十六日 (全文ハ官報門見)

帝國博物館 一人動任一券又ハ二券
總長 帝國博物館一切之事務ヲ管理シ兼テ帝國京都博物館帝國奈良博物館ノ事務ヲ統理ス

宮内省達 二十三年六月六日

明治二十二年七月二十七日達第十三號(帝國博物館官制總長職制中追加ノ件)ヲ廢ス

宮内省辭令 二十三年六月六日

宮中顧問官子爵 稅 所 篤

調查課ヨリ宮内省へ伺 二十三年五月二十九日
正倉院寶庫ハ歷世勅封ノ例規タリ裝ニ明治八年內務省ノ管轄ニ屬シ寶器ノ保存ヲ博物館ノ管掌ニ定メ
ラレ依テ十四年四月博物館ト共ニ農商務省ノ管轄ニ移サレ十七年八月本省中ニ圖書寮ヲ設キ書籍古器
物書籍等保存ノ制ヲ設ケ其翌十八年七月寶庫ノ管理ヲ同寮ニ屬シ尋テ十九年三月本省ニ付セラレタル
博物館ヲモ亦同寮ヲシテ管理セシムルニ至レリ爾來博物館ノ事務漸ク多端ナルヲ以テ二十二年五月
書寮ノ附屬ヲ廢シ更ニ帝國博物館帝國京都博物館帝國奈良博物館ヲ置キ七月博物館總長ノ職制ニ帝室
ノ寶器保管ノコトヲ加ヘ寶庫ヲシテ奈良博物館ノ一部ニ屬セラレタリ然ルニ博物館ハ敢テ物品ノ新古
ヲ問ハス廣ク網羅シテ永遠ノ保存ヲ圖リ縱覽ヲ許シテ衆庶ノ智識ヲ裨益スルノ目的ニ基因スト雖モ
覽ヲ許サスシテ慎重ノ保護ヲ旨トセラル、勅封ノ寶庫其他帝室ノ寶器ニ至テハ全ク其成立ヲ異ニスル
ノミナラス其目的モ同一ナラサルヲ以テ管理ノ制亦其別ナルヘカラス依テ自今正倉院御物其他帝室
ノ寶器ハ帝國博物館所屬ノ制ヲ改メ別ニ管理主任ヲ定メラレ可然哉左案ヲ具シ仰高裁候也

宮内省達 二十三年六月二十日

帝室寶器保管ニ關スル
會計事務ハ內事課ニ於
テ取扱

帝國博物館總長ノ帝室
寶器保管ヲ止メ更ニ之
カ法管ヲ設ク

帝國博物館總長ノ職制
總長ニ保管セシム
二十三年六月宮内省達第
三號ヲ以テ帝室寶器保管
ヲ止ム

帝室寶器主管ニ關スル會計庶務ハ右主管ヘ協議ノ上其課ニ於テ取計フヘシ
宮内省達 二十三年六月二十日

別紙ノ通内事課ヘ相達候ニ付其旨心得ヘシ

調査課ヨリ宮内省ヘ伺二十三午六月七日
今般昨二十二年七月達第十三號ヲ廢シ別ニ帝室寶器主管ヲ被命候ニ就テハ寶器保管ヘ係ル會計庶務等
整理ノ爲メ特ニ都局ヲ設ケテ候トキハ從テ多少ノ經費ヲ要シ到底從前ノ寶器保管費額ニテハ不足ヲ
生シ候事ニ立至候哉モ測リ難ク且右會計庶務等ノ如キハ省中他部局ニ於テ兼掌セシメ候共差支無之儀
ト存候ニ付旁内事課ヘ右事務取扱方被達可然哉左ニ諸案ヲ具シ高裁ヲ仰キ候也

宮内省ヘ照會 二十三年十月十五日 (文書門記録志)

内閣所管ノ圖書ニシテ永世保存スヘキモノ別冊目錄ノ通帝室御府ノ御所管ニ移シ貴大臣ニ於テ其保存
ノ方法ヲ定メラレ度且帝室御府ノ御所管ト爲ルモ從前内閣ニ於テ所管ノ時ノ如ク諸官廳ニ於テ必要ノ
場合ハ閱覽可被差許ノ規則ヲモ被設候様致度此段及御照會候也

追テ圖書係官吏別紙人名ノ者圖書御引渡ノ際貴省ヘ御採用相成度此段併テ申入候也

内閣記録局衷申二十二年七月十四日

古書處分ノ件

大凡物ハ聚メ難ク散シ易シ就中書籍最モ甚シトス彼ノ支那歷代ノ如キ概ネ圖書ノ閱ヲ開キ蒐集保存ノ
通ヲ講セサルハナシ然レトモ革命ノ頻繁ナル世ノ興敗ニ從ヒ其書一聚一散終ニ變亂ノ禍ヲ免ル能ハス
故ニ中世以降叢書彙刻ノ舉盛ニシテ覆刻羣版スルモノ多シト雖モ荷最ノ四部以下歷代ノ經籍志ニ徵ス
ルニ其今ニ存スルモノ幾何モナシ我邦ハ則チ然ラス帝室萬古不易ナルカ爲メ古書彙刻ノ今ニ傳ハルモノ
ノ亦尠ナカラス其船載ニ係ルモノハ如キハ彼ニ逸シ我ニ存スルモノ多シ然レトモ入鹿ノ亂ヲ始メ書籍
ノ兵燹ニ罹リシ亂離ノ爲メ其保存ニ注意スル者ナカリシトテ以テ通憲永正ノ諸目錄ニ據テ之ヲ徵スル
ニ難散逸スルモノ蓋シ半ニ過キテ山文庫ニ藏シ一ヲ昌平文庫ニ藏シ一ヲ盛平文庫ニ藏シ一ヲ海内ニ索メ勞ヲ新
籍ヲ船載ニ購シ二本アルモノハ一ヲ楓山文庫ニ藏シ一ヲ昌平文庫ニ藏シ一ヲ盛平文庫ニ藏シ一ヲ海内ニ索メ勞ヲ新
メタリ餘風延テ士大夫ノ間ニ及ヒ一戸萬卷ノ書ヲ藏スル者アルニ至レリ盛平ノ官吏ヲ徵テ之ヲ保管セシ
際民間ノ藏書再ヒ散佚シ今日總ニ二三ノ書目ヲ遺スニ過キス幸ニ楓山昌平ノ二庫ノミ其禍ヲ免レ楓山
庫ノ書ハ一旦秘閣ニ廢メ後修吏局ニ於テ之ヲ管セリ昌平庫ノ書ハ初メ文部省ニ屬シ次テ内務省ニ屬シ
後農商務省ニ選レリ明治十七年一月太政官第十一號達ニ基キ右二庫ノ書合テ文書局ノ所管トナリ續テ
木局之ヲ保管スルニ至レリ他日官制ノ變更アリテ此書復タ何レニ移轉スルモ圖リ難シ如此ナルトキハ

内閣所管ノ圖書ニシテ
永世保存スヘキモノヲ
帝室御府ニ移ス

之ヲ保存スルノ道前後一ナラス若シ少シク注意ヲ關クコトアルトキハ蠶魚濕氣等ノ爲メ忽チ毀損ノ患
ヲ生センコトヲ恐ル就中近藤守直ノ右文古事符谷披齊ノ經籍訪古志等ニ記載シタル宋葉ノ尙書正義杜
氏通典六臣文選太平寰宇記及本局新ニ購求スル所ノ宋葉一切經其他本邦ノ古刻并ニ慶長以上ニ係ル古
寫ノ家記又ハ後崇光天皇御親筆ニ成レリ者聞日記ノ如キハ實ニ天下無二ノ珍書ナリ若シ觀テ一度之ヲ
毀損スルトキハ千悔スルモ及ハナラントス就テハ此際前記珍書ハ勿論其他貴重ノ古書ヲ類別シ之ヲ萬
古不易ノ帝室御府ニ藏シ其保存方法ヲ確定シ掛官ヲシテ之ヲ遵守セシムルコト彼幕府ノ楓山文庫ニ於
ルカ如シ且其書目ヲ刊シテ之ヲ公示シ必要關クヘカラサル場合ニ於テハ人民ト雖モ特ニ其閱覽ヲ許サ
ルヘシ又尤モ珍奇ナル書籍ハ追々際寫シテ復本ヲ製シ置キ參考ノ用ニ供シ兼テ萬一天災等ノ爲メ一本
ヲ損失スルコトアルモノ一本存センコトヲ圖ルヘシ(長岡野山)本局管理ノ任ニ在ルヲ以テ古書保存ノ
道ヲ得ンコトヲ思フ最モ切ナリ因テ聊カ鄙見ヲ略陳シ高裁ヲ仰ク

内閣書記官職案二十三年十月六日

昨二十二年七月内閣記録局長ヨリ具申スルニ目下内閣ノ所管ニ屬スル元郷山文庫及昌平文庫ノ圖書並
ニ維新後諸家ヨリノ獻本及内閣ニテ買上ノ書籍等ノ内ニ於テ天下無二ノ珍書ト稱スヘキモノ別冊目錄
ノ通之ヲ帝室御府ニ藏シ其保存方法ヲ設定シ目錄ヲ製シテ之ヲ公示相成度トノ旨ヲ以テシ總理大臣ノ
認許ヲ經タリ依テ爾後宮内省ヘ内照會ニ及ヒ同省ニ於テモ異議ナキヲ以テ左案ノ通照會セラレ然ルヘ
シ

内閣記録局ヨリ内閣書記官ヘ回答二十三年十月十三日

内閣文庫圖書ノ内古文書ノ分帝室御府ヘ藏メ候儀ニ付テハ兼テ陳述致置候處今般宮内省ヘ繼續可相成
トノ御決議ノ趣了承候右本局於テ差支無之候儀ヲ別冊和添此段御答申進候也

宮内省照會二十四年二月二十六日

客年十月十五日附送第二九號ヲ以テ内閣御所管ノ圖書今般當省ヘ引繼キ保存方法并借覽規則設定方ノ
儀ニ付御照會ノ趣致了承候就テハ右圖書御引續ノ際附屬文庫並建物共悉皆御引繼相成候様致度御回答
勞々此段及御照會候也

内閣書記官案二十四年三月十七日

追テ圖書係官吏二名當省ヘ轉職採用ノ儀了承且圖書等現實授受ノ時日御通知有之度此段申添候也

内閣所管ノ圖書帝室御府ノ御所管ニ移シタルニ付右圖書藏置ノ文庫貸渡方別紙ノ通宮内大臣ヘ回答相
成然ルヘシ

宮内省ヘ回答二十四年三月十八日

内閣所管ノ圖書帝室御府ノ御所管ニ移シ候儀ニ付二月二十六日付丙第一〇四號ヲ以テ御回答有之候處
右帝室御府ノ御所管ニ移スヘキ圖書藏置ノ文庫一棟ハ圖書ト共ニ御引渡可致見込ニ候處其他内閣記録
文庫並建物ハ内閣ニ於テ所要有之候ニ付御引繼ニ及難ク候尤右文庫中餘裕有之節其部分御貸渡ノ儀ハ
差支無之ニ付此儀ハ御省主任ヨリ内閣書記官長ヘ協議相成候様致度此段御答申進候也
追テ本文圖書御引渡日限ノ儀ハ内閣記録局長ヨリ御省書記官ヘ可申入候

正倉院覽庫開帳

官報抄錄 二十一年八月六日
一昨四日午後三時奈良正倉院覽庫開帳右ニ付澳地利國レオゴルド、フェルチナンド親王殿下ハ昨五日午後參觀アリタル旨同地出張ノ九鬼圖書頭ヨリ電報ヲ以テ上申セリ

正倉院覽庫開帳

官報抄錄 二十一年八月十四日
最ニ開封シタル正倉院ハ一昨十二日開封セラレタリ

正倉院覽庫開帳

官報抄錄 二十二年七月十一日
正倉院覽庫自今年年定時曝曬ノ儀仰出タツレ曝曬中御物拜觀差許サルヘキニ附キ拜觀手續左ノ通相定メタル旨一昨九日宮内大臣ヨリ圖書寮ヘ達シタリ

- 拜觀手續
- 第一項 定時曝曬ハ八月一日ヨリ同月三十一日マテトス
但シ風雨ノ節ハ開扉セス
 - 第二項 一日二十人ヲ限リ御物拜觀ヲ差許ス
 - 第三項 左ニ記列シタル者ニ限リ拜觀ヲ願出ツルコトヲ得
一高等諸官員 一有爵者有位華族 一勳六等以上 一從六位以上 一諸博士諸學士 一歴史、美術、工藝、專門篤志者 一第六項ノ手續ニ依リタル外國人
 - 第四項 拜觀ヲ乞フ者ハ七月二十一日マテニ圖書頭ヘ願出ツヘシ
 - 第五項 拜觀ヲ得ル者ハ圖書頭ノ認可證ヲ有スル者ニ限ル
 - 第六項 拜觀ヲ願フ者勅任官以上ハ直ニ奏任官ハ當該長官、有位有爵者ハ、爵位局長官若クハ、地方長官、有勳者及其他ハ、地方長官ヲ經テ圖書頭ニ願出テ又ハ便宜ニヨリ奈良縣知事ヲ經テ圖書頭ニ願出テ外國人ニ在リテハ各國公使館員及一時來航ノ者ハ公使、各廳備員ハ當該長官ヲ經由シテ圖書頭ニ願出テ圖書頭ニ於テ之ヲ許否シ其許可セル者ニハ認可證ヲ與ヘ同時奈良縣知事ニ通牒スヘシ

二十三年七月五日拜觀願ハ左ノ書式ニ依ルヘシ
ハ内務省長官ニ提出サシ

第七項 拜觀願書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ
但シ歴史、美術、工藝、專門篤志者ハ履歷書ヲ添附スヘシ

正倉院御物拜觀願

正倉院御物拜觀之儀奉願候也

年號月日

官位勳爵 其他受有ノ公稱
若クハ職等

氏名印

住居

圖書頭宛

第八項 天氣摸樣ニヨリ認可證所持ノ者ト雖モ入覽ヲ許サルコトアルヘシ

第九項 前條拜觀ニ附キ勅封ノ開帳ハ奈良縣知事之ヲ取扱ヒ閉封ノ節ハ東京ヨリ勅使ヲ派遣セラルヘシ

第十項 開帳中御物取扱ハ圖書寮員出張シ奈良縣屬員之ヲ補助スヘシ

第十一項 開封中奈良縣ニ於テ一層嚴重ニ警備スヘシ

第十二項 定時曝曬ノ外ハ勅旨ニアラツレハ開封スルコトナシ

官報抄錄 二十二年八月五日

正倉院覽庫曝曬ニ附キ去ル一日開封相成リタリ

官報抄錄 二十三年七月五日

正倉院曝曬中御物拜觀願ハ自今宮内省内事課長ヘ宛差出スコトニ定メラレタリ

正倉院曝曬封

茨城縣下東茨城郡千波湖御獵場

第一編ニ在リ

茨城縣下真壁郡御獵場

第二編ニ在リ

官報抄錄 二十三年九月十三日
正倉院曝曬濟ニ付本月十日午後一時勅封相成リタリ

宮内省報告 二十一年六月十六日

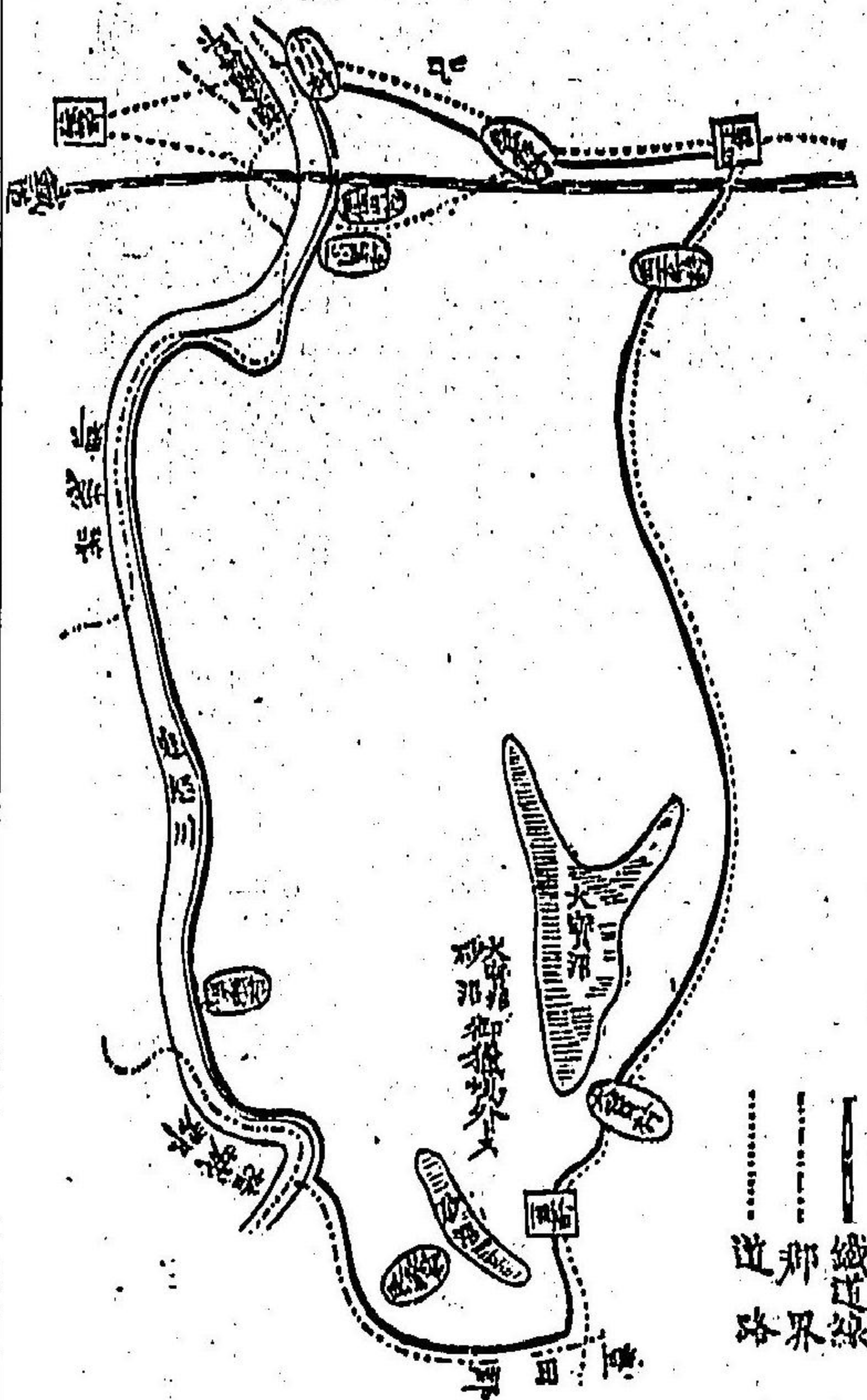
茨城縣下東茨城郡千波湖御獵場之儀ハ去ル明治十六年設置相成候處今般布設候水戸鐵道線路ニ係リ往々水鳥蕃殖ノ見込無之ニ付此際該御獵場廢止候旨内務省へ照會濟相成候間此段及報告候也

宮内省報告 二十一年九月二十一日

茨城縣下真壁郡内別紙繪圖面朱點内ノ場所今般御獵場ト被定度ニ付内務省へ照會候處内務農商務兩大臣ヨリ該縣へ及訓令候旨回答有之候間自今御獵場ト被定候條別紙繪圖面相添此段及報告候也

官報抄錄 二十一年十月十三日

宮内省ニ於テハ今般茨城縣下真壁郡内ニ於テ左圖ノ場所ヲ御獵場ト定メ鬼怒川筋御獵場ト稱ス



京都府愛宕郡ニ御獵場ト被定候條別紙繪圖面相添此段及報告候也

宮内省報告 二十二年六月三日

京都府山城國愛宕郡内別紙繪圖面朱點内之場所今般御獵場ト被定度ニ付内務省へ照會候處内務農商務兩大臣ヨリ該府へ及訓令候旨回答有之候間自今御獵場ト被定候條別紙繪圖面相添此段及報告候也

御獵場區域内村名

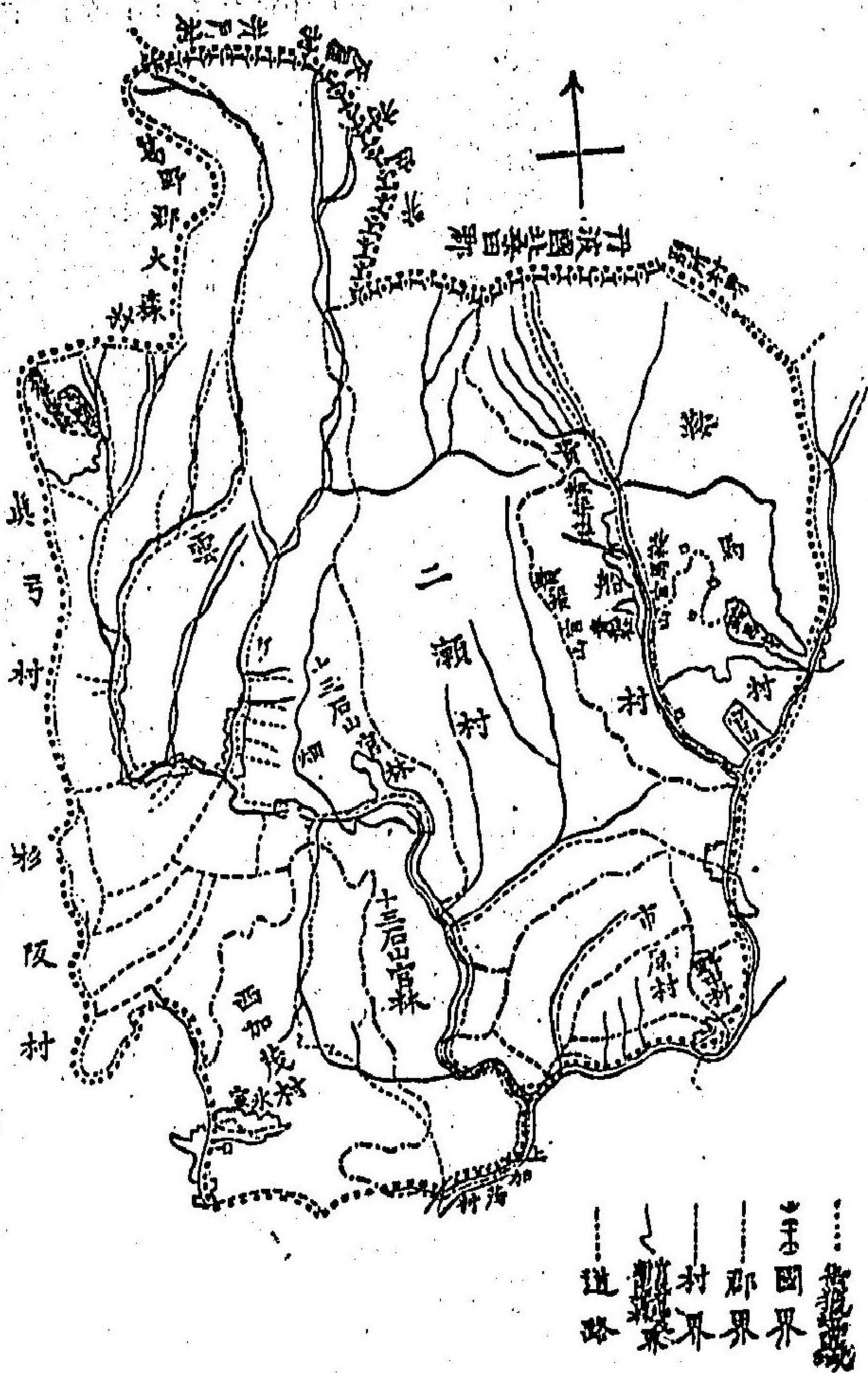
- 愛宕郡内
- 貴船村
- 雲ヶ畑村
- 鞍馬村ノ内
- 二ノ瀬村ノ内
- 野中村ノ内
- 市原村ノ内
- 西加茂村ノ内

官報抄錄 二十二年六月一日
今般京都府山城國愛宕郡内左圖ノ地ヲ以テ御獵場ト定メラレ愛宕郡御獵場ト稱セリ

京都府下山城國愛宕郡
御獵場ノ圖

宮内省報告 二十三年七月二十四日

京都府下山城國愛宕郡御獵場ノ儀ハ昨二十二年五月新設相成候處評議ノ次第有之今般廢止候旨内務省
へ照會ノ上該省ヨリ京都府へ其旨訓令濟ニ付此段及報告候也



岐阜縣下郡上武儀方縣
三郡内ニ貼御獵場ノ圖

宮内省報告 二十三年十二月二十七日

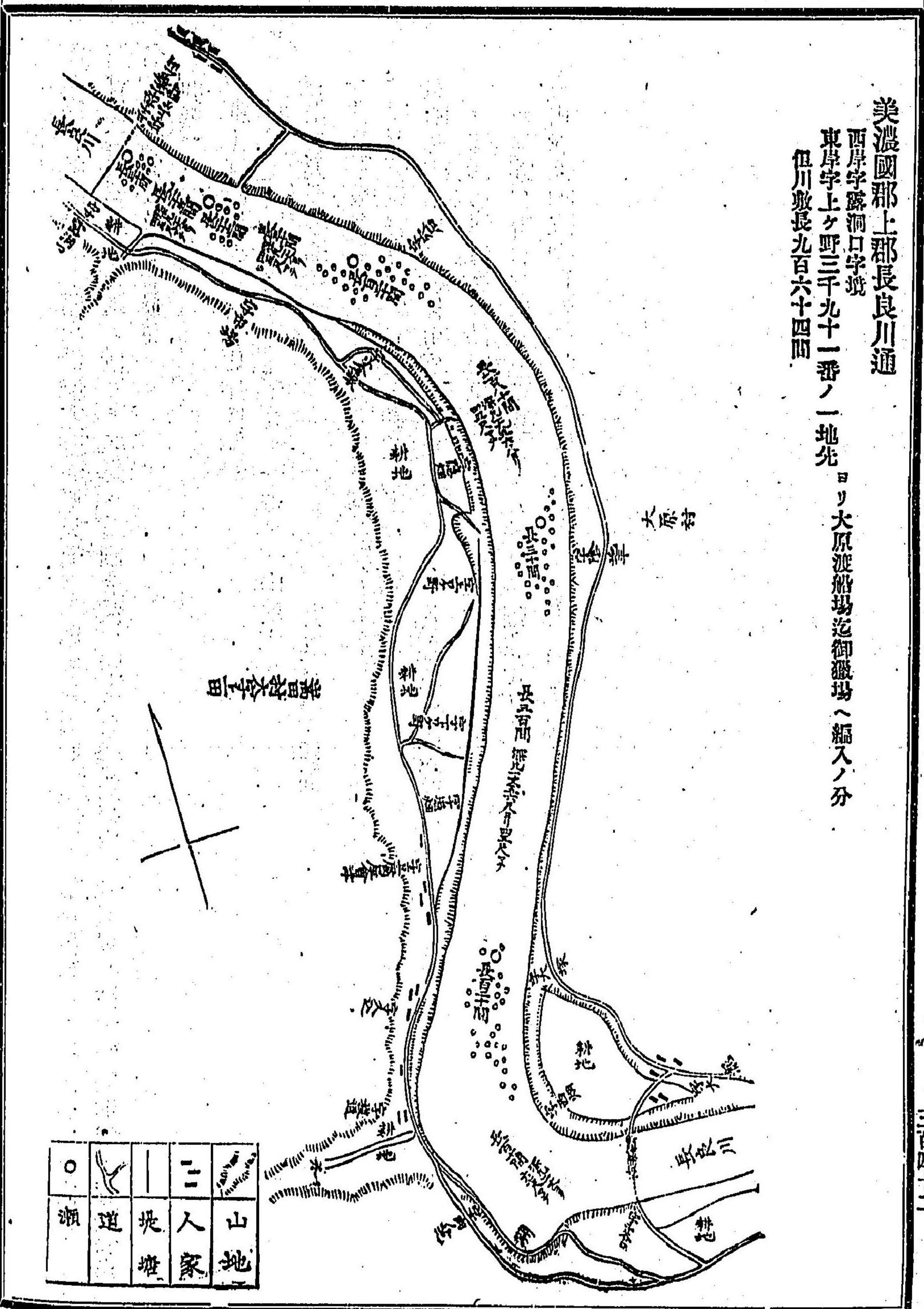
岐阜縣下美濃國郡上郡武儀郡方縣郡厚見郡ノ内別紙繪圖面ノ場所今般船御獵場ト被定度ニ付内務省へ
照會候處内務農商務兩大臣ヨリ該縣へ及訓令候旨回答有之候間自今御獵場ト被定候條別紙繪圖面並村
名書相添此段及報告候也

(別紙)

- 一郡上郡瀧田村大字上田字露洞口
同郡大原村字上ヶ野三千九十一番ノ一山地先ヨリ
凡九百六十四間
- 右兩村大原渡船場マテ
- 一武儀郡安會野村大字會代字杉ヶ鼻
立花渡船場ヨリ
- 同郡洲原谷村大字立花字御堂ノ上
右兩村字上久郷 牧谷川落合マテ
凡三百四十七間
- 一方縣郡古津村字小島山東谷境
- 厚見郡日野村字堤外三千百九十八番ノ一畑地先ヨリ
- 右兩村字小島山
字川原三千百一十一番畑地先マテ
凡百六十間

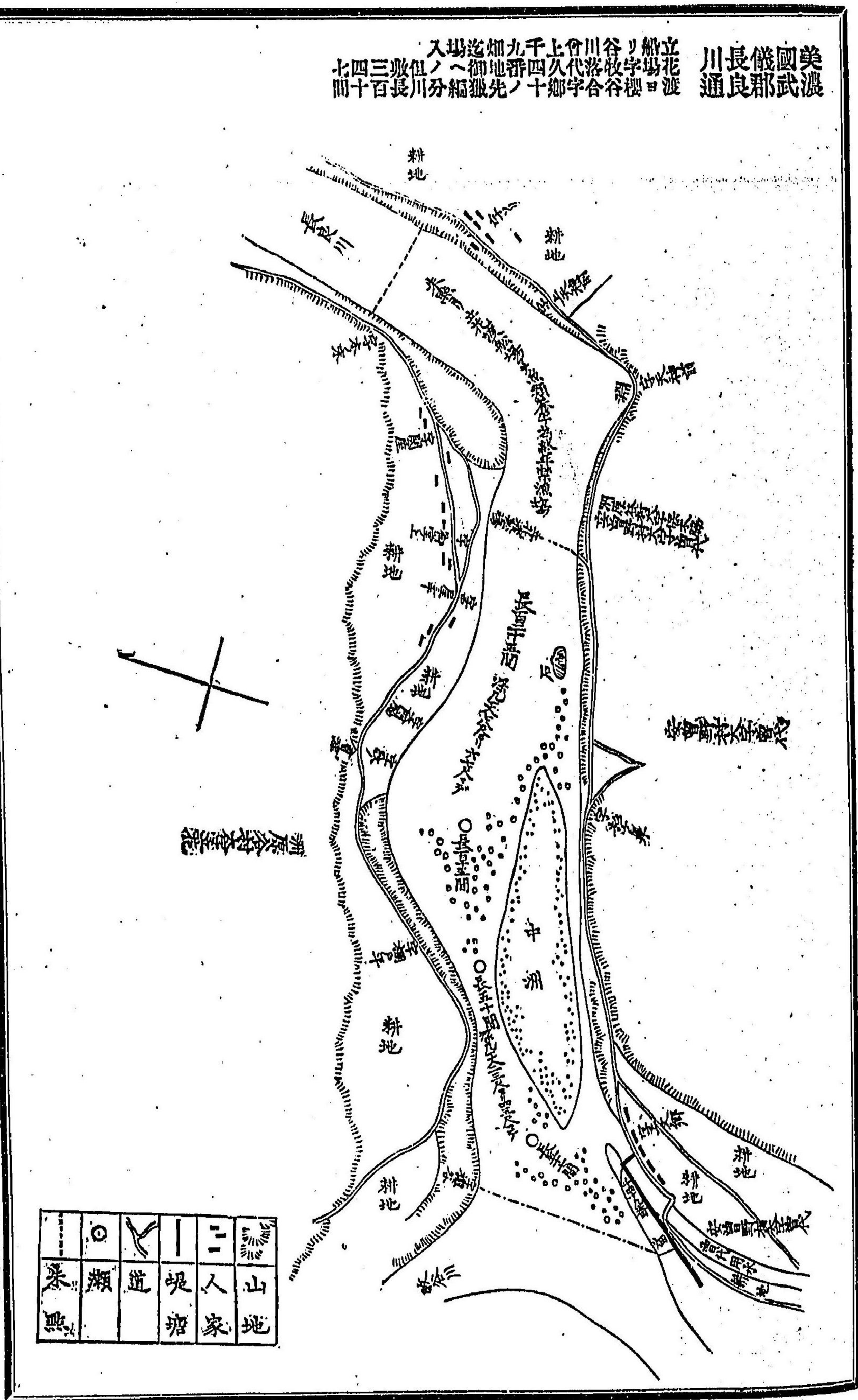
美濃國郡上郡長良川通

西岸字露洞口字號
東岸字上ヶ野三千九十一番ノ一地先
但川敷長九百六十四間

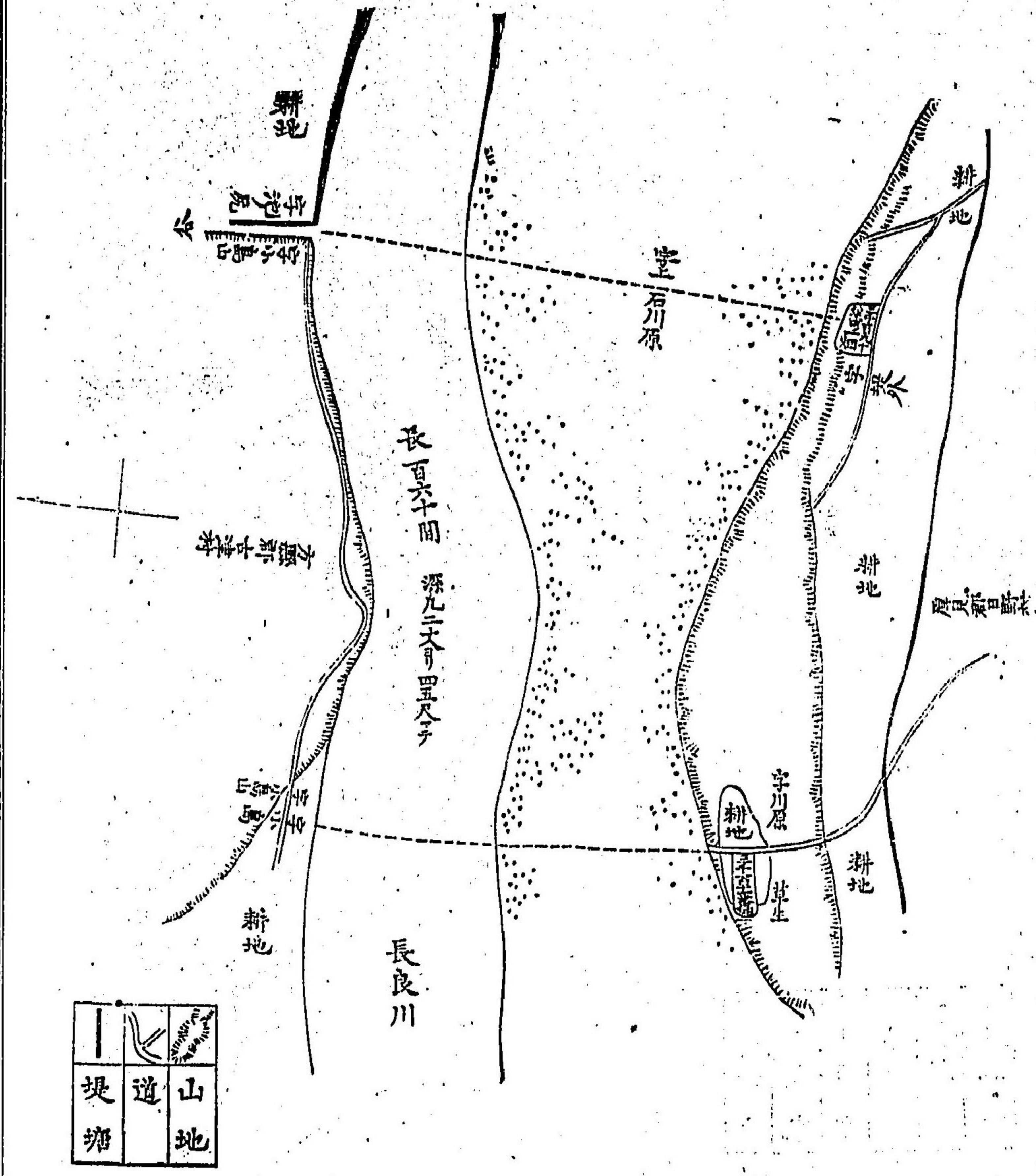


美濃國儀長川
通良郡武

立花船谷川上九千入
場牧落代久番四御
知地番先編入分
但川敷長九百六十四間



美濃國厚見郡長良川通
 北岸字小島山谷壇南岸
 字堤外三千九十八番
 ノ一畑地光ヨリ北岸字
 小島山谷壇南岸字川原
 三千百十一番畑地光マ
 テ
 御獵場へ編入ノ分



儀制門

儀制總

式部職ヨリ福岡縣へ回答 二十一年一月二十六日
 神職ノ畫賀表奉呈方滋賀縣ノ伺ニ對シ客年十月指令相成候儀ニ付御間合ノ趣領承右禰宜以下判任待遇
 ノ畫賀表奉呈方ヲシテ書式第三項ノ例ニ據ルヘキ旨指令相成候ハ府縣ニ在テハ郡區役所等ニ在勤スル
 判任官ノ其所屬郡區役所等へ參賀シ郡區長等ニ於テ所屬官員ノ參賀ヲ受ケ賀表ヲ所轄府縣長官へ進達
 スルト同様即チ禰宜以下ハ奉職スル所ノ一社へ參賀シ官司之ヲ受ケテ府縣長官へ進達可致筋ニシテ其
 奉職スル一社へ參賀又ハ參賀ヲ受ケタル官司ヨリ府縣長官へ賀表差出ツセ方ハ府縣廳ニ於テ適宜之ヲ
 定ムヘキモノニ有之而シテ府縣長官ハ第三書式ニ依リ判任官准判任一同ノ參賀相受候旨言上可有之儀
 ニ候條此段及御答候也

但第四項ハ今猶神宮司應判任官ニ適用致候ニ付未タ全クノ消滅ニハ無之候事
 福岡縣ヨリ式部職へ照會 二十一年一月十四日
 先般官國幣社神官ヲ廢シ更ニ神職ヲ設カレ候ニ付テハ三大節賀表ノ儀客年十月十四日宮内省へ滋賀縣
 伺指令ニ宮司ハ從前ノ通禰宜以下ハ賀表書式第三項ノ例ニ據ルヘキ旨明文有之宮司ハ内務大臣之ヲ補
 シ奉任待遇ヲ受ケタルモノニ付從前ノ通り直チニ捧呈セシモ禰宜以下ハ府縣知事之ヲ補スルモノニ付
 知事參賀ヲ受ケ賀表書式第三項ニ據リ認メ知事ヨリ官上候儀ト解釋ヲ下シ可然哉果シテ然ラハ明治十
 九年十月宮内省達第十二號第四項ハ自然消滅シタルモノト心得可然哉聊疑團相生シ及御間合條候何分
 ノ御指示有之度此段及御照會候也

式部職ヨリ愛知縣へ回答 二十一年十月二十四日
 御縣々立學校小學校等ニ於テ新年紀元節天長節ノ祝日ニ祝賀式御舉行相成候ニ付要領御記載御間合ノ
 趣致承知候右當職ニ於テハ差支ノ廉無之候此段及御答候也
 追テ三大節ニ係ル祝賀式御次第等御參考ニ可相成書類無之候間御回附不致候此段申副候也

官國幣社神職中禰宜以
 下三大節賀表差出方

十九年十月宮内省達第十
 二號ハ賀表式ヲ改セテ
 第一編ニ在リ

愛知縣々立學校小學校
 等ニ於テ三大節御賀式
 御舉行方

爵位局長ヨリ恒例式典ノ節參賀及參拜等心得方ヲ在京華族ニ示ス

二十三年十二月二十七日
水項ヲ收ム後ニ載ス

爵位局長 二十二年十二月二十七日

明治二十三年以降恒例式典ノ節參賀及參拜等心得方左ノ通相定メ臨時變更アルノ外其都度達示セス

參賀及參拜等心得

○新年拜賀及參賀 一月一日、二日

一日侯伯子男爵及從四位以上同夫人

拜賀 午後二時三十分

青山御所へ參賀 午後三時三十分ヨリ同四時迄

東宮御所へ參賀 午後三時五十分ヨリ同四時迄

二日正從五位ノ輩

拜賀 午前十時

青山御所へ參賀 午前十一時ヨリ午後四時迄

東宮御所へ參賀 午前十一時二十分ヨリ午後四時迄

○元始祭 一月三日

有爵位有位ノ輩大禮服着用午十二時ヨリ午後一時迄ニ參拜スヘシ

○新年宴會 一月五日

酒饌下賜ハルニ付有爵位有位ノ輩大禮服着用午前十時ヨリ午十二時迄ニ芝離宮へ參上スヘシ

○孝明天皇御例祭 一月三十日

元始祭ニ同シ

○紀元節 二月十一日

有爵位有位ノ輩大禮服着用午十二時ヨリ午後二時マテニ拜賀且御祭典ニ付參拜スヘシ

前項ノ輩へ酒饌下賜ハルニ付午前十時ヨリ午十二時マテニ芝離宮へ參上スヘシ

○春季祭 春分日

元始祭ニ同シ

○神武天皇御例祭 四月三日

元始祭ニ同シ

○秋季祭 秋分日

元始祭ニ同シ

○神嘗祭 十月十七日

元始祭ニ同シ

○天長節 十一月三日

有爵位有位ノ輩大禮服着用午前九時ヨリ午後二時マテニ參賀スヘシ

前項ノ輩へ酒饌下賜ハルニ付午前十時ヨリ午十二時マテニ芝離宮へ參上スヘシ

○歲末御祝詞 十二月二十九日ヨリ三日ノ内

有爵位有位ノ輩通常服着用參内歲末御祝詞申上クヘシ

官報抄錄二十二年十二月二十八日

昨二十七日爵位局長第十七號參賀及參拜等心得中新年宴會ハ明治二十三年ニ限リ一月六日ト心得ヘキ

旨昨二十七日岩倉爵位局長ヨリ在京華族へ達シ又同二十三年以降恒例式典ノ節參賀及參拜等心得方別

紙ノ通在京華族へ達シタルニ附キ恒例式典ニ際シ出京シタル者ハ參賀參拜等總テ其心得方ニ依ルヘキ

旨ヲ同日附同局長ヨリ京都及散在華族へ達シ又自今公文式ニ依リ官報ニ登載スルモノハ別ニ達示セザ

ル旨ヲ同日附同局長ヨリ華族へ達セリ

官報抄錄二十三年十月二十五日

明治二十二年爵位局長第十七號參賀及參拜等心得中天長節第一項參賀時間午前九時ヨリ午後二時迄ト

アルヲ自今年十二月ヨリ午後二時迄ト改定スル旨ヲ昨二十四日岩倉爵位局長ヨリ華族へ達シタリ

内閣書記官稟候 二十三年十二月九日
別紙ノ通宮内省ヨリ來ル明治二十四年朔拜ノ節帝國議會議長副議長議員取扱方ノ儀照會有之右ハ照會

朔拜ノ節帝國議會議長副議長議員取扱方ノ定

ノ通取扱ヒ然ル可キ旨返答スヘキ哉十二月十日多田書記官ヨリ丹羽式部主事ヘ口頭ニテ返答済但本番ハ其節返却

一兩院議長副議長議員朝拜ノ節在官有爵有位有勳者ハ其本身分ヲ以テ取扱ノ事

一新年宴會ニハ在京議員ヘ各議院ニ於テ賜饌ノ事

紀元節天皇節ニハ賜饌ノミ下ツレノ事

一大勳位 親任官 勳一等 勳任官 勳香間祇候 勳鷄間祇候 有爵者 從四位以上

右夫人同伴

一非役勳二等以下三等以上 奏任官三等以上

右獨禮ニテ拜賀

一奏任官四等以下 非役正五位以下從六位以上 非役勳四等以下六等以上

右一同列立通御掛ケ拜賀

儀制門 儀制總

式部職通牒二十三年十二月十一日 元元老院議官陸海軍豫備將官

年中恒例御祭典等ノ節自今其都度御通牒不致候條別紙ノ通豫テ御承知置有之度此段申入候也

但時刻其他變更有之節ハ其際御通牒可致候

追テ御祭典不參ノ節ハ其時々屆書御差出可有之候也

(別紙)

一月二日

元始祭

一月三十日

孝明天皇御例祭

二月十一日

紀元節御祭典

三月 春分日

春季皇靈竝神殿祭

四月二日

神武天皇御例祭

九月 秋分日

秋季皇靈竝神殿祭

十月十七日

神嘗祭

右當日午前九時四十分大禮服着用

賢所前參集所へ參集

十一月二十三日

新嘗祭

右當日午後五時四十分同上

一月

陸軍始觀兵式

(當日雨雪ノ節ハ該式行ハセラレズ)

右陪觀ノ節ハ大禮服着用午前九時四十分參場

十一月

天皇節觀兵式

(當日大雨又ハ當日微雨ニテモ該式行ハセラレズ)

右陪觀ノ節ハ大禮服着用午前八時四十分參場

十二月二十九日ヨリ三日ノ内

歲末御祝詞言上ノ爲メ參内

右通常服コート著用

式部職通牒 二十三年十二月十七日
年中恒例御祭典等ノ節參集ノ儀去ル十一日附テ以及御通牒置候處右スリモノハ文官ノ向ヘ通知可致分
ニ付別紙ト引替御返附有之度此段申入候也
(別紙)

- 一月三日 元始祭
- 一月三十日 孝明天皇御例祭
- 二月十一日 紀元節御祭典
- 三月春分日 春季皇靈竝神殿祭
- 四月三日 神武天皇御例祭
- 九月秋分日 秋季皇靈竝神殿祭
- 十月十七日 神嘗祭
- 右當日午前九時四十分正裝着用賢所前參集所へ參集
- 十一月二十三日 新嘗祭

右當日午後五時四十分同上

一月

陸軍始觀兵式

(當日雨雪ノ節ハ該式行ハセラレヌ)

右階觀ノ節ハ正裝着用午前九時四十分參場

十一月

天長節觀兵式

(當日大雨又ハ當日微雨ニテモ該式行ハセラレヌ)

右階觀ノ節ハ正裝着用午前八時四十分參場

十二月二十九日ヨリ三日ノ内

歳末御祝詞言上ノ爲メ參内

右正裝着用

右文中豫備海軍將官へハ正裝ヲ大禮服ニ歳末御祝詞參内ヲ禮服ニ作ル

官報抄録 二十三年十二月二十七日

明治二十二年爵位局達第十七號參賀及參拜等心得中新年拜賀及參賀ノ項本年宮内省告示第二十九號ニ依リ左ノ通改定スル旨ヲ昨二十六日岩倉爵位局長ヨリ華族へ達セリ

拜賀及參賀心得

新年拜賀及參賀 一月一日、二日

一日侯伯子男爵及從四位以上同夫人

拜賀 午後二時十分

青山御所へ參賀 午後三時三十分ヨリ

同四時迄

東宮御所へ參賀 午後三時五十分ヨリ

爵位局長ヨリ恒例式典ノ節參賀及參拜心得申改定ノ旨ヲ華族ニ示ス

二百正從五位ノ輩

同四時迄

拜賀

午前九時三十分

青山御所へ參賀

午前十時三十分ヨリ

東宮御所へ參賀

午前十時五十分ヨリ

午後四時迄

午後四時迄

右大禮服用拜賀ハ時限三十分前參内スヘシ但拜賀不參ノ輩ハ三日前ニ屆書式部職へ差出スヘシ

宮内省達

第二十一號 六月十五日

大勳位以下宮中儀式上席次ヲ定ムル左ノ如シ

一大勳位

二親任官

内閣總理大臣

樞密院議長

各大臣

陸海軍大將

參軍

侍從長

元老院議長

樞密院副議長

樞密顧問官

大勳位以下宮中儀式上席次ヲ定ム
二十四年十二月宮内省達
甲第六號ヲ以テ宮中儀式上席次ヲ定ム

監軍

三公侍

四勳一等

旭日桐花章

旭日章

瑞寶章

五勳任一等

六勳任二等

七躰香間祇候

官報抄錄 二十二年十二月二十六日

一大臣願ニ依リ辭職ヲ許サル、モノ又ハ他官ニ轉任スルモノ其勳功ニ依リ特ニ前官ノ禮遇ヲ賜フコトアルヘシ

一前官ノ禮遇ヲ賜フモノ、席次ハ現任大臣ニ次ク

宮内省達

第二十三號 五月三十日

明治十七年十二月當省乙第十三號達宮中儀式上席次第七條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加フ

但從前ノ第八條ヲ第九條トシ第九條ヲ第十條トス

第八條 凡ソ官等降リタル者ハ現官等中ノ上席トス

前官大臣ノ禮遇及席次ヲ定ム

宮中儀式上席次規定申追加

十七年十二月宮内省達乙第十三號ハ第一編ニ在リ

明治二十二年新年御祭
典次第
明治二十一年以前ノ新年
御祭典次第ハ載テ第一編
ニ在リ

朝儀

四方拜次第 二十二年一月一日

午前第四時宮内省官員御裝飾ヲ奉仕ス 其儀神樂舎ニ簀薦ヲ敷キ四尺ノ御屏風二雙ヲ立廻シ中ニ御座
ヲ設ケ燈臺二基ヲ供ス 次宮内省官員庭上便宜ノ所ニ候ス
同五時御服畢リテ出御 御手水御劍御裾御草鞋御笏等侍從奉仕ス
御拜畢リテ賢所御拜(南階昇御)

賢所

皇靈 御拜御祭典次第 二十二年一月一日

神殿

午前第四時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 次宮内省官員著床 次開扉(三前) 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此
間奏樂 次祝詞
出御御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜畢リテ入御 賢所御鈴恒ノ如シ 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ 次宮内省官員
拜禮 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次開扉(三前) 此間奏樂 次各退出

賢所

皇靈 御祭典次第 二十二年一月二日

神殿

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 次式部職官員著床 次開扉(三前) 次神饌ヲ供ス 次祝詞 次神
饌ヲ撤ス 次開扉(三前) 次各退出
賢所
皇靈 御祭典次第 二十二年一月三日
神殿

總テ二日御祭典ニ同シ

元始祭次第 二十二年一月三日

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉任ス(大眞賢本恒ノ如シ) 次宮内省官員著床 次開扉(二前) 此間奏樂
 次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂
 同第十時勅任官及齋香間祇候著床
 出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ 親王大臣扈從 次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告
 文ヲ奏シ給フ畢リテ入御 賢所御鈴恒ノ如シ 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ 次親王大臣勅任官
 及齋香間祇候拜禮 次宮内省奏任官判任官拜禮 次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉(三前)
 此間奏樂 次各退出
 同第十一時宮内省官員著床 次開扉
 皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ
 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ
 正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜
 午後一時ヨリ同第二時迄奏任官准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上舊門跡寺院住職等參拜
 次閉扉 次各退出

明治二十二年新式ヲ定ム

二十一年以前ノ新式ハ舊式ニ在リ

宮内省告示 第二十八號 二十二年一月二十二日

來明治二十二年新式左ノ通定メラル

明治二十二年

新式

一日

午前五時

同七時

四方拜

晴御膳

同九時三十分

親王同妃並宮内省勅任官以上同夫人同省奏任官於内廷拜賀

同時

皇太后宮へ拜賀

大勳位親任官公爵從一位勳一等勅任官齋香間祇候同夫人等拜賀

同十時三十分

准勅任履外國人同夫人同上

大勳位親任官公爵從一位勳一等勅任官齋香間祇候同夫人等

同時

皇太后宮へ拜賀

文武奏任三等以上ノ輩拜賀

同十一時

同

青山御所へ參賀

各廳准奏任ノ輩宮内省へ參賀

同時

同

青山御所へ參賀

各國公使同夫人等祝賀

午後二時

侯伯子男爵及非役從四位以上同夫人等拜賀

同二時三十分

非役勳三等以上ノ輩同上

同三時三十分

神佛各宗派管長同上

同時

同

青山御所へ參賀

同時

勳三等以上外國人拜賀

時刻各廳ニ於テ定ム

准奏任履外國人並勳六等以上外國人同上

判任官並准判任ノ輩各廳へ參賀

二百

午前七時

晴御膳

同十時

文武奏任四等以下並無等奏任官拜賀

神職奏任同上

非役從六位以上同勳六等以上ノ輩同上

門跡寺院住職ノ輩同上

同

同十一時

青山御所へ參賀

非役正七位以下同勳七等以下ノ輩所在地方廳へ參賀

三日

時刻地方廳ニ
於テ定ム

午前七時

晴御膳

同十時

元始祭

賢所皇靈神殿等御親祭

四日

午前九時

政始

先奏 神宮ノ事

五日

午前十一時

新年宴會

親王大勳位親任官公爵勅任官爵香間祇候及各國公使等參内

在京奏任官ハ各廳

在京有爵者及有位華族ハ爵位局

八日

午前十時

陸軍始

官報抄錄二十一年十二月二十六日

來ル二十二年一月一日

拜賀 午後二時三十分 青山御所へ參賀 午後三時三十分

非役從四位以上同夫人非役勳三等以上ノ輩

同一月二日

拜賀 午前十時 青山御所へ參賀 午前十一時

非役從六位以上勳六等以上ノ輩

右時限二十分前參内スヘシ

式 部 職

官報抄錄二十一年十二月二十一日
來明治二十二年一月一日宮中ニ於テ日本帝國ノ勳六等以上ヲ帶フル外國人ノ新年祝賀ヲ受ケサセラル
ルニ付キ本月二十七日迄ニ名刺へ往所勳等ヲ記載シ本職へ宛テ差出スヘシ 但シ各官廳雇外國人ハ此
限ニアラス

式 部 職

官報抄錄二十一年十二月二十九日
爵位局長官ハ昨二十八日在京華族へ侯伯子男爵及從四位以上ノ輩并ニ同夫人ハ來ル二十二年一月一日
午後二時三十分拜賀同三時三十分青山御所へ參賀正從五位ノ輩ハ同日午前十時拜賀同十一時青山御
所へ參賀ノ旨ニ付キ一日ハ時限ヨリ二十分前ニ二日ハ三十分前ニ大禮服用參内スヘシ但シ不參ノ輩
ハ三日前ニ式部職へ向テ届書ヲ差出スヘキ旨ヲ達セリ

官報抄錄二十一年十二月二十六日
明治二十二年一月二日新年賀トシテ非役正七位以下同勳七等以下ノ輩午前九時當廳へ參賀スヘシ

東 京 府 廳

○二十二年十二月及二十三年十二月同文ノ廣告アリ東京府公報ニ見ユ
官報抄錄二十一年十二月二十六日
來明治二十二年一月三日元始祭ニ付キ非役從四位以上勳三等以上ノ輩ハ午十二時ヨリ午後一時マテニ
非役從六位以上勳六等以上ノ輩ハ午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スヘシ

式 部 職

官報抄錄二十一年十二月二十九日
爵位局長官ハ昨二十八日在京華族へ來ル二十二年一月三日元始祭ニ付キ有爵并ニ有位ノ輩大禮服用著用
ニテ午十二時ヨリ午後一時迄ニ有爵并ニ從四位以上ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ正從五位ノ輩參拜ス
ヘキ旨ヲ達セリ

明年二十三年新年御祭典次第
明年二十三年一月一日

賢所

皇靈 御拜御祭典次第

神殿

午前第四時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

次式部職官員著床 次開扉(三前)

此間奏樂 次神饌ヲ供ス

此間奏樂 次祝詞 出御御玉串ヲ奉

給ヒ 御拜畢テ 入御

賢所御鈴恒ノ如シ

御拜ノ間著床ノ諸員起ッ

次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉(三前)

此間奏樂 次各退出

明治二十三年一月一日

四方拜次第

午前第四時宮内省官員御裝飾ヲ奉仕ス(神嘉殿南庭ニ豫テ屋ヲ設ク)

其儀豫設ノ屋ノ中央ニ簀薦ヲ敷キ四尺ノ御屏風二雙ヲ立廻シ中ニ御座ヲ設ケ燈臺一基ヲ供ス

同五時御服畢テ 出御 御手水御劍御裾御草鞋御笏等侍從奉仕ス

御拜畢テ 賢所 皇靈 神殿 御拜

明年二十三年一月二日

賢所

皇靈 御祭典次第

神殿

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

次式部職官員著床 次開扉(三前)

次神饌ヲ供ス

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 次閉扉(三前)

次各退出

明治二十三年一月三日

賢所

皇靈 御祭典次第

神殿

總テ二日御祭典ニ同シ

明治二十三年一月三日

元始祭次第

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大眞賢木恒ノ如シ)

次宮内省官員著床 次開扉(三前)

此間奏樂 次神饌及御幣物ヲ供ス

此間奏樂 同第十時親王大

臣勅任官及麝香間祇候著床

出御 次御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ

畢テ入御

賢所御鈴恒ノ如シ 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ッ

次親王大勅任官及麝香間祇候拜禮 次宮内省奏任官判任官拜禮

次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏

樂 次閉扉(三前) 此間奏樂 次各退出

同第十一時宮内省官員著床 次開扉

皇太后陛下 皇后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ

次皇太子殿下御拜

御拜ノ間著床ノ諸員起ッ

正午十二時ヨリ午後第一時迄有爵者非役從四位以上同勳三等以上并神佛各宗派管長等參拜

同時奏任官准奏任及奏任待遇ノ雖非役從六位以上同勳六等以上奏任待遇ノ神職并門跡寺院住職等參

拜

午後第一時ヨリ同一時迄判任官准判任及判任待遇ノ輩等參拜
次閉扉 次各退出

明治二十三年新式
定

宮内省告示 第二十四號 二十二年十一月二十日

來明治二十三年新年式左ノ通定メラル

明治二十三年

新年式

一日

午前五時

四方拜
晴御膳

同 七時

親王同妃宮内省勅任官以上同夫人並奏任官等拜賀

同 九時三十分

大勳位親任官公爵從一位勳一等勅任官爵香間祇候同夫人等拜賀

同 十時

准勅任雇外國人同夫人拜賀

同 十時三十分

三等以上奏任官拜賀

同時

宮内省勅任官以上同夫人並奏任官等

午前十時五十分ヨリ

皇太后陛下へ拜賀

午前十二時迄

宮内省勅任官以上並奏任官等

午前十一時

皇太子殿下へ拜賀

同

奏任待遇ノ輩宮城へ參賀

午前十一時二十分ヨリ

大勳位親任官公爵從一位勳一等勅任官爵香間祇候同夫人等

午前十二時迄

皇太后陛下へ拜賀
大勳位親任官公爵從一位勳一等勅任官爵香間祇候等

皇太子殿下へ拜賀

午前十一時三十分ヨリ

三等以上奏任官

午後四時迄

青山御所へ參賀

午前十一時五十分ヨリ

三等以上奏任官

午後四時迄

東宮御所へ參賀

午後十二時ヨリ

奏任待遇ノ輩

午後四時迄

青山御所へ參賀

午後十二時二十分ヨリ

奏任待遇ノ輩

午後四時迄

東宮御所へ參賀

午後二時

各國公使同夫人等長拜賀

同一時三十分

侯伯子男爵及非役從四位以上同夫人等拜賀

同 二時

非役勳三等以上ノ輩拜賀

同 三時

神佛各宗派管長等拜賀

午後三時三十分ヨリ

勳三等以上外國人拜賀

同 四時迄

准奏任雇外國人並勳六等以上外國人拜賀

午後三時三十分ヨリ

侯伯子男爵及非役從四位以上同夫人

同 四時迄

非役勳三等以上ノ輩

午後三時五十分ヨリ

神佛各宗派管長等

同 四時迄

青山御所へ參賀

午後三時五十分ヨリ

侯伯子男爵及非役從四位以上ノ輩

同 四時迄

非役勳三等以上ノ輩

同 四時迄

神佛各宗派管長等

時刻各廳ニ於テ定ム

一日

午前七時
同 十時

東宮御所へ參賀
判任官准判任判任待遇ノ輩各廳へ參賀
晴御膳
四等以下奏任官並無等奏任官拜賀
奏任待遇ノ神職拜賀
非役從六位以上同勳六等以上ノ輩拜賀
門跡寺院住職ノ輩拜賀
四等以下奏任官並無等奏任官
奏任待遇ノ神職
非役從六位以上同勳六等以上ノ輩
門跡寺院住職ノ輩
青山御所へ參賀
四等以下奏任官並無等奏任官
奏任待遇ノ神職

午前十一時ヨリ
午後四時迄

午前十一時二十分ヨリ
午後四時迄

午後二時
同 二時二十分

非役從六位以上同勳六等以上ノ輩
門跡寺院住職ノ輩
東宮御所へ參賀
親王同妃
皇太后陛下へ拜賀
親王
皇太子殿下へ拜賀

時刻地方廳ニ於テ定ム

三日

午前七時
同 十時

晴御膳
元始祭
賢所 皇靈 神殿 御親祭

四日

午前九時

政始
先奏 神宮ノ事

六日

午前十一時

新年宴會
親王大勳位親任官公爵勳一等勅任官齋香間祇候及各國公使等

參 內
在京奏任官ハ各廳ニ於テ賜饌
在京有爵者及有位華族ハ芝離宮ニ於テ賜饌

八日

午前十時

陸軍始

官報抄錄二十二年十二月二十五日
來ル二十三年新年式宮内省告示第十四號ノ通被定タルニ付非役從六位以上勳六等以上ノ輩ニシテ當日拜賀ノタメ參上ノ節ハ時限三十分前參集スヘシ
官報抄錄二十二年十二月二十四日
來ル明治二十三年一月一日宮中ニ於テ日本帝國ノ勳六等以上ヲ帶フル外國人ノ新年祝賀ヲ受ケサセラ
ルハニ附キ本月二十六日マテニ名刺へ住所勳等ヲ記載シ當職へ宛差出スヘシ 但シ各官廳雇外國人ハ此限ニアラス
式 部 職

官報抄錄二十二年十二月二十六日

來ル二十三年一月三日元始祭ニ附キ非役従六位以上勳六等以上ノ輩午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜スヘシ

式部職

明治二十四年新年御祭典次第

官報抄録 二十三年十二月二十七日

明二十四年一月一日四方拜同日賢所、皇靈、神殿御拜御祭典二日三日賢所、皇靈、神殿御祭典三元始祭等ノ次第左ノ如シ

一日

四方拜次第

午前四時宮内省官員御裝飾ヲ奉仕ス(神嘉殿南庭ニ豫テ屋ヲ設ケ)

其儀豫設ノ屋ノ中央ニ簀薦ヲ敷キ四尺ノ御屏風ニ雙ヲ立廻シ中ニ御座ヲ設ケ燈臺ニ基ヲ供ス

同五時御服畢テ出御

御手水御劍御裾御草鞋御笏等侍從奉仕ス

御拜畢テ 賢所 皇靈 神殿御拜

賢所

皇靈 御拜御祭典次第

神殿

午前四時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

次式部職官員著床

次開扉(三前)

此間奏樂

次神饌ヲ供ス

此間奏樂

次祝詞

出御御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜畢テ入御

賢所御鈴恒ノ如シ

御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

次神饌ヲ撤ス

此間奏樂

次閉扉(三前)

此間奏樂

次各退出

二日

賢所

皇靈 御祭典次第

神殿

午前九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

次式部職官員著床

次開扉(三前)

次神饌ヲ供ス

次祝詞

次神饌ヲ撤ス

次閉扉(三前)

次各退出

三日

賢所 御祭典次第

神殿

時限神饌等總テ二日ニ同シ

元始祭次第

午前九時御殿ノ御飾裝ヲ奉仕ス(大眞賢木恒ノ如シ)

次宮内省官員著床

次開扉(三百)

此間奏樂

次神饌及御幣物ヲ供ス

此間奏樂

同十時親王及勅任官以上躰香間祇候錦鷄間祇候著床

出御

次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ畢テ入御

實所御鈴恒ノ如シ

御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ

次皇太子殿下御拜

此時著床ノ諸員起ツ

先是式部官御休所ヨリ御誘引

次親王及勅任官以上躰香間祇候錦鷄間祇候拜禮

次宮内省奏任官判任官拜禮

次御幣物及神饌ヲ撤ス

此間奏樂

次閉扉(三前)

此間奏樂

次各退出

同第十一時宮内省官員著床

次開扉

皇太后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ

皇后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ

御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

正午十二時ヨリ午後一時マテ有爵者非役從四位以上同勳三等以上并ニ神佛各宗派管長等參拜

同時奏任官准奏任及奏任待遇ノ輩非役從六位以上同勳六等以上等參拜

同時門跡寺院住職參拜

午後一時ヨリ同二時マテ判任官准判任及判任待遇ノ輩等參拜

次閉扉

次各退出

明治二十四年新年式ヲ定ム

宮内省告示 第二十九號 十二月二十二日

來明治二十四年新年式左ノ通定メラル

明治二十四年

新年式

一日

午前五時

四方拜

同 七時
同 九時三十分
同 十時

晴御膳
親王同妃宮内省勅任官以上同夫人並奏任官等拜賀
大勳位親任官公爵從一位勳一等勅任官齋香間祇候錦鷄間祇候同夫人等拜賀

同 十時十分

准勅任雇外國人同夫人拜賀
三等以上奏任官拜賀

同 十一時

奏任待遇ノ輩參賀
各國公使同夫人等拜賀

午後二時

侯伯子男爵及非役從四位以上同夫人等拜賀
非役勳三等以上ノ輩拜賀

同 二時二十分

神佛各宗派管長拜賀
勳三等以上外國人拜賀

午前十時三十分

准奏任雇外國人並勳六等以上外國人拜賀
宮内省勅任官以上同夫人並奏任官等

同 十一時

大勳位親任官公爵從一位勳一等勅任官齋香間祇候錦鷄間祇候同夫人等
皇太后陛下へ拜賀

午後十一時三十分ヨリ

三等以上奏任官

午後四時ヨリ

奏任待遇ノ輩

午後三時三十分ヨリ

侯伯子男爵及非役從四位以上同夫人
非役勳三等以上ノ輩

同 四時迄

神佛各宗派管長
青山御所へ拜賀

午前十一時五十分ヨリ
午前十二時迄
午前十二時二十分ヨリ

宮内省勅任官以上並奏任官等
大勳位親任官公爵從一位勳一等勅任官齋香間祇候錦鷄間祇候等
皇太子殿下へ拜賀

午後十一時五十分ヨリ

三等以上奏任官

午後四時迄

奏任待遇ノ輩

午後三時五十分ヨリ

侯伯子男爵及非役從四位以上ノ輩
非役勳三等以上ノ輩

同 四時迄

神佛各宗派管長
東宮御所へ參賀

時刻各廳ニ於テ定ム

判任官准判任判任待遇ノ輩各廳へ參賀

二日

晴御膳

午前七時
同 九時三十分

四等以下奏任官並無等奏任官拜賀
奏任待遇ノ神職拜賀

非役從六位以上同勳六等以上ノ輩拜賀
門跡寺院住職拜賀

貴族院衆議院正副議長議員拜賀
四等以下奏任官並無等奏任官

同 十一時三十分
午前十一時三十分ヨリ
午後四時迄

奏任待遇ノ神職
非役從六位以上同勳六等以上ノ輩

門跡寺院住職
青山御所へ參賀

午後二時
午前十時五十分ヨリ
午後四時迄

午後二時二十分

時刻地方廳ニ
於テ定ム

三日

午前七時
同 十時

四日

午前九時

五日

午前十一時

新年宴會

親王大勳位親任官公爵勳一等勳任官爵香間祇候錦雞間祇候及各國公使
等參内
在京奏任官ハ各廳ニ於テ賜饌

親王同妃
皇太后陛下へ拜賀
四等以下奏任官並無等奏任官
奏任待遇ノ神職
非役從六位以上同勳六等以上ノ輩
門跡寺院住職
東宮御所へ參賀
親王
皇太子殿下へ拜賀
非役正七位以下同勳七等以下ノ輩所在地方廳へ參賀

晴御膳

元始祭

賢所 皇靈 神殿 御親祭

政始

先奏 神宮ノ事

在京有爵者及有位華族ハ芝離宮ニ於テ賜饌
在京貴族院衆議院正副議長議員ハ各議院ニ於テ賜饌

八日
午前十時

陸軍始

式部長官通牒二十三年十二月二十二日
來二十四年新年式宮内省告示第二十九號ノ通牒定候ニ付拜賀トシテ參上ノ向ハ時刻三十分前參集候様
夫々御達可有之且新年宴會酒饌賜方例之通御取計有之度此段及御通知候也
但奏任待遇若クハ列任官以下ニシテ從六位以上ノ輩ハ有位帶勳ノ廉且在官者ニシテ貴族
衆議兩院議員タル者ハ在官ノ方ニテ拜賀被仰付候事
追テ拜賀不參ノ輩ハ三日前ニ常職へ届番差出候様御達有之度且當日宮殿内扣所ハ別紙之通ニ候也
扣所割

一月一日
一大勳位親任官公爵從一位勳一等勳任官爵香間祇候錦雞間祇候同夫人

一准勳任祿外國人同夫人
一門跡寺院住職

右西溜ノ間
一勳一等二等三等外國人
一准奏任祿外國人

右南溜ノ間
一勳四等五等六等外國人

一侯伯子男爵

一三等以上奏任官

一非役勳二等三等

一神佛各宗派管長

右東溜ノ間

一月二日
一陸軍四等以下將校並相當官

一貴族衆議兩院議員

右豐明殿
一海軍四等以下將校並准將校

右南溜ノ間
一文官四等以下奏任官並無等奏任官

一奏任待遇ノ神職
一非役正從五位正從六位
一同勳四等五等六等
右東溜ノ間

官報抄錄二十三年十二月二十三日
來ル二十四年新年式常省告示第二十九號ノ通被定タルニ附キ非役從六位以上同勳六等以上ニシテ拜賀
ノ輩ハ時刻三十分前參内スヘシ 但シ非役從一位同勳一等ノ輩ハ午前九時三十分參内ノ事

官報抄錄二十三年十二月二十三日
來ル明治二十四年一月一日宮中ニ於テ日本帝國ノ勳六等以上ヲ帶フル外國人ノ新年祝賀ヲ受サセラル
ルニ附キ本月二十六日マテニ其名刺ヘ住所勳等ヲ記載シ常職ヘ宛差出スヘシ 但シ各處雇外國人ハ此
限ニアラス

官報抄錄二十三年十二月二十六日
來ル二十四年一月三日元始祭ニ附キ非役從六位以上同勳六等以上ノ輩午十二時ヨリ午後一時マテニ參
拜スヘシ

式 部 職

官報抄錄二十一年一月六日

昨五日前十一時皇族、大臣、各國公使、勅任官ヲ宮中ニ召ツセラレ新年宴會ヲ行ハセラレタリ

政始次第 二十二年一月四日

當日午前九時各大臣樞密院議長元老院議長警視總監東京府知事等參朝ス

次正廳へ 出御

次大臣以下正廳へ著床

次神宮ノ事ヲ奏ス

此間 立御下臣做之

次各廳ノ事ヲ奏ス

明治二十一年新年宴會
ヲ行ハセラル

明治二十一年以前ノ政始
次第及宴會ハ第一編ニ在

次天裁畢テ 入御
次各退出

(用紙大奉書二折) ○神宮奏事ハ毎年同様ニ付以下畧ス

本省奏事

御大臣德二位勳二等子爵土方久元奏

神宮祭主申昨年中神事無異之

事

右及言上候也

明治二十二年一月四日

政始次第中神宮奏事

官報抄錄二十二年一月七日

一昨五日前十一時皇族、大勳位、親任官、公爵、勅任官、齋番、間祇候及各國公使ヲ宮中へ召ツセラレ新年
宴會ヲ行ハセラレタリ

官報抄錄二十一年十二月二十九日

爵位局長官ハ昨二十八日在京華族へ來ル二十二年一月五日新年宴會酒饌下賜ニ付キ有爵並ニ有位ノ輩
大禮服着用午前十時ヨリ午十二時迄ニ芝離宮へ參上スヘキ旨ヲ達セリ

政始次第 二十三年一月四日

當日午前九時各大臣樞密院議長元老院議長會計検査院長警視總監東京府知事等内閣へ參集

次内閣へ 出御

次大臣以下著床

次神宮ノ事ヲ奏ス

此間 立御臣下倣之

次各廳ノ事ヲ奏ス

次天裁畢テ 入御

次各退出

官報抄録 二十三年十二月二十八日

昨二十七日爵位局第十七號參賀及參拜等心得中新年宴會ハ明治二十三年ニ限リ一月六日ト心得ヘキ
旨昨二十七日岩倉爵位局長ヨリ在京華族へ達シ又同二十三年以降恒例式典ノ節參賀及參拜等心得方別
紙ノ通在京華族へ達シタルニ附キ恒例式典ニ際シ出京シタル者ハ參賀參拜等總テ其心得方ニ依ルヘキ
旨ヲ同日附同局長ヨリ京都及散在華族へ達シ又自今公文式ニ依リ官報ニ登載スルモノハ別ニ達示セサ
ル旨ヲ同日附同局長ヨリ華族へ達セリ

官報抄録 二十三年十二月二十七日

二十四年一月四日政始次第

當日午前九時各大臣樞密院議長會計検査院長警視總監東京府知事等内閣へ參集

次内閣へ 出御

明治二十四年政始次第

明治二十一年一月陸軍
始觀兵式

次大臣以下著床

次神宮ノ事ヲ奏ス

此間 立御臣下倣之

次各廳ノ事ヲ奏ス

次天裁畢テ 入御

次各退出

今七日執行スル陸軍始觀兵式手續書其他左ノ如シ

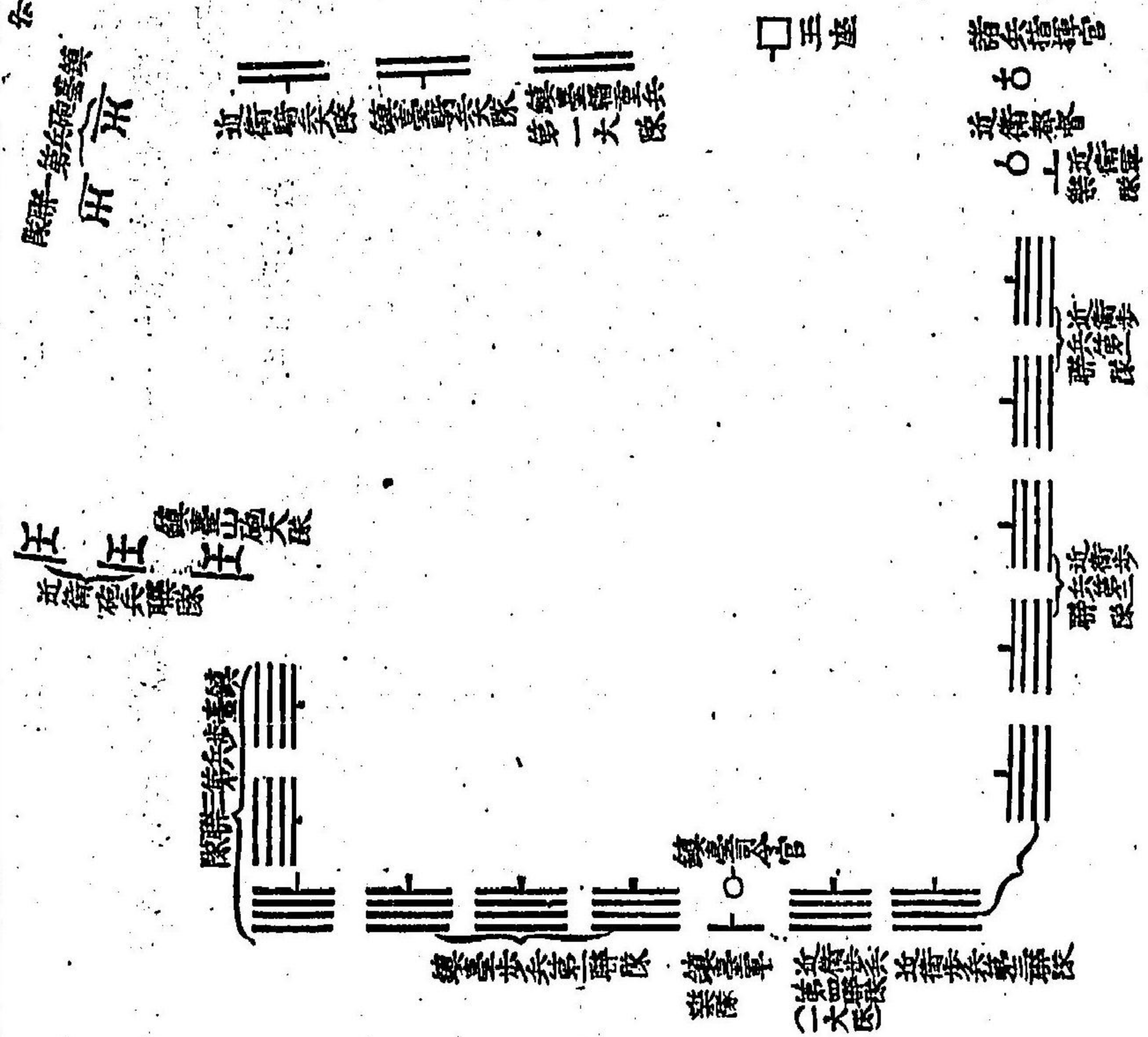
陸軍始觀兵式手續書

- 第一 觀兵式場ハ青山練兵場トス
- 第二 諸兵隊ハ當日午前第九時第一圖ノ如ク式場ニ整列ス
- 第三 陛下臨御アラントスル稍前ニ於テ諸兵指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲナス此號音ニテ步兵隊ハ著
劍肩銃シ他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ動作ヲナス
- 第四 陛下臨御アレハ諸兵指揮官先ツ式場東入口(青山御所西門前)ニ奉迎ス同時軍樂隊及諸隊ノ喇叭
卒ハ(君ケ代)一回ヲ吹奏ス諸兵隊ハ捧銃若クハ捧刀ヲ將校ハ刀ヲ以テ敬禮シ軍旗モ亦敬禮ヲナス
- 第五 閱兵ニ方リ諸兵指揮官ハ隊列ノ右翼定位ヨリ凡十歩ノ所ニ進ミ
陛下ヲ奉迎シテ以閱兵ノ奉導ヲナス
- 第六 諸兵隊ハ陛下其隊列ノ右翼ニ到リ給ヘハ捧銃若クハ捧刀ヲナシ軍樂隊及喇叭卒ハ(君ケ代)ヲ吹
奏シ將校軍旗モ亦敬禮ヲナス其隊ノ閱兵終リ喇叭ノ吹奏ヲ止ムルハ次隊ノ喇叭卒吹奏ヲ始ムル時ニ
於テス此時步兵隊ハ建銃ヲナシ他兵ハ之ニ準スルノ姿勢ヲナス
- 第八 諸兵指揮官ハ分列ノ爲メ「前へ」ノ號音ヲナス此ノ號音ニテ先頭部隊ヨリ順次ニ距離ヲ取り(著劍
ノ進行進ヲ始ム

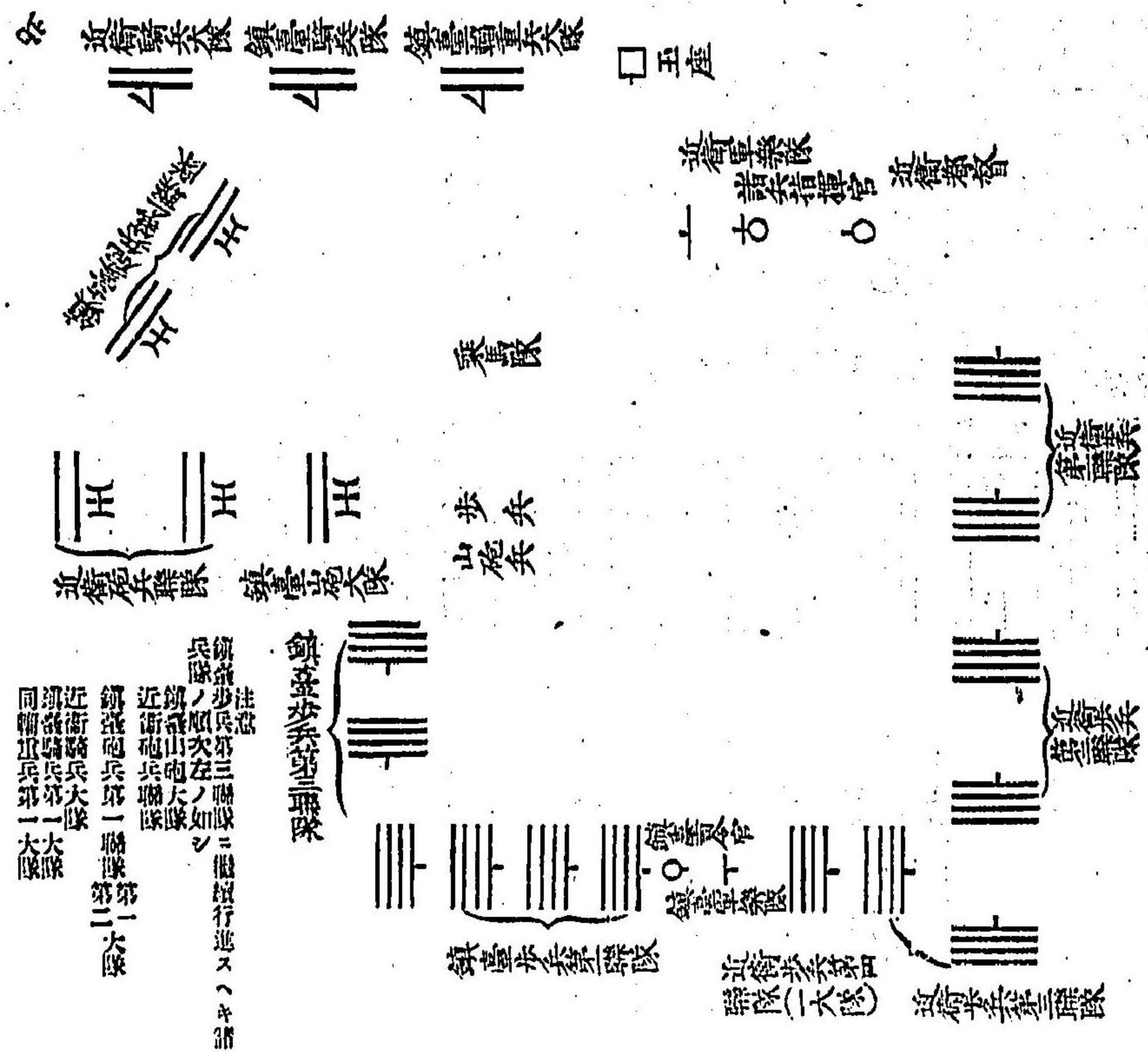
- 第九 分列ノ時諸兵指揮官ハ諸兵隊ヲ率テ行進シ刀ヲ以テ敬禮ヲ行ヒタル後テ陛下ニ對シ縱隊左側ヨリ二十歩ノ地ニ占位ス
 - 第十 分列ノ時軍樂隊ハ奏樂ヲナシツ、行進シ陛下ノ前面三十歩通過スルノ後テ左側面行ニテ諸兵指揮官ノ齊頭ノ地ニ到リ縱隊ノ左側ニ對シテ占位ス
 - 第十一 近衛軍樂隊ハ所屬步兵隊ノ分列間奏樂シ鎮臺軍樂隊ノ奏樂ヲ始ムルニ至レハ奏樂ヲ止メ依然其地ニ停止シ野砲兵、騎兵、輜重兵ノ分列間再ヒ奏樂速歩ノ禮ヲ終テ第三圖ニ示ス位地ニ移ル
 - 第十二 鎮臺軍樂隊ハ所屬步兵隊及山砲兵隊ノ分列間奏樂ヲ爲ス
 - 第十三 野砲兵、騎兵及輜重兵隊ノ分列ハ速歩ヲ以テス
 - 第十四 分列ノトキ步兵隊ハ陛下ヨリ五十歩ノ地ニ到レハ肩銃ヲナシ五十歩ヲ過クレハ擔銃ヲナス他ノ諸兵ハ之ニ準ス將校軍旗ハ陛下ヲ距ル六歩前ニ於テ敬禮ヲナシ六歩ヲ過キ舊姿勢ニ復ス
 - 第十五 分列終レハ逐次諸兵隊ハ第三圖ノ如ク閉合ノ隊形ヲ取り左側面トナリ步兵隊ハ建銃、他ノ諸兵ハ之ニ準スルノ姿勢ヲナシ奉送ノ準備ヲナス
 - 第十六 陛下還御ノ時諸兵指揮官ハ奉送ノタメ一聲ノ號音ヲナス此ノ號音ニテ軍樂隊及喇叭卒ハ(君ケ代)三回ヲ奏シ諸兵ハ捧銃若クハ捧刀ヲナシ將校軍旗モ亦敬禮ヲナス
 - 第十七 陛下還御ノ後諸兵指揮官ハ「解散」ノ號音ヲナス此ノ號音ニテ諸兵隊皆退場ス
- 注意書
- 一 觀兵式手續書ニ示スモノ、外敬禮其他ノ諸動作ハ騎兵砲兵及輜重兵ニ在テ其操典ノ明文ナキモノハ成ルヘク步兵操典附錄ニ準シ施行スヘシ
 - 一 但式場ノ都合ニヨリ諸隊ハ其定間隔ヲ減縮シ觀兵式手續書第一圖ニ示ス通り位置スヘシ
 - 一 分列ノトキ敬禮點ヲ表スルタメ陛下ヨリ五十歩前後ノ兩點ニ標兵ヲ置ク
 - 一 奉送ノタメ諸兵隊側面ノ隊形(第三圖)ニ轉スル時喇叭卒ハ其隊ノ後方ニ移ルヘシ
 - 一 輜重兵隊ハ乘馬編成ヲ以テ出場スヘシ

- 一 號音及傳令等ノタメ東京鎮臺騎兵大隊ヨリ下士二名喇叭卒二名當朝式場ニ於テ諸兵指揮官ノ許ニ出スヘシ
- 一 觀兵式ニ出場スヘキ諸兵隊將校以下ノ人員ヲ近衛鎮臺毎ニ取調當朝午前第九時十分迄ニ觀兵式場ニ於テ諸兵指揮官ニ報告スヘシ
- 一 當日雨天又ハ降雪ナレハ諸隊出場ニ及ハス

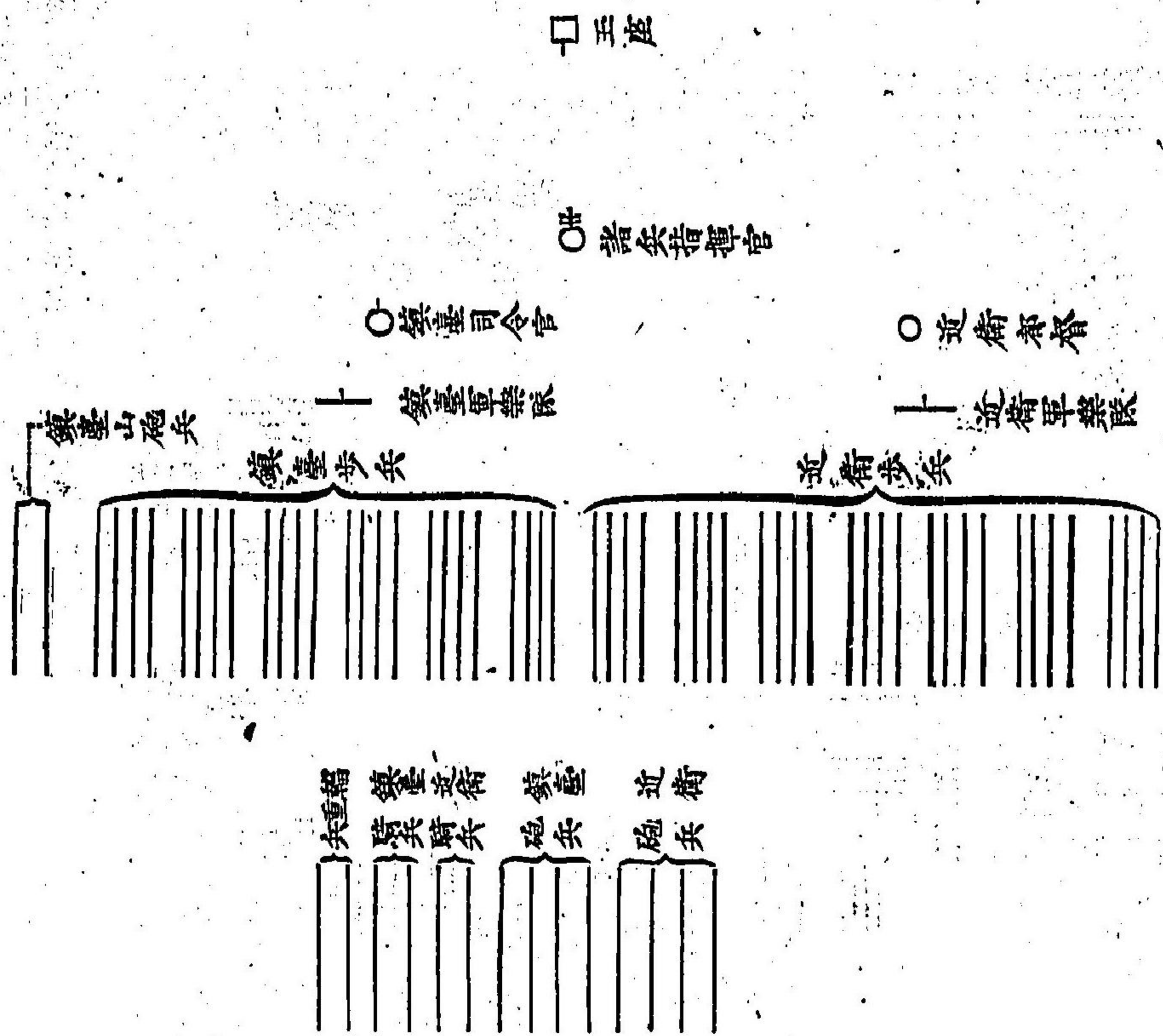
第一圖 形隊
步兵 閉縮大隊橫隊
砲兵 閉收間隔ノ橫隊
騎兵 中隊閉合縱隊



第二圖 隊分列
步兵 中隊全距離縱隊工兵準之
砲兵 閉合縱隊
騎兵 中隊縱隊輻重兵準之



第三圖形 歩兵左側面他兵陣之



宮内省ヨリ陸軍省へ通牒二十年十二月二十四日
 來明治二十一年一月七日陸軍始ニ付午前九時三十分御出門青山練兵場へ 行幸被爲在候旨被仰出候條
 此段及御達候也
 但當日雨雪ニ候ハ、行幸不被爲在候事
 宮内次官ヨリ參謀本部長へ通牒二十年十二月二十四日

前同文
 行幸被爲在候條此段及御通知候也
 但同文
 宮内次官ヨリ近衛都督へ通牒二十年十二月十四日

前同文
 行幸御遊第二公式ニ候條此段及御通知候也
 但同文
 追テ御遊筋ハ別紙之通有之候也

宮内省ヨリ陸軍省へ通牒二十年十二月十四日
 來二十一年一月八日陸軍始可被爲行ノ處同日ハ日曜ニ値ルヲ以テ七日ニ被爲行候旨被仰付候條此段申
 入候也
 式部職ヨリ陸軍省總務局長次長へ照會二十年十二月二日
 來二十一年陸軍始ノ儀ハ一月八日曜ニ相値候ニ付過ル十五年ノ通七日ニ御繰上ケ相成候テ御差支無
 之哉新年式何定ノ都合モ有之候間一應及御打合候條至急御回答有之度候也
 陸軍省總務局長次長ヨリ式部職へ回答二十年十二月六日
 來二十一年陸軍始ノ儀一月八日曜ニ付七日ニ御繰上ケ相成候テ差支無之哉云々御間合ノ趣了承
 右ハ七日ニ御繰上之儀被仰出候上ハ別段當省ニ於テハ差支無之候此段及御答候也

宮内大臣ヨリ陸軍大臣へ通牒二十年十二月二十六日
 來明治二十二年一月八日陸軍始ニ付午前九時三十分 御出門青山練兵場へ
 行幸被爲在候旨被 仰出候條此段及御達候
 但當日雨雪ニ候ハ、行幸不被爲在候事
 宮内大臣ヨリ近衛都督へ通牒二十一年十二月二十六日

明治二十二年同上

前同文
 行幸御遊第二公式ニ候條此段及御通知候也

但同文
追テ御道筋ハ別紙ノ通ニ有之候也
宮内大臣ヨリ警視總監ヘ通牒二十一年十二月二十六日

前同文
鹵簿第二公式ニ候條先驅ノ警視以下可被差出且御道筋別紙ノ通ニ有之候條支障有之候ハ、早々御申出可有之此段及御通達候也(御道筋)

式部職儀案二十一年十二月二十四日
奉明治二十二年一月八日陸軍始ニ付陸軍大臣以下ヘ送案別紙ノ通取調相伺候也
官報抄録二十二年一月七日

明八日執行スル陸軍始觀兵式手續其他左ノ如シ

- 第一 觀兵式場ハ青山練兵場トス
- 第二 諸兵隊ハ當日午前八時三十分第一號畧圖ノ如ク式場ニ整列ス
- 第三 陛下臨御アラントスル稍々前ニ於テ諸兵指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ爲ス此號音ニテ步兵隊ハ著劍肩銃シ他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ動作ヲ爲ス
- 第四 陛下臨御アレハ諸兵指揮官先ツ式場東入口青山御所西門前ニ奉迎ス同時軍樂隊及諸隊ノ喇叭卒ハ「君ケ代」ニ同テ吹奏ス諸兵隊ハ捧銃若クハ捧刀ヲ將校ハ刀ヲ以テ敬禮シ軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス
- 第五 閱兵ニ方リ諸兵指揮官ハ隊列ノ右翼定位ヨリ凡ソ十歩ノ所ニ進ミ陛下ヲ奉迎シ以テ閱兵ノ奉導ヲ爲ス
- 第六 諸兵隊ハ陛下其隊列ノ右翼ニ到リ給ヘハ捧銃若クハ捧刀ヲ爲シ軍樂隊及喇叭卒ハ「君ケ代」ヲ吹奏シ將校軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス其隊ノ閱兵終リ喇叭ノ吹奏ヲ止ムルハ次隊ノ喇叭卒吹奏ヲ始ムル時ニ於テス此時步兵隊ハ建銃ヲ爲シ他兵ハ之ニ準スルノ姿勢ヲ爲ス
- 第七 各隊長ハ其隊ノ閱兵終ルヤ第二號略圖ノ如ク隊形ヲ變換シ以テ分列ノ準備ヲ爲ス
- 第八 諸兵指揮官ハ分列ノ爲メ「前ヘ」ノ號音ヲ爲ス此號音ニテ先頭部隊ヨリ順次ニ距離ヲ取り著劍ノ儘行進ヲ始ム

第九 分列ノ時諸兵指揮官ハ諸兵隊ヲ率ヒ行進ノ刀ヲ以テ敬禮ヲ行ヒタル後陛下ニ對シ繼隊左側ヨリ二十歩ノ地ニ占位ス

第十 分列ノ時軍樂隊ハ奏樂ヲ爲シツ、行進シ陛下ノ前面三十歩通過スルノ後左側面行ニテ諸兵指揮官ノ齊頭ノ地ニ到リ繼隊ノ左側ニ對シ占位ス

第十一 近衛軍樂隊ハ所屬步兵隊ノ分列間奏樂シ軍樂基本隊ノ奏樂ヲ始ムルニ至レハ奏樂ヲ止メ第三號略圖ニ示ス位地ニ移ル

第十二 軍樂基本隊ハ所屬諸兵隊及近衛騎砲兵隊ノ分列間奏樂ヲ爲シ終テ第三號畧圖ニ示ス位地ニ移ル

第十三 野砲兵騎兵及輜重兵隊ノ分列ハ速歩ヲ以テス

第十四 分列ノ時步兵隊ハ陛下ヨリ五十歩ノ地ニ到レハ肩銃ヲ爲シ五十歩ヲ過クレハ擔銃ヲ爲ス他ノ諸兵ハ之ニ準ス將校軍旗ハ陛下ヲ距ル六歩前ニ於テ敬禮ヲ爲シ六歩ヲ過キ舊姿勢ニ復ス

第十五 分列終レハ逐次諸兵隊ハ第三號畧圖ノ如ク閉合ノ隊形ヲ取り左側面トナリ步兵隊ハ建銃他ノ諸兵ハ之ニ準スルノ姿勢ヲ爲シ奉送ノ準備ヲ爲ス

第十六 陛下還御ノ時諸兵指揮官ハ奉送ノタメ一聲ノ號音ヲ爲ス此號音ニテ軍樂隊及喇叭卒ハ「君ケ代」ニ同テ奏シ諸兵ハ捧銃若クハ捧刀ヲ爲シ將校軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス

第十七 陛下還御ノ後諸兵指揮官ハ「解散」ノ號音ヲ爲ス此號音ニテ諸兵隊皆退場ス

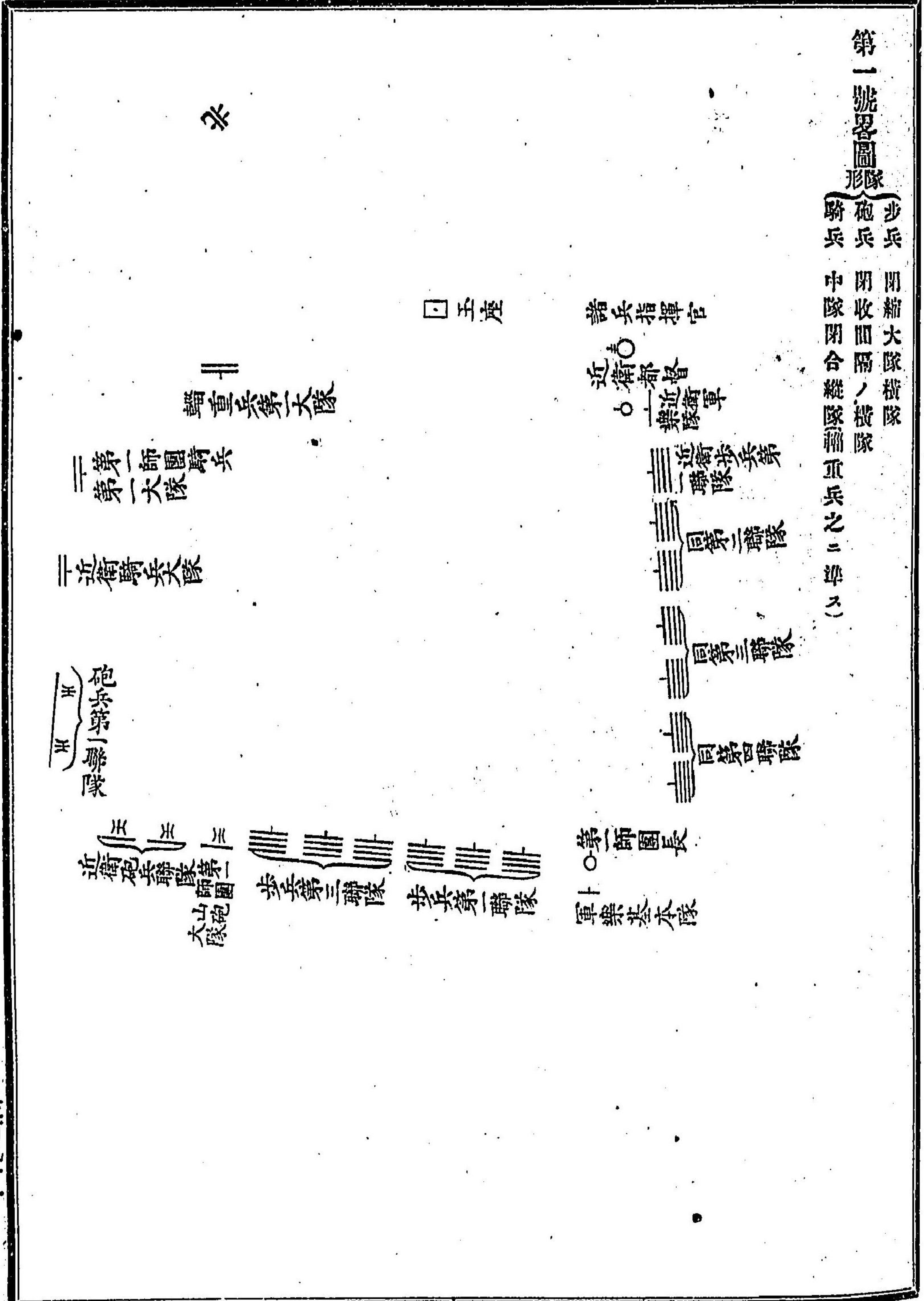
注意書

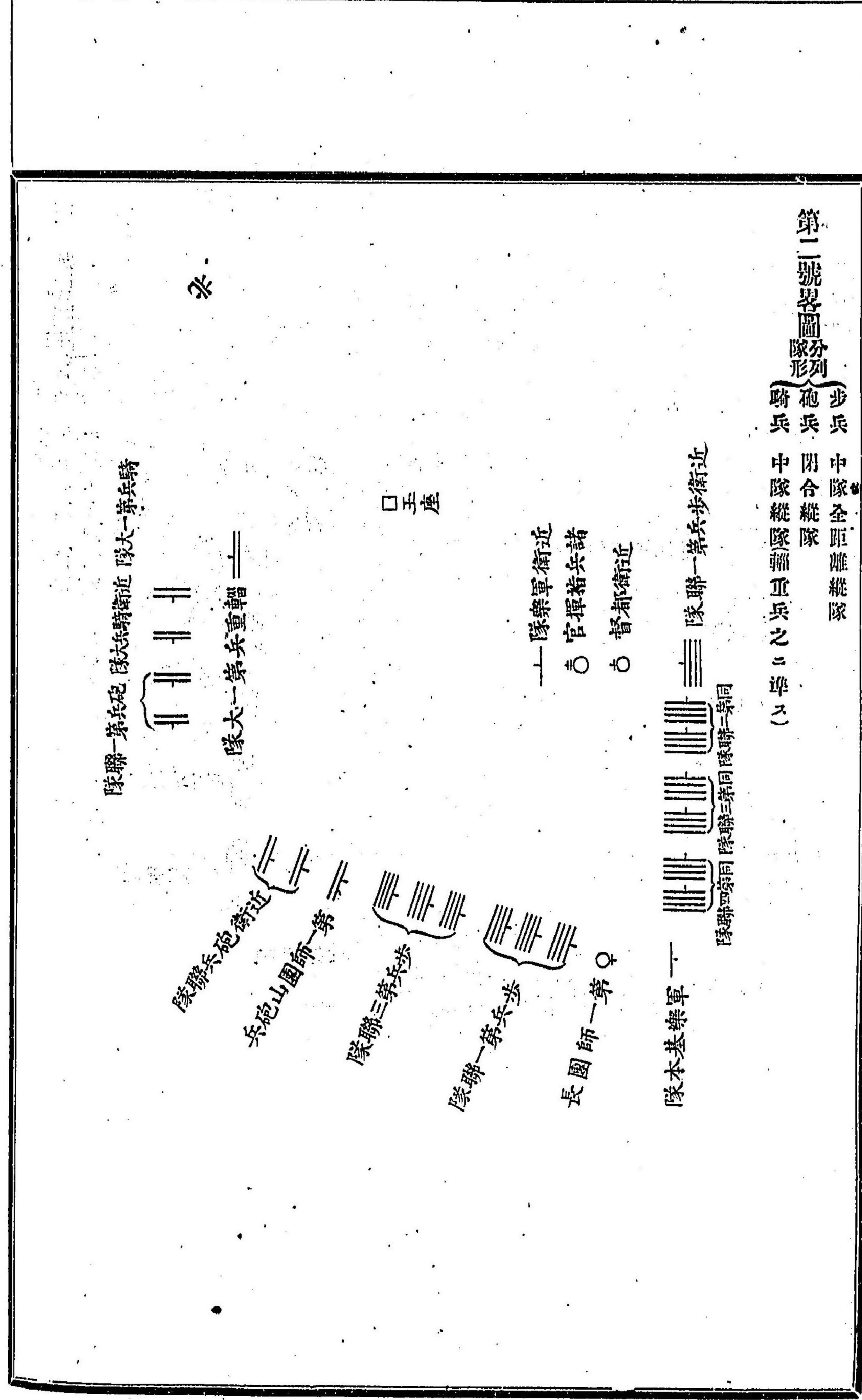
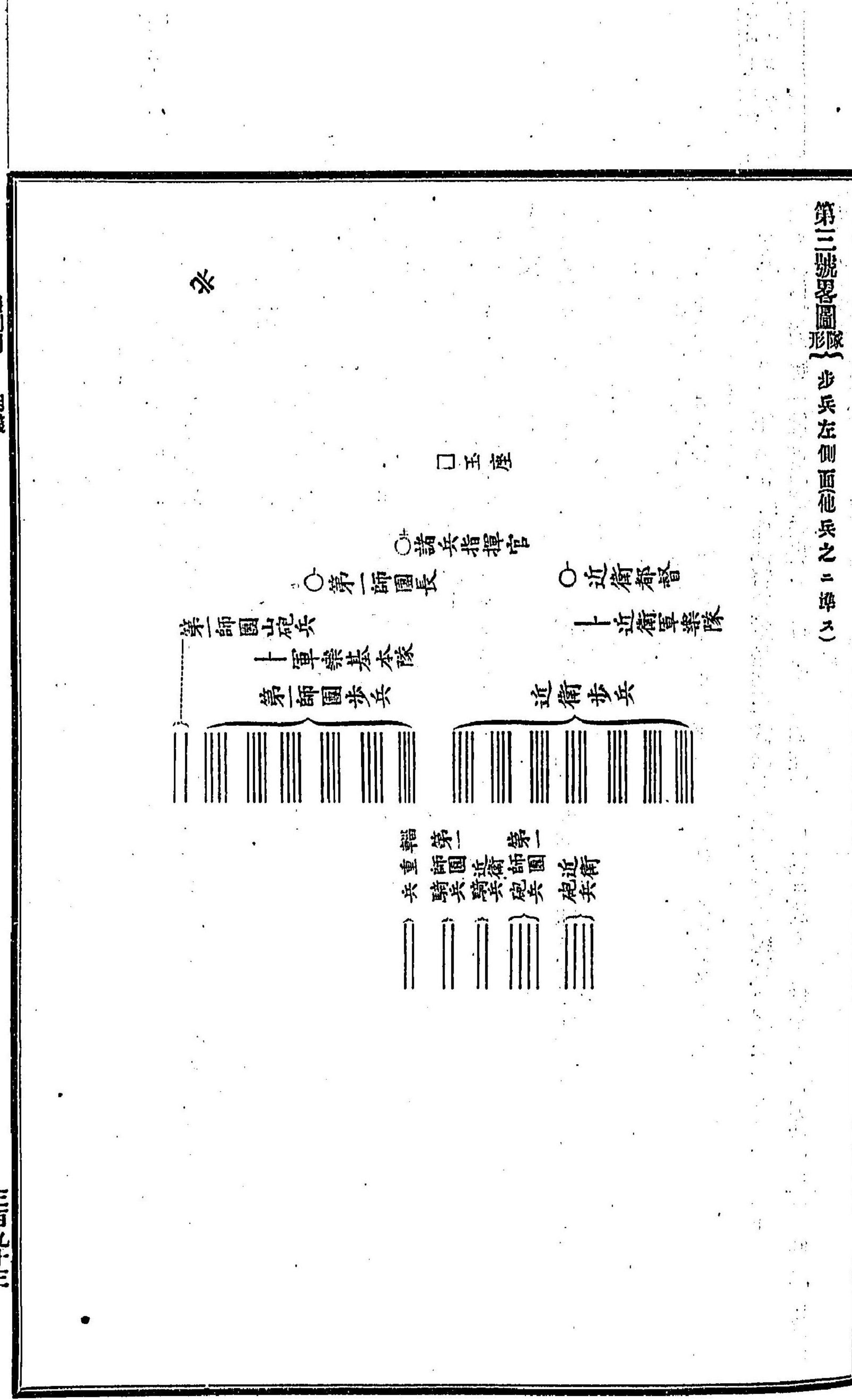
- 一 式場ノ都合ニ依リ諸隊ハ其定間隔ヲ減縮シ觀兵式手續書第一號畧圖ニ示ス通り位置スヘシ
- 一 分列ノ時敬禮點ヲ表スルタメ陛下ヨリ五十歩前後ノ兩點ニ標兵ヲ置ク
- 一 奉送ノタメ諸兵隊側面ノ隊形第三號畧圖ニ轉スル時喇叭卒ハ其隊ノ後方ニ移ルヘシ
- 一 輜重兵隊ハ乘馬編成ヲ以テ出場スヘシ
- 一 號音及傳令等ノタメ第一師團騎兵大隊ヨリ下士二名、兵卒二名、兵卒二名、喇叭卒二名當日式場ニ

- 於テ諸兵指令官ノ許ニ出スヘシ
- 一 觀兵式ニ出場スヘキ諸兵隊將校以下ノ人員表ヲ近衛師團毎ニ取調ヘ當日午前八時十分マテニ觀兵式場ニ於テ諸兵指令官ニ進呈スヘシ
 - 一 當日雨雪ナレハ諸隊出場ニ及ハス

第一號畧圖形

步兵 閉縮大隊橫隊
砲兵 閉收四兩ノ橫隊
騎兵 中隊閉合縱隊 騎兵之ニ準ス





官報抄錄二十二年一月九日
昨八日陸軍始ニ付キ儀ニ仰出タラレシ如ク午前九時三十分御出門青山練兵場へ行幸觀兵式行ハセラレ
同十一時十五分還幸アラセラレタリ

明治二十三年朝上

宮内省ヨリ陸軍大臣へ通牒 二十二年十二月二十六日
來二十三年一月八日陸軍始ニ付午前九時三十分 御出門青山練兵場へ 行幸被爲在候旨被 仰出候此
段及御達候也

但當日雨雪ニ候ハ、 行幸不被爲在候事

式部職ヨリ近衛都督へ通牒 二十二年十二月二十六日

前同文

行幸鹵簿第二公式ニ候條此段及御通知候也

但同文

追テ御道筋ハ別紙之通ニ有之候也

式部職ヨリ警視廳へ通牒 二十二年十二月二十六日

前同文

鹵簿第二公式ニ候條先驅ノ警視以下可被差出且御道筋別紙之通ニ有之候條支障有之候ハ、早々御申出
可有之此段及御通達候也(御道筋
書略ス)

但同文

式部職議案二十二年十二月四日
來二十三年一月八日陸軍始ニ付陸軍大臣以下へ送案別紙之通相伺候也

宮内大臣ヨリ陸軍大臣近衛都督陸軍始觀兵式諸兵指揮官警視總官へ達 二十三年一月六日

來ル八日陸軍始ニ付青山練兵場へ 行幸可被爲在處御風氣ニ依リ 行幸不被爲在候旨被 仰出候條此
段及御達候也

明治二十三年陸軍始觀
兵式へ御風氣ノ爲メ行
幸アラセラレシ

○近衛都督 陸軍始觀兵式諸兵指揮官へハ末文及御通知候也

○警視總監へハ末文及御通達候也

官報抄錄 二十三年一月七日

明八日陸軍始觀兵式ノ手續ハ左ノ如ク

陸軍始觀兵式手續

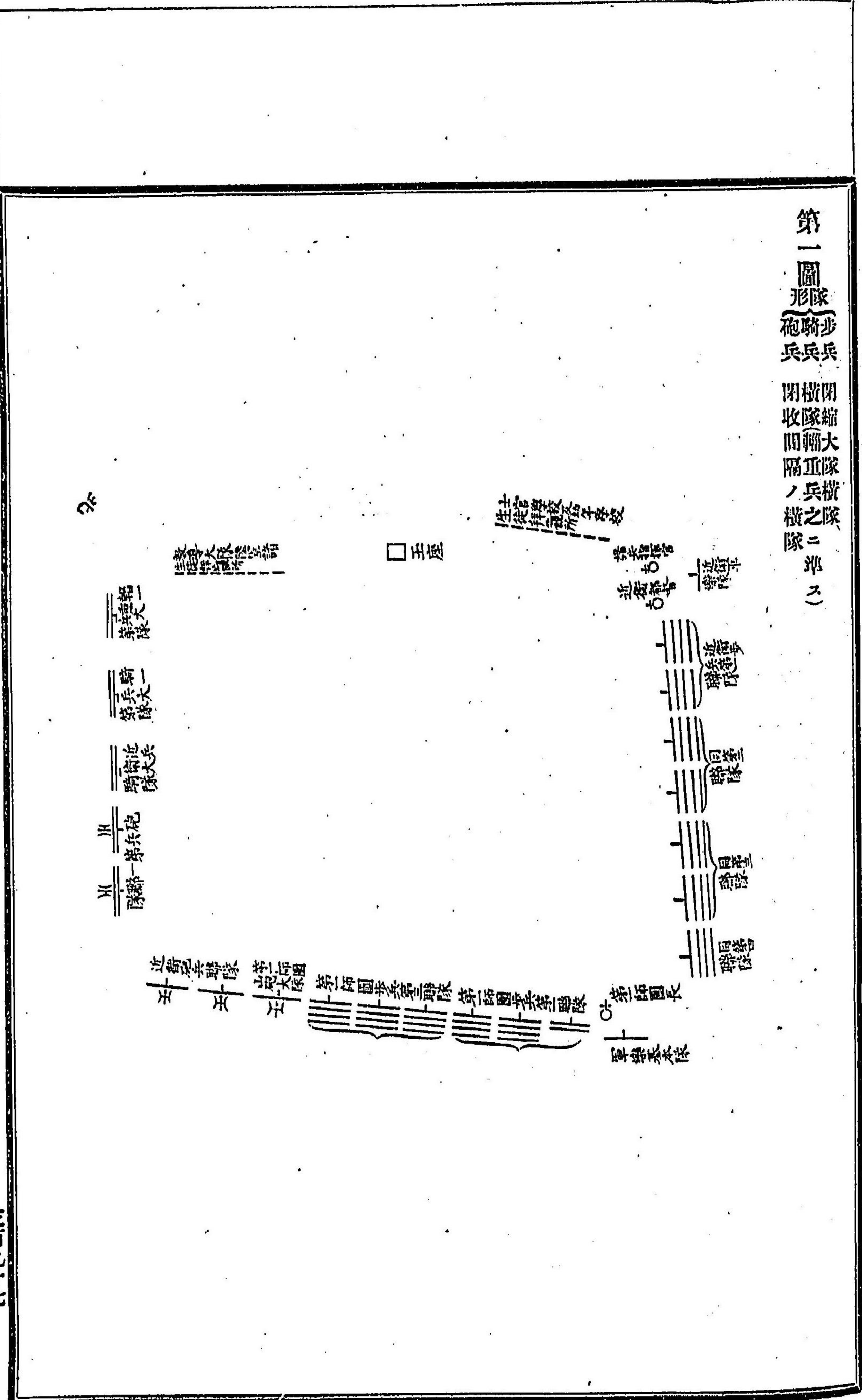
- 第一 觀兵式場ハ青山練兵場トス
- 第二 諸兵隊ハ當日午前九時第一圖ノ如ク式場ニ整列ス
- 第三 天皇陛下臨御アラントスル稍前ニ於テ諸兵指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ爲サシム此號音ニ於テ
步兵隊ハ著劍肩銃シ其他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ動作ヲ爲ス
- 第四 陛下臨御アレハ諸兵指揮官先ツ式場東入口(青山御所西門前)ニ奉迎ス同時軍樂隊及諸隊ノ喇叭
手ハ「君ケ代」一回ヲ吹奏ス諸兵隊ハ捧銃若クハ捧刀ヲ將校ハ刀ヲ以テ敬禮シ軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス
- 第五 閱兵ニ方リ諸兵指揮官ハ隊列ノ右翼定位ヨリ凡ソ十歩ノ所ニ進ミ 陛下ヲ奉迎シ以テ閱兵ノ奉
導ヲ爲ス
- 第六 諸兵隊ハ 陛下其隊列ノ右翼ニ到リ給ヘハ捧銃若クハ捧刀ヲ爲シ軍樂隊及喇叭手ハ「君ケ代」ヲ
吹奏シ將校軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス其隊ノ閱兵終リ喇叭ノ吹奏ヲ止ムルハ次隊ノ喇叭手吹奏ヲ始ムル時
ニ於テス此時步兵隊ハ建銃ヲ爲シ其他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ姿勢ヲナス
- 第七 各隊長ハ其隊ノ閱兵終ルヤ第二圖ノ如ク隊形ヲ變換シ以テ分列ノ準備ヲ爲ス
- 第八 諸兵指揮官ハ分列ノ爲メ「前へ」ノ號音ヲ爲ス此號音ニ於テ先頭部隊ヨリ順次ニ距離ヲ取り(著劍
ノ儘)行進ヲ始ム
- 第九 分列ノ時諸兵指揮官ハ諸兵隊ヲ率ヒ行進シ刀ヲ以テ敬禮ヲ行ヒタル後 陛下ニ對シ縱隊左側ヨ
リ二十歩ノ地ニ占位ス
- 第十 分列ノ時近衛軍樂隊ハ奏樂ヲ爲シツ、進行シ 陛下ノ前面三十歩通過スルノ後左ニ方向ヲ變換
シテ諸兵指揮官ノ左側齊頭ノ地ニ到リ縱隊ニ面シテ占位シ所屬步兵隊ノ分列間奏樂ス

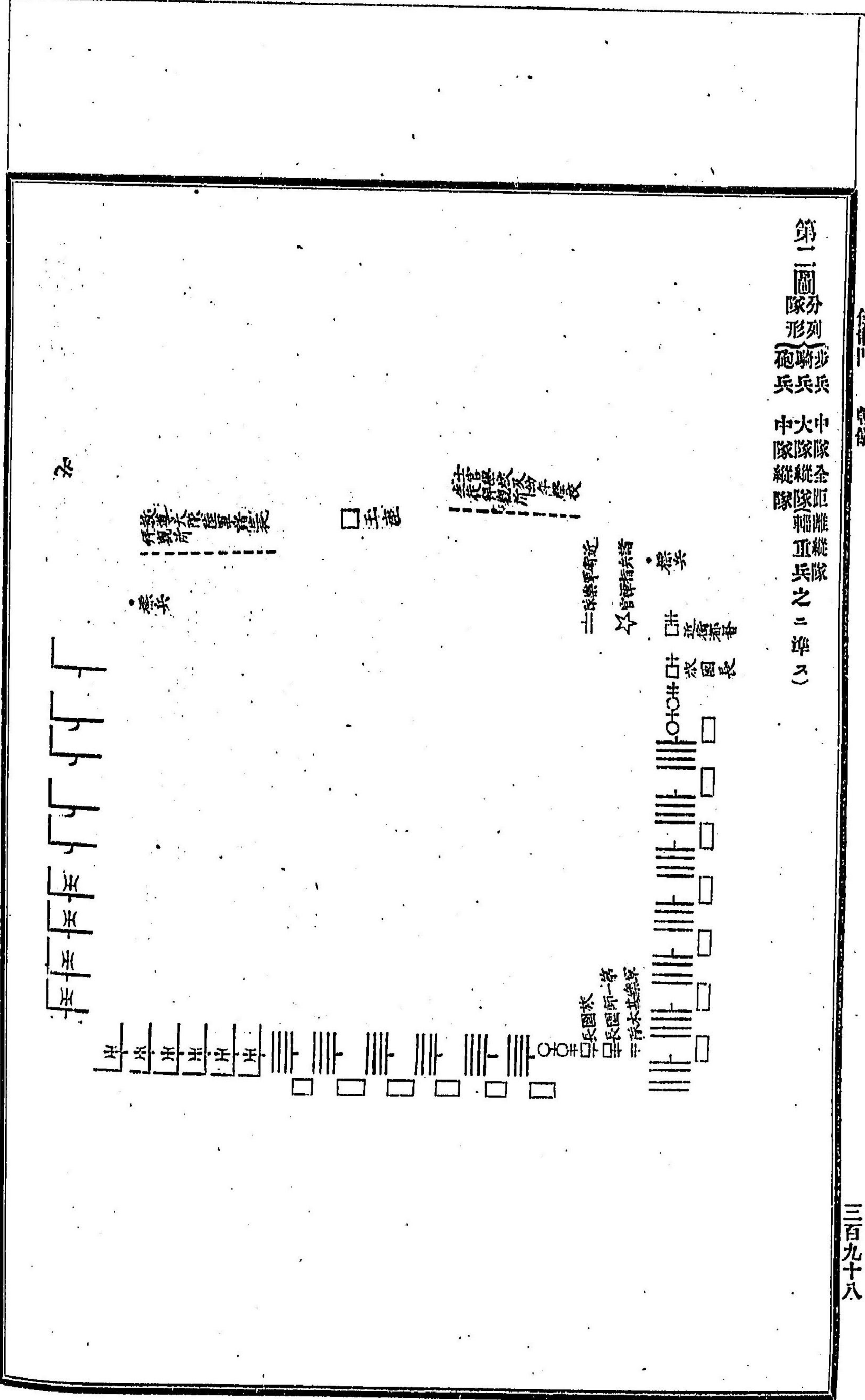
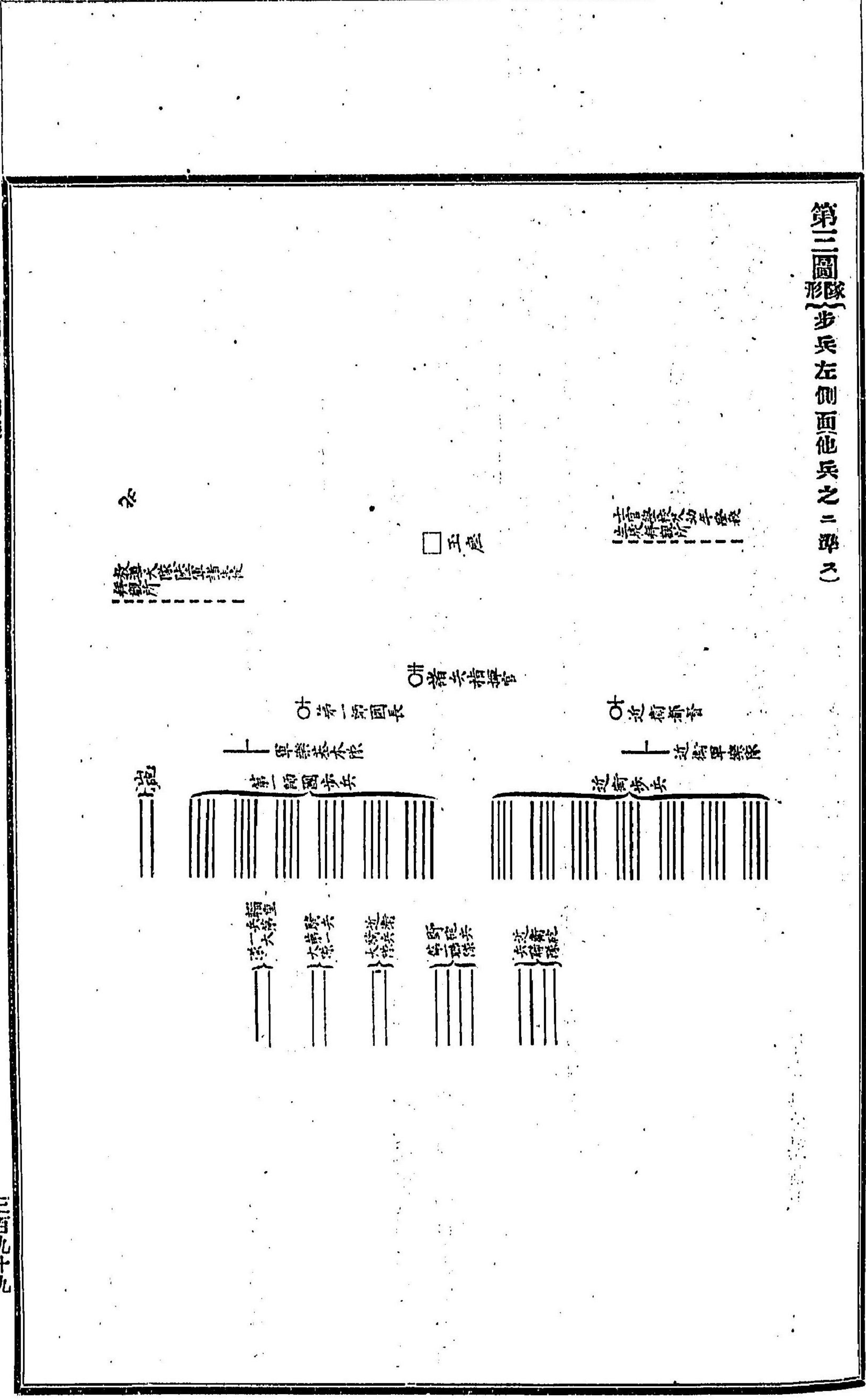
- 第十一 軍樂基本隊ハ近衛樂隊奏樂ヲ止ムルヤ直ニ奏樂ヲ始メ近衛軍樂隊ト同様ノ動作ヲ爲シ第一師團諸兵隊及近衛騎兵砲兵隊ノ分列間奏樂ヲ爲ス
- 第十二 近衛軍樂隊及軍樂基本隊ハ奏樂ヲ終レハ直ニ第二圖ニ示ス位置ニ移ル
- 第十三 野砲兵、騎兵及輜重兵隊ノ分列ハ速歩ヲ以テ行フ
- 第十四 分列ノ時步兵隊ハ 陛下ヨリ五十歩ノ地ニ到レハ肩銃ヲ爲シ五十歩ヲ過クレハ擔銃ヲ爲ス其他ノ諸兵隊ハ之ニ準ス將校及軍旗ハ 陛下ヲ距ル六歩前ニ於テ敬禮ヲ爲シ六歩ヲ過キ舊姿勢ニ復ス
- 第十五 分列終レハ逐次諸兵隊ハ第三圖ノ如ク閉合ノ隊形ヲ取り左側面ト爲リ步兵隊ハ建銃其他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ姿勢ヲ爲シ奉送ノ準備ヲ爲ス
- 第十六 陛下還御ノ時諸兵指揮官ハ奉送ノタメ一聲ノ號音ヲ爲シム此號音ニ於テ軍樂隊及喇叭手ハ「君ヶ代」三回ヲ吹奏シ諸兵ハ捧銃若クハ捧刀ヲ爲シ將校軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス
- 第十七 陛下還御ノ後諸兵指揮官ハ「解散」ノ號音ヲ爲シム此號音ニ於テ諸兵隊皆退場ス

注意書

- 一 式場ノ都合ニ由リ諸隊ハ其定間隔ヲ減縮シ觀兵式手續第一圖ニ示ス通位置スヘシ
- 一 分列ノ敬禮點ヲ表スルタメ 陛下ヨリ五十歩前後ノ兩點ニ標兵ヲ置ク
- 一 奉送ノタメ諸兵隊側面ノ隊形(第二圖)ニ轉スル時喇叭手ハ其隊ノ後方ニ移ルヘシ
- 一 輜重兵隊ハ乘馬編成ヲ以テ出場スヘシ
- 一 號音及傳令等ノタメ近衛騎兵大隊ヨリ下士二名喇叭手一名第一師團騎兵第一大隊ヨリ下士若クハ上等兵二名當日午前九時マテニ諸兵指揮官ノ許ニ出スヘシ
- 一 觀兵式ニ出場スヘキ諸兵隊將校以下ノ人員表ヲ近衛師團毎ニ取調當日午前九時マテニ觀兵式場ニ於テ諸兵指揮官ニ進呈スヘシ
- 一 諸兵指揮官ハ當日午前九時ヨリ式場玉座前面ニアリ
- 一 新兵ハ各所屬隊ノ後方適宜ノ處ニアリテ閱兵ヲ受クヘシ
- 一 當日雨雪ナレハ諸隊出場ニ及ハス

第一圖 隊形(步兵、騎兵、砲兵、輜重兵、近衛騎兵、近衛砲兵、近衛軍樂隊、軍樂基本隊、第一師團、第二師團、第三師團、第四師團、第五師團、第六師團、第七師團、第八師團、第九師團、第十師團、第十一師團、第十二師團、第十三師團、第十四師團、第十五師團、第十六師團、第十七師團、第十八師團、第十九師團、第二十師團、第二十一師團、第二十二師團、第二十三師團、第二十四師團、第二十五師團、第二十六師團、第二十七師團、第二十八師團、第二十九師團、第三十師團、第三十一師團、第三十二師團、第三十三師團、第三十四師團、第三十五師團、第三十六師團、第三十七師團、第三十八師團、第三十九師團、第四十師團、第四十一師團、第四十二師團、第四十三師團、第四十四師團、第四十五師團、第四十六師團、第四十七師團、第四十八師團、第四十九師團、第五十師團、第五十一師團、第五十二師團、第五十三師團、第五十四師團、第五十五師團、第五十六師團、第五十七師團、第五十八師團、第五十九師團、第六十師團、第六十一師團、第六十二師團、第六十三師團、第六十四師團、第六十五師團、第六十六師團、第六十七師團、第六十八師團、第六十九師團、第七十師團、第七十一師團、第七十二師團、第七十三師團、第七十四師團、第七十五師團、第七十六師團、第七十七師團、第七十八師團、第七十九師團、第八十師團、第八十一師團、第八十二師團、第八十三師團、第八十四師團、第八十五師團、第八十六師團、第八十七師團、第八十八師團、第八十九師團、第九十師團、第九十一師團、第九十二師團、第九十三師團、第九十四師團、第九十五師團、第九十六師團、第九十七師團、第九十八師團、第九十九師團、第一百師團)





明治二十一年御講書始
明治二十年以前ノ御講書
第八第一編ニ在リ

官報抄録 二十一年一月七日
昨六日午前十時御講書始ニ付キ福羽元老院議官ハ國書ヲ元田宮中顧問官ハ漢書ヲ西村宮中顧問官ハ洋書ヲ各進講セリ

明治二十二年同上

官報抄録 二十二年一月八日

昨七日午前十時宮中ニ於テ御講書始ヲ行ハセラル元田樞密顧問官ハ大學平天下ノ傳ヲ高崎式部次官ハ萬葉集卷八 元正天皇御製ヲ西村宮中顧問官ハ吳氏公法便覽ノ偃武論ヲ奉仕セリ

明治二十三年同上

官報抄録 二十三年一月八日

昨七日午前十時宮中ニ於テ御講書始ヲ行ハセラル元田樞密顧問官ハ周易泰ノ卦ニ爻包荒用馮河ノ一爻辭ヲ、西村宮中顧問官ハツエルタル萬國史獨逸史中ノ一章ヲ、文科大學教授物集高見ハ續日本紀慶雲四年夏四月壬午ノ詔詞ヲ進講セリ

明治二十一年御講書始
行ハセラル
御製及進講式並進講者
以下ヲ定ムルハ第一編ニ
在リ

官報抄録 二十一年一月十九日

昨十八日午前十時宮中ニ於テ歌御會始行ハセラル 御製并ニ詠進ノ歌左ノ如シ

雪埋松

御製

うなはらハ緑にはれて濱松のこすまさやかにふれる白雪

皇后宮御歌

ふる雪をまのまてたてる松にこそ千年経ぬへきかけはみえけれ

ふりつめるはさほさながら雪の山みるこゝちする庭の老松

一品大勳位貞親王

陸軍大佐 二品大勳位貞愛親王

貞愛親王妃利子

かけ高きみその松もおしなへてましろに雪をふりつゆりける

ふる雪にうつもれながら山まつのかはらぬ色を君にみすらん

白雪にうつもれながら色かへぬ緑を松のみさをなりける

見えたしのたかねの松もうつもれて山まつかなるゆきのあけほの

ゆたかなるとしのためしの大雪をみそのまつのうへにみるかな

ふりつめる雪のなかにもうつ高く見ゆるは松の梢なりけり

白雪にうつもれはて山松の枝もならさぬ御代をめてたさ

春近き御園の松は雪の内にもえぬときはの色やをふらん

高砂の松の葉うつむら雪にそらの緑をいろまさりける

きしなれしよはのあらしも音絶て雪こそつゆれ美その生の松

ときはなる松のこすまもみえぬまてふりつゆりけりけさの白雪

- 宮中顧問官正三位勳一等伯爵 藤原朝臣直大上
- 式部長官正三位勳二等侯爵 藤原朝臣直大上
- 宮内大臣從二位勳一等子爵 藤原朝臣久元上
- 宮中顧問官正三位勳一等伯爵 藤原朝臣高行上
- 皇太后宮大夫兼内藏頭從三位勳二等子爵 平朝臣孫七郎上
- 皇后宮大夫從三位勳二等子爵 藤原朝臣敬三上
- 宮中顧問官從四位勳三等藤原朝臣永季上
- 春近き御園の松は雪の内にもえぬときはの色やをふらん
- 題者點者 御歌掛長式部次官從四位勳三等男爵 藤原朝臣正風上
- 高砂の松の葉うつむら雪にそらの緑をいろまさりける
- 讀 師
- 從一位侯爵 藤原朝臣忠禮上
- 講 頌
- 從一位藤原朝臣實徳上

講 頌

山さとのまつのあらごもつふれてのまはまつかにつもる雪哉
正四位伯爵_臣源朝臣重朝_上

とけやすき雪にはあれと松かえよつめれは千代のものところみれ
御歌掛參候正三位子爵_臣平朝臣時萬_上

あさからすたち一あとのみとどりにて雪こそつめれのきの松かえ
從三位子爵_臣大江朝臣元敏_上

おは庭のこすまもこかぬ雪のうち松の姿はあらはれにけり
御歌掛參候從三位子爵_臣藤原朝臣敬直_上

ときはなるみどりも雪にうつもれてまじろになりぬ軒の松かえ
御歌掛參候正四位子爵_臣源朝臣有良_上

いけみつにうつるをみれば雪ふかき松もみどりはかくれさりけり
正四位子爵_臣菅原朝臣利豐_上

ふら雪はふりつめれども萬代のまつ姿はかくれさりけり
學典正四位子爵_臣藤原朝臣光昭_上

ふら雪にときはのいろをゆつりたる松のころろの高くも有哉
正四位子爵_臣藤原朝臣爲柔_上

雪ふかき大内山の松かえにのほるあさ日のかけののとけさ
正五位子爵_臣源朝臣忠敬_上

いけみつにうつらふかけはみどりにてまつのとあろく雪ふりにけり
權典侍正五位藤原愛子_上

兵庫縣書記官牧野仲顯妻牧野峰子_上

預撰歌

霧島神宮宮司正七位福崎季連_上

白雪をいたしきなから大君のみかきのもとにたてる松かな
愛知縣平民金原利彦_上

たつかねをうつみ残して大宮の松のうへしろうく雪ふりにけり
京都府平民三輪貞信_上

朔つく日光まはゆくさし出ぬ雪まじろなる山まつの上
京都府平民三輪貞信_上

うつめれぬものなき雪にいちしろうくみゆるは松の姿をりけり

明治二十二年上

官報抄録 二十二年一月十九日

昨十八日午前十時宮中ニ於テ歌御會始テ行ハセラル 御製并ニ詠進ノ歌左ノ如シ

水石契久

御製 さ、れ石のいはほとならん未かけてす、の川の水ハにこらし

皇后宮御歌 よろつよの龜石にこそか、りけれなられ絶せぬ宇治の河をみ

いしのはやせみの小河のさ、れ石のいはとなる代も君のみみるらん
一品大勳位晃親王

にこりなき水のひたせざるさ、れ石のいとどなるまてみよは動かし
故三品博經親王妃郁子

ことしよりみいけの水もうこそなきいとほと共にいよすむらん
内大臣從一位大勳位公爵_臣藤原朝臣實美_上

宮内大臣從二位勳一等子爵_臣源朝臣久元_上

うこそまきい はねをひたす新宮のみいけの水はいくよすむらん
侍従長正二位勳一等侯藤原朝臣實則上
菅ふらまいはまにたまるまじつゆいよくかはらぬ契なるらん

式部長官正三位勳二等侯藤原朝臣直大上
つよりのちきりなるらんいはねのうちよりいつる谷のしたみつ

皇太后宮大夫兼内藏頭從三位勳二等子爵平朝臣孫七郎上
たまかはのいはねのしみつすまなりく千代田のみやの池にたへん

皇后宮大夫從三位勳二等子爵源朝臣敬三上
このへの雲るの庭のいはまよりふさいつる水は千代もつきせし

題者點者 御歌所長式部次官從四位勳三等男爵藤原朝臣正風上
いはかねになつさふ水のことこへにたみのころも君によるらん

奉行 御歌所參候侍從正四位勳三等子爵藤原朝臣公業上
さしれ石のむらじきと入はしくせともいはねまたかき水のおとかな

讀師 正二位侯爵藤原朝臣忠順上
うこそまきい はねをひたして湧出るみつはつきせし萬代までよ

講頌 正四位伯爵源朝臣重朝上
さしれ石のいはねとならんすまぢてこいけの水やすみまざるらん

講頌 從四位伯爵藤原朝臣公康上
瀧のいとのをのき契を結ふらむまじのいはつこけむじよけり

講頌 從二位子爵源朝臣有仲上
さしれ石のいはねとならむ契ころみいけの水にこもりたるらめ

講師 正三位子爵藤原朝臣隨光上

いはらねに千世のちきりや結ふらむ雲井の庭の瀧のしらと

發聲

從三位勳三等子爵大江朝臣元敏上

いはほともなるへき末をぢきりてやさしれのうへを水のゆくらむ

講頌

正四位子爵菅原朝臣利豐上

ゆく水のたぬなかれよともをひてそこのさしれもいく世へぬらん

講頌

正五位子爵源朝臣忠敬上

苔むせる池のいはほのふりととりいく世かけてり水の染けむ

奉行

御歌所參候從三位平朝臣信成上

さしれ石に千代をぢきりて九重の御池の水のたへせざるらん

講頌

正五位男爵源朝臣文仲上

いはらねの苔のとりもおなじ色にかるゝ水はいく代へぬらん

預撰歌

典侍從四位藤原清子上

五百引の千引のいはまかりけりよろつよたへぬ瀧のしら絲

御歌所勤務宮内屬

藤原朝臣祐命上

おめはへて神といつけるおは岩をめぐる若めつゆいくよへぬらん

御歌所勤務宮内屬

藤原朝臣勤上

おちたきつたきの岩かどなれにけりいくよかゝれる水にう有るらん

御歌所勤務宮内屬

藤原朝臣勤上

河上のゆついはむらのこけひたす水のなりれもいくよへぬらん

御歌所勤務宮内屬

藤原朝臣勤上

さしれ石のこれむらじの友ならむいはねはなれぬ山川の水

御歌所勤務宮内屬

藤原朝臣勤上

青洲にまつむいはははいつのよになりれとまりとさしれなるらん

島根縣平民原屋千代大郎上

君の世のためとひらむ動きなきいとほよのる瀧のそらいと

官報抄録 二十一年十一月十日

來ル二十二年歌御會始御題ハ「水石契久」ト仰出タサレ詠進書式并ニ期限等ハ左ノ通定メラレタリ

料紙檀紙奉書杉原紙ヲ用フヘシ

但遠地郵送ノ分ハ美濃紙瀧葉ノ類ヲ用フルモ苦シカラス且詠進期限一月十日迄

堅 詠 草

但五ツ折

御題	名
初句 二句 三句	
四句 五句	

裏面書式

某縣下某國某郡某町住

士族又ハ平民

苗 字 名

官位勳等有爵者ハ苗字ノ上ニ記載スヘシ

官報抄録 二十一年十二月二十日

明年一月御歌會始ノ題者點者ヲ御歌所長式部次官男爵高崎正風ニ讀師ヲ正二位侯爵醍醐忠順ニ講師ヲ正三位子爵北小路隨光ニ發聲ヲ御歌所參候掌典石山基正ニ講頌ヲ正四位伯爵大原重朝、從四位伯爵室町公康、從二位子爵慈光寺有仲、正四位子爵前田利鸞、正五位子爵水野忠敬、正五位男爵西五辻文仲ニ仰付ケラレタリ

官報抄録 二十三年一月二十日

一昨十八日午前十時宮中ニ於テ歌御會始ヲ行ハセラル 御製御歌並ニ詠進ノ歌左ノ如

寄國祝

御製

あらたまの年をむかへてよろつ民ひとつ心に國いはふらし

御歌

神代よりねさしかはらぬ葦原の國のさかえを限りむられぬ

大勳位晃親王

外國のためしもあらし天地と共にさかゆくあまつ日嗣は

宮内大臣從二位勳一等子爵藤原朝臣久元上

神代よりかはらぬ國のためしなきて定めていやさかゆらむ

侍從長正二位勳一等侯爵藤原朝臣實則上

八重山も千島のはても民草のいやさかえゆく君か御代かな

樞密顧問官正三位勳一等伯爵藤原朝臣高行上

いつる日のもとつ御國は昔より人のこころもくもらさりけり

樞密顧問官正三位勳二等藤原朝臣永孚上

あまてらす神の御代より君も臣もひとつ心の國わこの國

從一位勳二等藤原朝臣實德上

大やしまなみしつかにも治りてとし立かへる君かみ代かな

式部長正三位勳二等侯爵藤原朝臣直大上

とつくにのひともしたひてつとふころわか日の本の光なりけれ

皇太后宮大夫從三位勳二等子爵平朝臣孫七郎上

あまつ日のひかりとともにかよやけるすへらみくには萬代まで
すまかなる富士の高ねは萬代もうこかぬくにのしるしなるらむ
皇后宮大夫從三位勳二等子爵藤原朝臣敬三上

題者點者 御歌所長官中顧問官從四位勳三等男爵藤原朝臣正風上
もとすまのかはらぬ國の梓弓やしまのほかにあらしと思ふ

奉 行 御歌所參候從三位勳四等伯爵藤原朝臣詮上
いつる日のもとの御國のみひかりの天のしたよそみちたらひたる

奉 行 御歌所參候從正三位伯爵藤原朝臣公允上
民草のなひくはかりのかせとて秋つしまねはたつなみもなし

講 頌 正四位伯爵藤原朝臣重朝上
すめらさのみくへののりも定まりていそひらけぬく君り御代かき

講 頌 從四位伯爵藤原朝臣公康上
民草のおひさけるよもあられけりとよあし原の國のさるえは

講 師 正三位子爵藤原朝臣隨光上
かとのよにさためしまつたへきていまもかはらぬおほやしま國

講 頌 御歌所參候正四位子爵藤原朝臣有良上
たくひなきすめらみくへのひかりこそ萬代までも照とほりけれ

講 頌 學典正四位子爵藤原朝臣光照上
とつくにの人もあふくは天つ日のもつみくへのひかりなりけり

講 頌 正五位男爵藤原朝臣文仲上
みめくみの露にうるほふ民草のいそさかえ行あしはらの國

講 頌 御歌所參候學典正四位藤原朝臣基正上

をさまりし世々を思へはゆく末も猶うらやその國はりはらし

預撰歌

權掌侍正七位藤原道子上

一をちの君につかふる御國には神代からの臣もありけり

長崎縣士族島重道上

うくたから四方の國よりよくなり波風たぬ秋津島根に

三重縣士族橋村淳風上

みつさゆのゆるされし世のけふりにもたちまさるまで國は富たり

鹿兒島縣士族山口利雄上

おほうみをよもれたよへてわたつみの神もまもらす浦安の國

京都府平民須川信行上

いにしへよてらして今をあふくにもあまるは國の光なりけり

神奈川縣平民西野前知上

北の海にどるやひろめのいや廣く國もひらくる君か御代かな

官報抄錄 二十二年十一月六日

來ル二十三年御歌會始御題ハ「寄國祝」ト仰出サレ詠進書式并ニ期限等ハ左ノ通定メラレタリ

料紙檀紙奉書杉原紙ヲ用フヘシ

但シ遠地郵送ノ分ハ美濃紙薄葉ノ類ヲ用フルモ苦シカラス且ツ詠進期限ハ一月十日マテ

堅 詠 草

但五ツ折

御題	名
初句	二句
	三句
四句	五句

裏面書式
某府下某國某郡某町住
士族又ハ平民

苗 字 名

官位勳等有爵者ハ苗字ノ上ニ記載スヘシ

官報抄錄 二十二年十一月二十一日

來ル二十三年一月御歌會始ノ讀師ヲ式部長正三位侯爵鍋島直大ニ講師ヲ正三位子爵北小路隨光ニ發聲ヲ從一位正親町實德ニ講頌ヲ正四位伯爵大原重朝、從四位伯爵室町公康、正四位子爵綾小路有良、正四位子爵竹屋光昭、正五位男爵西五辻文伸、正四位石山基正ニ仰付ケラレタリ

官報抄錄 二十三年十一月十一日

來ル明治二十四年御歌會始御題ハ「社頭祈世」ト仰出サレ詠進書式并ニ期限等ハ左ノ通定メラレタリ
料紙檀紙奉書杉原紙ヲ用フヘシ
但シ遠地郵送ノ分ハ美濃紙薄葉ノ類ヲ用フルモ苦シカラス且ツ詠進期限ハ一月十日マテ

明治二十四年歌會始御題及詠進式期限ヲ定ム

堅 詠 草

但シ五ツ折

御題	名
初句	二句
	三句
四句	五句

裏面書式
某府下某國某郡某町住
士族又ハ平民

苗 字 名

官位勳等有爵者ハ苗字ノ上ニ記載スヘシ

官報抄錄 二十三年十一月二十二日

明二十四年一月歌御會始ノ讀師ヲ從三位伯爵松浦詮ニ講師ヲ正四位子爵堤功長ニ發聲ヲ正四位伯爵大原重朝ニ講頌ヲ從一位正親町實德、從三位子爵毛利元敏、正四位子爵前田利興、正四位子爵竹屋光昭、正五位子爵水野忠敬、正五位男爵西五辻文伸ニ仰付ケラレタリ

官報抄錄 二十一年一月二十四日

昨二十三日ハ 皇太后宮御誕辰ニ付キ午前十時ヨリ親王大長其外宮内省高等官ノ向青山御所へ參賀セリ

官報抄錄 二十二年二月二十四日

昨二十三日ハ 皇太后宮御誕辰ニ付キ午前十時三十分親王及内閣總理大臣樞密院議長各大臣參賀拜謁仰付ケラレ御祝酒ヲ賜ヒ十一時親任官宮内省高等官參賀御祝酒ヲ賜ハリタリ

官報抄錄 二十三年一月二十四日

明治二十一年一月皇太后宮御誕辰青山御所へ參賀

明治二十二年同上

明治二十三年同上

明治二十一年孝明天皇御祭次第

明治二十一年以前ノ御祭次第ハ第一編ニ在リ

昨二十三日ハ 皇太后陛下御誕辰ニ附キ皇族大臣樞密院議長ハ午前十時三十分親任官并ニ宮内省高等官ハ十一時青山御所へ參賀シ御祝酒ヲ賜ハリタリ

孝明天皇御祭次第 二十一年一月三十日 朔次第

午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 大眞賢木 恒ノ如シ

次式部職官員著床

次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出

御親祭次第

午前第九時宮内省官員著

次開扉 此間奏樂

次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂 同第十時勅任官著床

出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ 親王大扈從

次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ畢リテ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ

次親王大扈勅任官拜禮 次麴香間祇候拜禮

次宮内省奏任官判任官拜禮 次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

同第十一時宮内省官員著床

次開扉

皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ

御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜

午後一時ヨリ同第二時迄奏任官准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上等參拜

次閉扉 次各退出

午後第五時宮内省官員著床

次開扉 此間奏樂

次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞

出御御拜畢リテ入御 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ 掌典賢木ノ枝ヲ人長ニ授ク

次御神樂 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 人長賢木ノ枝ヲ掌典ニ致ス掌典之ヲ宮内省當番ニ附シテ奉獻

次閉扉 此間奏樂 次各退出

後月輪東山陵御祭次第

午前第九時式部職及主殿寮出張所官員陵前ニ 參向鋪設ヲ點檢シ神饌ヲ辨備ス

同第十時主殿寮出張所官員及諸員著床

次儀仗兵參向便宜ノ所ニ整列ス

次使參向御幣物ヲ奉リ給フ

次使參前ノ儀合ニ著ク儀仗兵山下ニ整列ス

次神饌ヲ供ス任官以下奉仕

此間奏樂

次主殿寮出張所奏任官先ツ二拜祝詞ヲ奏ス畢テ二拜

次同官復床

次主殿寮出張所判任官高案ヲ神饌ノ案前ニ設ク

次掌典補御幣物ヲ執テ主殿寮出張所奏任官ニ附ス同官之ヲ案上ニ獻リ二拜畢テ復床

次掌典補御祭文ヲ執テ使ニ附ス

次使參進先ツ二拜御祭文ヲ奏ス畢テ二拜

此間諸員起ツ儀仗兵禮式ヲ行フ

次使復床

次主殿寮出張所判任官御玉串ノ案ヲ御幣物ノ案前ニ設ク

次皇太后宮御代拜御玉串ヲ捧ク

次皇太后宮同上

次皇族女王等拜禮御玉串ヲ奉ラル

二十三年ニハ次皇太后宮同上ノ次ニ 次皇族女王等下同上ノ一頁ヲ加フ

次主殿寮出服所判任官御玉串ノ案ヲ皇族ノ御玉串ノ案前ニ設ク
 次使拜禮御玉串ヲ奉ル
 次主殿寮出服所奏任官同上
 次式部職及主殿寮出服所判任官同上
 此間儀仗兵拜式ヲ行フ
 次華族同上
 次女儀同上
 次御幣物及神饌ヲ撤ス上ニ
 此間奏樂
 次各退出
 内閣書記官長通達二十一年一月二十七日
 來ル三十日
 孝明天皇御例祭ニ付
 一勅任官ノ而々午前九時四十分參内
 一奏任官並准奏任及判任官以下ニシテ從六位以上ノ輩ハ午後一時ヨリ同二時マテニ參拜
 右ノ通式部長官ヨリ通知有之候條此旨及御通達候也
 官報抄錄二十一年一月二十七日
 孝明天皇御例祭ニ付非役從四位以上ノ輩ハ午後十二時ヨリ午後一時迄ニ非役從六位以上ノ輩ハ午後一時ヨリ午後一時迄ニ參拜スヘシ
 以上ノ輩ハ午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スヘシ
 官報抄錄二十一年一月二十八日
 明後三十日 孝明天皇御例祭ニ付キ有爵并ニ有位ノ輩大服禮著用ニテ有爵并ニ從四位以上ノ輩ハ午後十二時ヨリ午後一時迄ニ正從五位ノ輩ハ午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スヘキ旨昨二十七日德大寺華族局長官ヨリ在京華族ヘ達シタリ但シ參拜道筋ハ例ノ通り

明治二十三年而上

孝明天皇御例祭次第 二十二年一月三十日

朝次第

午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大真木賢木恆ノ如シ) 次式部職官員著床
 次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂

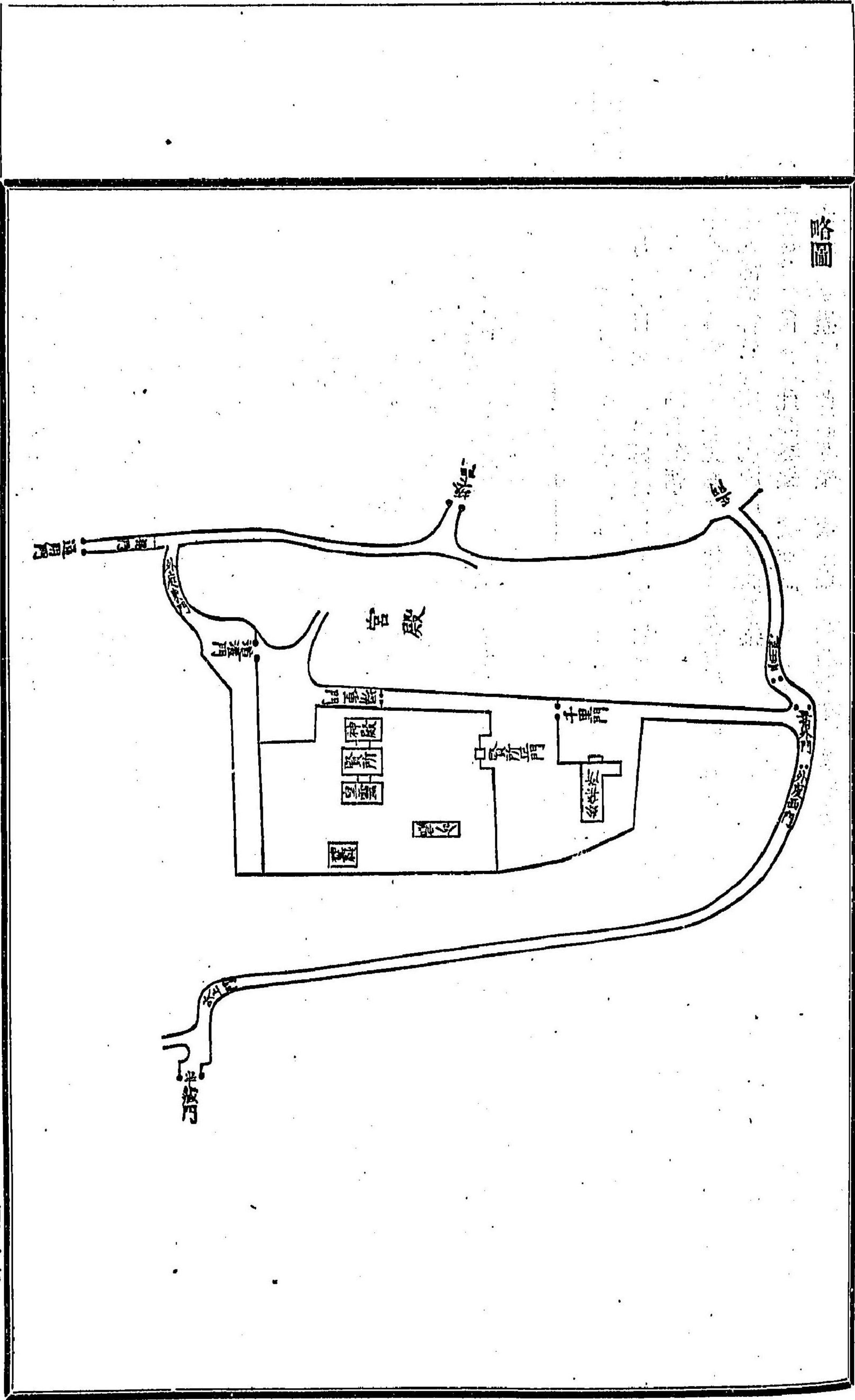
次各退出

御親祭次第

午前第九時宮内省官員著床
 次閉扉 此間奏樂 次神饌及御幣物ヲ供ス
 此間奏樂
 同第十時勅任官及齋香間祇候著床
 出御内大臣宮内大臣侍從長式部部長官以下供奉恒ノ如シ 親王大臣扈從
 次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ畢テ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ
 次親王大勅勅任官及齋香間祇候拜禮
 次宮内省奏任官判任官拜禮 次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 同第十一時宮内省官員著床
 次閉扉
 皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ
 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ
 正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜
 午後一時ヨリ同第二時迄奏任官及試補准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上門跡寺院住職等參拜 次閉扉 次各退出
 夕次第
 午後五時宮内省官員著床 次閉扉 此間奏樂
 御神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞
 出御御拜畢テ入御 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ 掌典賢木ノ枝ヲ人長ニ授ク 次御神樂 次神饌ヲ撤ス
 此間奏樂 人長賢木ノ枝ヲ掌典ニ致ス掌典之ヲ宮内省當番ニ附シテ奉獻 次閉扉 此間奏樂 次各退出

- 一 參拜ノ道筋ハ左ノ如シ但シ自今諸御祭典參拜ノ節ハ都テ之ニ由ル
- 一 正門ヨリ入ル者ハ三角門千里門等ヲ經テ賢所正門へ
- 一 阪下門ヨリ入ル者ハ外庭東門ヲ入り道灌門塀重門等ヲ經テ同上
- 一 吹上門ヨリ入ル者ハ外庭西門千里門等ヲ經テ同上
- 一 通用門ヨリ入ル者ハ外庭東門ヲ入り道灌門塀重門等ヲ經テ同上

略圖



内閣書記官長通達二十二年一月二十六日
 孝明天皇御例祭ニ付
 一 勅任官ノ面々午前九時四十分賢所前參集
 一 奏任官同試補及准奏任ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜
 一 判任以下ニシテ從六位以上ノ輩旗ヲ勳六等以上ノ輩同上
 右ノ通式部長官ヨリ通知有之候間此段及御通達候也
 官報抄錄二十二年一月二十九日
 皇太后宮ハ明三十日 孝明天皇御例祭ニ付午前十一時御出門宮城内 皇靈殿へ御參拜ノ旨昨二十八日
 仰出タサル御遺筋ハ左ノ如シ
 御遺筋
 青山御所ヨリ左へ赤阪離宮外構ニ沿ヒ紀伊國阪ヲ上リ堀端通り右へ四谷門ヲ入り麩町通り半藏門ヲ
 入り吹上御門ヲ入り賢所便殿へ御順路
 官報抄錄二十二年一月二十五日
 來ル三十日孝明天皇御例祭ニ付非役從四位以上勳三等以上ノ輩ハ午後十二時ヨリ午後一時迄ニ非役從六
 位以上及勳六等以上ノ輩ハ午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スヘシ
 官報抄錄二十二年一月二十九日
 式 部 職
 爵位局長官ハ昨二十八日ヲ以テ明三十日 孝明天皇御例祭ニ付有爵並ニ有位ノ輩ハ大禮服着用有爵並
 從四位以上ノ輩ハ正午十二時ヨリ午後一時迄ニ正從五位ノ輩ハ午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スヘキ旨
 ヲ在京華族ニ達シタリ

明治二十三年丙午

孝明天皇御例祭次第 二十三年一月三十日
 本月三十日孝明天皇御例祭次第左ノ如シ

孝明天皇御例祭朝次第

午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大眞賢木恒ノ如シ)
 次式部職官員著床 次閉扉 此間奏樂
 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞
 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出

御親祭次第

午前九時宮内省官員著床 次閉扉 此間奏樂
 次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂
 同第十時親王及勅任官以上爵香間祇候著床
 出御
 次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ
 畢テ入御
 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ッ
 次親王及勅任官以上爵香間祇候拜禮 次宮内省奏任官判任官拜禮
 次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 同第十一時宮内省官員著床 次閉扉
 皇太后陛下 皇后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ 御拜ノ間著床ノ諸員起ッ
 次皇太子殿下御代拜御玉串ヲ捧ク
 正午十二時ヨリ午後第一時迄有爵者非役從四位以上同勳三等以上並神佛各宗派管長等參拜
 同時奏任官准奏任及奏任待遇ノ輩非役從六位以上同勳六等以上並門跡寺院住職等參拜
 午後第一時ヨリ同二時迄判任官准判任及判任待遇ノ輩等參拜
 次閉扉 次各退出
 夕次第
 午後第五時宮内省官員著床 次閉扉 此間奏樂
 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞
 出御 御拜畢テ入御
 御拜ノ間著床ノ諸員起ッ

學典賢木ノ枝ヲ人長ニ授ク
次御神樂 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
人長賢木ノ枝ヲ學典ニ致ス學典之ヲ宮内省當番ニ附シテ奉獻
次閉扉 此間奏樂 次各退出

内閣書記官長通達二十三年一月二十二日

來ル三十日

孝明天皇御例祭ニ付

一勅任官ノ面々午前九時四十分

賢所前參集所へ參集

一奏任官奏任待遇ノ輩並判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩正午後十二時ヨリ午後一時迄ニ參拜

一判任官並判任待遇ノ輩午後一時ヨリ二時迄ニ參拜

右之通式部長ヨリ通知有之候間此段及御通知候也

官報抄錄二十三年一月二十五日

本月三十日孝明天皇御例祭ニ附キ非役從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜スヘシ

式 部 職

明治二十一年新嘗祭次

皇靈祈年祭次第二十二年二月四日

明治二十一年以前ノ新嘗祭次并ハ第一編ニ在リ

午前第十時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 次式部職官員著床
次閉扉 次神饌ヲ供ス 次御幣物ヲ供ス
次祝詞 次御幣物及神饌ヲ撤ス
次閉扉 次各退出

明治二十二年同上

皇靈祈年祭次第二十二年二月四日

午前第十時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 次式部職官員著床 次閉扉 次神饌ヲ供ス 次御幣物ヲ供ス 次祝詞 次御幣物及神饌ヲ撤ス 次閉扉 次各退出

明治二十三年同上

皇靈祈年祭次第二十二年二月四日

午前第十時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 次式部職官員著床 次閉扉 次神饌ヲ供ス 次御幣物ヲ供ス 次祝詞 次御幣物及神饌ヲ撤ス 次閉扉 次各退出

官報抄錄二十三年二月十八日

第三師團歩兵第十九聯隊第三中隊ハ神宮祈年祭ニ附キ儀仗兵トシテ勢州山田ニ向ヒ本月十五日出發セリ

明治二十一年紀元節御祭典次第

紀元節御祭典次第二十二年二月十一日

朝次第

午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 大眞賢木 恒ノ如シ

次式部職官員著床

次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

御親祭次第

午前第九時宮内省官員著床

次閉扉 此間奏樂

次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂

同第十時勅任官著床

出御内大臣宮内大臣侍從長式部部長官以下供奉恒ノ如シ 親王大臣扈從

次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ

次賢所神殿等御拜御御玉串無之 畢リテ入御御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ

次親王大勳任官拜禮 次鑾香間祇候拜禮

次宮内省奏任官判任官拜禮

次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

同第十一時宮内省官員著床

次開扉

皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ

御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜

午後一時ヨリ同第二時迄奏任官准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上等參拜

次閉扉 次各退出

夕次第

午後第五時宮内省官員著床

次開扉 此間奏樂

次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞

出御御拜畢リテ入御 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ 學典賢木ノ枝ヲ人長ニ授ク

次御神樂 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 人長賢木ノ枝ヲ學典ニ致ス學典之ヲ宮内省當番ニ附シテ奉獻

次閉扉 此間奏樂 次各退出

内閣書記官長通達二十一年二月六日

紀元節ニ付奏内並參賀奏拜ノ儀別紙ノ通式部長官ヨリ通知有之候且奏任官ハ酒饌下賜候ニ付當日午

十二時出頭可有之此旨及御通達候也

別紙

式部長官通達二十一年二月四日

來ル十一日紀元節並同御祭典ニ付

一勳任官ノ面々午前九時三十分參内

一奏任官並准奏任及判任官已下ニシテ從六位已上除旗ヲ勳六等已上ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ宮内

省ハ參賀同時參拜

右之通御達可有之且奏任官ハ酒饌賜方例之通御取計有之度此段及御通知候也

内閣書記官長通達二十一年二月六日

來ル十一日

紀元節ニ付各局判任官之輩當日午前十一時三十分内閣ハ參賀候樣御達可有之此旨及御通達候也

官報抄錄二十一年二月八日

來ル十一日紀元節ニ付キ有爵並ニ從四位以上ノ輩ハ午前十二時ヨリ午後一時迄ニ正從五位ノ輩ハ午後

一時ヨリ同二時迄ニ執モ大禮服用參賀並ニ參拜スヘシ尤當日ハ酒饌ヲ下賜セラレハニ付キ午前十時

ヨリ午十二時迄ニ芝離宮ハ參上スヘキ旨昨六日德大寺華族局長官ヨリ在京華族ヘ達シタリ

官報抄錄二十一年二月十四日

去ル十一日紀元節御祭典ノ節 皇帝陛下ノ御代拜ハ鍋島式部長官之ヲ奉仕シ 皇太后陛下ノ御代拜ハ

權典侍平松好子之ヲ奉仕セリ又同日ハ 皇帝陛下御風氣ニテ宴會ハ開カセラレ親王大臣勳任官縣香

間祇候等參拜ノ輩ハ宮中ニ於テ酒饌ヲ賜ハリ奏任官ハ例ノ通各處ニ於テ酒饌ヲ賜ハリタリ

官報抄錄二十一年二月十四日

去ル十一日華族女學校ニ於テハ紀元節奉祝ノ爲メ唱歌金剛石並ニ紀元節の歌長短二篇ヲ施行シ土方宮

内大臣森文部大臣山尾宮中顧問官鍋島式部長官杉皇太后宮大夫花房農商務次官香川皇后宮大夫安田炎

城縣知事高崎式部次官並ニ同夫人高崎東京府知事夫人沖神奈川縣知事堤内匠頭宮内省顧問モール氏其

他式部官ノ向參會セリ

明治二十二年紀元節御祭典恒例次第

紀元節御祭典恒例次第 二十二年二月十一日

朝次第

午前第七時宮殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス大眞賢木 次式部職官員著床

儀制門 朝儀

宮内省告示第四號ハ改定
式部式新次第ナリ後ニ載
ス

次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
 次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 御親祭次第(宮内省告示第四號ノ通)
 午前第九時三十分宮内省官員著床
 次開扉
 皇太后宮 皇后宮御拜御玉申ヲ奉リ給フ
 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ
 正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜
 同時奏任官及試補准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上門跡寺院住職等參拜
 午後第一時ヨリ二時迄判任官參拜
 次閉扉 次各退出
 夕次第
 午後第五時宮内省官員著床
 次開扉 此間奏樂
 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
 次祝詞
 次出御 御拜畢リテ 入御 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ 掌典賢木ノ枝ヲ人長ニ授ク
 次御神樂 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 人長賢木ノ枝ヲ掌典ニ致ス掌典之ヲ宮内省當番ニ附シテ奉獻ス
 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 式部長官通牒二十二年二月三日

來ル十一月一日紀元節並御祭典ニ付
 一開下ハ午前八時三十分參内勳任官ノ面々ハ同時賢所前參集所へ參集
 一奏任官同試補及准奏任並判任官以下ニシテ從六位以上ノ勳六等以上ノ輩午十二時ヨリ午後一時迄ニ參賀參拜
 一判任官並判任待遇ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜
 右ノ通夫々御進可有之此段及御通知候也
 内閣書記官長通達二十二年二月七日
 來ル十一月一日紀元節ニ付勅奏任官へ於内閣酒饌下賜候間當日午前十一時出頭可有之此旨及御通達候也
 内閣書記官長通達二十二年二月七日
 來ル十一月一日紀元節ニ付各局判任官ノ輩午十二時内閣へ參賀候様御進可有之此旨及御通達候也
 官報抄錄二十二年二月五日
 來ル十一月一日紀元節ニ付キ非役正七位以下勳七等以下ノ輩同日午前第九時當廳へ參賀スヘシ
 官報抄錄二十二年二月七日
 來ル十一月一日紀元節ニ付キ有爵並ニ有位ノ輩大禮服著用午十二時ヨリ午後一時マテニ參賀且ツ御祭典ニ付キ同時參拜スヘキ旨公侯爵外ノ在京華族へ爵位局長官ヨリ達セリ
 東京府廳

官報抄錄 二十二年二月六日
 來ル十一月一日紀元節奏任官以下參賀ハ恒例ノ通尤モ宮中正午恒例ノ宴會ハ行ハセラレヌ
 ○紀元節當日宮中ニ於テ憲法發布式行ハセラル、ニ付午後豐明殿ニ於テ宴會ヲ催フサル憲法發布諸次第中ニ在リ

宮内省告示 第二十二年二月九日
 來ル十一月一日紀元節ハ午後 行幸在ラセラル、ニ付正午十二時以後參拜ノ輩ニ限り正門ノ通行ヲ止ム
 紀元節御祭典次第 二十三年二月十一日
 紀元節御祭典朝次第
 午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大眞賢木恒ノ如シ) 次式部職官員著床

明治二十二年紀元節
 中正午恒例ノ宴會行ハ
 セラレヌ
 明治二十二年紀元節午
 後行幸ニ付正午十二時
 以後參拜ノ輩ニ限り正
 門通行ヲ止ム
 明治二十三年紀元節御
 祭典次第

次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
次閉扉 此間奏樂 次各退出

御親祭次第

午前第九時宮内省官員著床
次開扉 此間奏樂 次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂
同第十時親王及勅任官以上露香間祇候著床

出御 次御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ

次 賢所 御拜(御鈴恒ノ如シ御玉串無之)畢テ 入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ
次親王及勅任官以上露香間祇候拜禮 次宮内省奏任官判任官拜禮

次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

同第十一時宮内省官員著床

次開扉

皇太后陛下 皇后陛下 御拜御玉串ヲ奉リ給フ 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

次皇太子殿下 御代拜御玉串ヲ捧ク

正午十二時ヨリ午後第一時迄有爵者非役從四位以上同勳三等以上并ニ神佛各宗派管長等參拜

同時奏任官准奏任及奏任待遇ノ輩非役從六位以上同勳六等以上并門跡寺院住職等參拜

午後第一時ヨリ同第二時迄判任官准判任及判任待遇ノ輩等參拜

次閉扉 次各退出

夕次第

午後第五時宮内省官員著床

次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞

出御 御拜畢テ 入御 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ 掌典賢木ノ枝ヲ人長ニ授ク

次御神樂 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 人長賢木ノ枝ヲ掌典ニ致ス掌典之ヲ宮内省當番ニ附シテ奉獻

次閉扉 此間奏樂 次各退出

内閣書記官長通達二十三年二月三日

一 勅任官以上ノ而々午前九時四十分

賢所前參集所へ參集

一 奏任官奏任待遇ノ輩並判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時迄ニ參

賀參拜

一 判任官判任待遇ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜

右之通式部長ヨリ通知有之候且奏任官へハ酒饌下賜候條午前十一時出頭可有之此段及御通達候也

内閣書記官長通達二十三年二月三日

來ル十一月紀元節ニ付各局判任官ノ輩午前十一時内閣へ參賀候條御達可有之此段及御通達候也

東京府廳廣告二十三年二月七日

本月十一日紀元節ニ付キ非役正七位以下勳七等以下ノ輩同日午後一時當廳へ參賀スヘシ

官報抄録二十三年二月三日

本月十一日紀元節并ニ御祭典ニ附キ非役從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時マテニ參

賀參拜スヘシ

式 部 職

賢所神殿祈年祭次第 二十一年二月十七日

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

同十時式部職官員著床

次開扉二前 次神饌ヲ供ス

次祝詞 賢所御鈴恒ノ如シ 次神饌ヲ撤ス

次閉扉二前 次各退出

明治二十一年賢所神殿
祈年祭次第
明治二十年以前ノ祈年祭
ハ第一編ニ在リ

明治二十二年同上

賢所祈年祭次第第二十二年二月十七日
 神殿祈年祭殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス
 午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス
 同第十時式部職官員著床
 次開扉二前
 次神饌ヲ供ス
 次祝詞
 賢所御鈴恒ノ如シ
 次神饌ヲ撤ス
 次閉扉二前
 次各退出

明治二十三年同上

賢所祈年祭次第二十三年二月十七日
 神殿祈年祭殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス
 午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス
 同第十時式部職官員著床
 次開扉二前 次神饌ヲ供ス
 次祝詞 賢所御鈴恒ノ如シ
 次神饌ヲ撤ス
 次閉扉二前 次各退出

明治二十一年仁孝天皇御親祭次第

明治二十一年以前ノ御親祭次第第一編ニ在リ

仁孝天皇御親祭次第二十一年二月二十一日
 午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 同時三十分宮内省官員著床
 次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞

明治二十二年同上

同第十時出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ 親王扈從
 次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ
 次賢所神殿等御拜 御鈴恒ノ如シ 畢リテ入御
 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ
 次親王拜禮 次宮内省勅任官拜禮 次同奏任官判任官拜禮
 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 同十一時宮内省官員著床
 次開扉 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ
 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ
 次閉扉 次各退出
 仁孝天皇親御祭次第二十二年二月二十一日
 午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス
 同時三十分宮内省官員著床
 次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
 次祝詞
 同第十時 出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ 親王扈從
 次御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ 畢テ 入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ
 次親王拜禮 次宮内省勅任官判任官拜禮 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 同十一時宮内省官員著床

次開扉
皇太后宮 皇后宮 御拜御玉串ヲ奉リ給フ 御拜ノ間著床ノ諸員起ッ
次閉扉 次各退出

明治二十三年同上

仁孝天皇御親祭次第二十三年二月二十二日

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 同時三十分宮内省官員著床
次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞
同第十時親王以下著床
出御 次御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ 畢リテ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ッ
次親王拜禮 次宮内省勅任官拜禮 次同奏任官判任官拜禮
次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出
同第十一時宮内省官員著床
次開扉
皇太后陛下 御拜御玉串ヲ奉リ給フ
皇后陛下 御拜同上 御拜ノ間著床ノ諸員起ッ
次皇太子殿下御代拜御玉ヲ捧ク
次閉扉 次各退出

春季皇靈祭次第二十一年三月二十日

春季皇靈祭朝次第

午前九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 大眞賢木
恒ノ如シ
次式部職官員著床

明治二十一年春季皇靈祭
朝次第
明治二十年以前ノ皇靈祭
次第ハ第一編ニ在リ

次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
次閉扉 此間奏樂 次各退出

皇靈并神殿御親祭次第

午前第九時三十分宮内省官員著床
次開扉 二前 此間奏樂 次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂
同第十時勅任官著床
出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ 親王大臣扈從
次皇靈へ御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ
次賢所御拜 御鈴恒ノ如シ
次神殿へ御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ 畢リテ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ッ
次親王大臣勅任官拜禮 次齋香間祓候拜禮
次東遊 次宮内省奏任官判任官著床
次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂
次閉扉 二前 此間奏樂 次各退出
同第十一時三十分宮内省官員著床
次開扉 二前
皇太后宮 皇后宮 御拜御玉串ヲ奉リ給フ
御拜ノ間著床ノ諸員起ッ

正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜
午後一時ヨリ同第二時迄奏任官准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上等參拜
次閉扉 二前 次各退出

皇靈祭夕次第

午後第四時式部職官員著床
次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
次閉扉 此間奏樂 次各退出

内閣書記官長通達二十一年三月十六日

來ル二十日春季祭ニ付參内參拜ノ儀別紙ノ通式部長官ヨリ通知有之候條此段及御通達候也

(別紙) 式部長官通達二十一年三月十六日

來ル二十日春季祭ニ付

一勅任官ノ面々午前九時四十分參内

一奏任官并准奏任及到任官以下ニシテ從六位以上

右之通御達可有之此段及御通知候也

官報抄錄二十一年三月十七日

來ル二十日春季祭ニ付キ非役從四位以上勳三等以上ノ輩ハ午後十二時ヨリ午後一時迄ニ參拜スヘシ

勳六等以上ノ輩ハ午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スヘシ

式部 職

官報抄錄二十一年三月十九日

明二十日春季祭ニ付有爵位有位ノ輩大禮服用左ノ時限ニ參拜スヘキ旨一昨十七日德大寺華族局長官

ヨリ在京華族ヘ達シタリ

午後一時ヨリ午後一時迄 有爵位從四位以上ノ輩

當日ニ限リ與取除クヘシ

春季皇靈祭次第 二十二年三月二十日

春季皇靈祭朝次第

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大眞寶木)
次式部職官員著床

次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

皇靈并ニ神殿御親祭次第

午前第九時三十分宮内省官員著床

次開扉二前 此間奏樂

次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂

同第十時親王大臣勅任官及麝香間祇候著床

出御

次皇靈ヘ玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ

次神殿ヘ御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ畢テ 入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ

次親王大臣勅任官及麝香間祇候拜禮

次東遊 次宮内省奏任官判任官拜禮

次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉二前 此間奏樂 次各退出

同第十一時三十分宮内省官員著床

次開扉二前

皇太后宮御代拜御玉串ヲ捧ク

皇后宮 御拜御玉串ヲ奉リ給フ御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜

同時奏任官及試補准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上門跡寺院住職等參拜

午後第一時ヨリ同第二時迄判任官參拜

次閉扉二前 次各退出

皇靈祭夕次第

午後第四時式部職官員著床

次閉扉 此間奏樂

次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

内閣書記官長通達二十二年三月十五日

來ル二十日春季祭ニ付

一勅任官ノ面々午前九時四十分賢所前參集所參集

一奏任官同試補及准奏任官并判任官以下ニシテ從六位以上勅六等以上ノ輩午十二時ヨリ午後一時迄ニ

參拜

一判任官并判任待遇ノ輩午後一時ヨリ二時迄ニ參拜

右ノ通式部長官ヨリ通知有之候間此段及御通達候也

官報抄錄二十二年三月十五日

來ル二十日春季祭ニ付キ非役從六位以上及勅六等以上ノ輩午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜スヘシ

式部職

官報抄錄二十二年三月十九日

明二十日春季祭ニ付キ有爵有位ノ輩大禮服着用午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜スヘキ旨昨十八日公

明治二十三年同上

春季皇靈祭及皇靈竝御神殿親祭次第二十三年三月二十一日

春季皇靈祭朝次第

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大眞賢木恒ノ如シ)

次式部職官員著床 次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出

皇靈竝神殿御親祭次第

午前第九時三十分宮内省官員著床

次閉扉三前 此間奏樂 次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂

同第十時親王及勅任官以上齋香間祇候著床

出御 次皇靈へ御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ

次神殿へ御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ畢テ 入御

御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ッ

次神王及勅任官以上齋香間祇候拜禮

次東遊 次宮内省奏任官判任官拜禮

次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉二前 此間奏樂 次各退出

同第十一時三十分宮内省官員著床 次閉扉二前

皇太后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ

皇后陛下御拜同上

皇太子殿下御拜

御拜ノ間著床ノ諸員起ッ

正午十二時ヨリ午後第一時迄有爵者非役從四位以上同勅三等以上竝神佛各宗派管長等參拜

同時奏任官准奏任及奏任待遇ノ輩非役從六位以上竝門跡寺院住職等參拜

午後第一時ヨリ同第二時迄判任官准判任及判任待遇ノ輩等參拜

次閉扉三前 次各退出

皇靈祭夕次第

午後第四時式部職官員著床

次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出

内閣書記官長通達二十三年三月十七日
 來ル二十一日春季祭ニ付
 一勅任官ノ面々午前九時四十分
 賢所前參集所へ參集
 一奏任官奏任待遇ノ輩並判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時迄ニ參拜
 一判任官判任待遇ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜
 右ノ通式部長ヨリ通知有之候間此段及御通達候也
 官報抄錄二十三年三月十三日
 來ル二十一日春季祭ニ附キ非役從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜スヘシ
 式部職

神武天皇御例祭次第二十一年四月三日

朝次第

午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス大眞賢木恒ノ如シ
 次式部職官員著床

次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

御親祭次第

午前第九時宮内省官員著床

次開扉 此間奏樂

次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂

同第十時勅任官著床

出御内大臣宮内大臣侍從長式部部長官以下供奉恒ノ如シ 親王大臣扈從

次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ

次賢所神殿等御拜御鈴恒ノ如シ 畢リテ御入 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ

明治二十一年神武天皇御例祭次第
 明治二十年以前ノ御例祭次第ハ第一編ニ在リ

次親王大臣勅任官拜禮 次麝香間祇候拜禮

次東遊 次宮内省奏任官判任官拜禮

次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

同第十一時三十分宮内省官員著床

次開扉

皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ

御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有僧者非役從四位以上同勳三等以上等參拜

午後一時ヨリ同第二時迄奏任官准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上等參拜

次閉扉 次各退出

夕次第

午後第四時式部職官員著床

次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

政傍山東北山陵御例祭次第
 午前第九時式部職及主殿寮出張所官員陵前ニ參向鋪設ヲ點檢シ神饌ヲ辨備ス

同第十時主殿寮出張所官員及諸員著床

次儀仗兵參向陵門外前後ニ整列ス

次使參向御幣物ノ幸殿昇進ノ際儀仗兵正面向テ整列ス

次使參向御幣物ノ幸殿昇進ノ際儀仗兵正面向テ整列ス

次神饌ヲ供ス 任官以下著床

次同官復床
 次主寮出帳所判任官高寮ヲ神饌ノ案前ニ設ク
 次掌典補御幣物ヲ執テ主殿寮出帳所奏任官ニ附ス同官之ヲ案上ニ獻リ二拜畢テ復床
 次掌典補御幣物ヲ執テ使ニ附ス
 次使參先ツ二拜御幣物ヲ奏ス畢テ二拜
 此間諸員起ツ儀仗兵禮式ヲ行フ
 次使復床
 次主殿寮出帳所判任官御玉串ノ案ヲ御幣物ノ案前ニ設ク
 次使拜禮御玉串ヲ奉ル
 次主殿寮出帳所奏任官以上
 次式部職及主殿寮出帳所判任官同上
 此間儀仗兵禮式ヲ行フ
 次御幣物及神饌ヲ撤ス上ニ
 此間奏樂
 次各退出
 内閣書記官長通達二十一年三月二十六日
 來ル四月三日
 神武天皇御例祭ニ付參内并參拜之儀別紙之通式部長官ヨリ通知有之候條此段及御通達候也
 (別紙)
 式部長官通達二十一年三月二十四日
 來ル四月三日
 神武天皇御例祭ニ付
 一勅任官ノ而々午前九時四十分參内
 一奏任官並准奏任判任官以下ニシテ從六位以上諸族ヲ勳六等以上ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜
 右之通御達可有之此段及御通知候也
 官報抄錄二十一年三月二十六日
 來ル四月三日 神武天皇御例祭ニ付非役從四位以上勳三等以上ノ輩ハ午後十二時ヨリ午後一時迄ニ非役從
 六位以上勳六等以上ノ輩ハ午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スヘシ
 式 部 職
 官報抄錄二十一年三月二十九日
 來ル四月三日 神武天皇御例祭ノ節有爵有位ノ輩都テ大禮服用ニテ有爵並ニ從四位以上ハ午後十二時
 ヨリ午後一時迄ニ正從五位ハ午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スヘキ旨昨二十八日徳大寺華族局長官ヨリ
 在京華族ヘ達シタリ

神武天皇御例祭次第 二十二年四月三日

朝次第

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス大眞賢木恒ノ如シ
 次式部職官員著床
 次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
 次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 同日
 御親祭次第
 午前第九時三十分宮内省官員著床
 次閉扉 此間奏樂
 次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂
 同十時親王大臣勅任官及齋香間祇候著床
 出御
 次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ畢テ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ
 次親王大臣勅任官及齋香間祇候拜禮
 次東遊 次宮内省奏任官判任官拜禮
 次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 同第十一時三十分宮内省官員著床
 次閉扉
 皇太后宮 皇后宮 御拜御玉串ヲ奉リ給フ 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜同時奏任官及試補准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上門跡寺院住職等參拜

午後第一時ヨリ同第二時迄判任官參拜

次閉扉 次各退出

同日

夕次第

午後第四時式部職官員著床

次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

○ 畝傍山東北山陵御神祭次第明治二十一年ニ同シ

官報抄錄二十二年三月二十七日

來ル四月三日付武發皇御例祭ニ付非役從六位以上勳六等以上ノ輩午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜ス

内閣書記官長通達二十二年三月二十六日

來ル四月三日 神武天皇御例祭ニ付

一 奏任官ノ面々午前九時四十分賢所前參集賢所參集

一 判任官並判任待運ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜

右ノ通式部長官ヨリ通知有之候間此段及御通達候也

官報抄錄二十二年四月一日

明後三日 武神皇御例祭ニ付キ有爵並ニ有位ノ輩大禮服著用午十二時ヨリ午後一時マテ參拜スヘキ旨

神武天皇御例祭次第 二十三年四月三日

神武天皇御例祭朝次第

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大眞賢木恒ノ如シ)

次式部職官員著床 次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出

晝次第

午前第九時三十分宮内省官員著床 次閉扉 此間奏樂

次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞

同第十時御代拜御玉串ヲ捧ク 次親王及勅任官以上齋香間祇候拜禮 次東遊

次宮内省奏任官判任官拜禮 次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出

同第十一時三十分宮内省官員著床 次閉扉

皇太后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ 皇后陛下 御拜同上 皇太子殿下御拜

御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

正午十二時ヨリ午後第一時マテ有爵者非役從四位以上同勳三等以上并ニ神佛各宗派管長等參拜

同時勅奏任官准奏任及奏任待遇ノ輩非役從六位以上同勳六等以上并ニ門跡寺院住職等參拜

午後第一時ヨリ同第二時マテ判任官准判任及判任待遇ノ輩等參拜

次閉扉 次各退出

夕次第

午後第四時式部職官員著床 次閉扉 此間奏樂

次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞

次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出

○ 畝傍山東北山陵御例祭次第明治二十一年ニ同シ

内閣書記官長通達二十三年三月二十七日

來四月三日 神武天皇御例祭ニ付

一 勅任官以上ノ面々午前九時四十分

一奏任官奏任待遇ノ輩並到任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時迄ニ參拜
 一列任官到任待遇ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜
 右之通式部長ヨリ通知有之候間此段及御通達候也
 官報抄錄二十三年三月二十五日
 來ル四月三日神武天皇御例祭ニ付キ非役從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時迄ニ參拜
 スヘシ

式 部 職

靜子内親王御正辰祭次第 二十二年四月四日

午前第十時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

次閉扉

次神饌ヲ供ス

次祝詞

次神饌ヲ撤ス

次閉扉

次各退出

官報抄錄 二十一年五月二十九日

昨二十八日ハ 皇后宮御誕辰ニ付キ親王親任官其他宮内省官吏等參賀畢リテ酒饌ヲ賜ハリタリ

官報抄錄 二十二年五月二十九日

昨二十八日ハ 皇后陛下ノ御誕辰ニ附キ午前十一時親王同妃親任官宮内高等官等參賀畢リテ酒饌ヲ賜ハリタリ

官報抄錄 二十三年五月二十九日

昨二十八日 皇后陛下御誕辰ニ附キ午前十一時親王同妃親任官其他宮内省高等官參賀畢リテ酒饌ヲ賜ハリタリ

三品藤子内親王尊御正辰祭次第 二十一年六月八日

午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(二十三年ニハ)

次閉扉

次神饌ヲ供ス

次祝詞

次神饌ヲ撤ス

次閉扉

次各退出

節折竝ニ大祓次第 二十一年六月三十日

節折次第

正午十二時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(表一ノ間 午後第一時宮内省官員參候)

次學典長出御ヲ奏請ス 次學典長以下進ミテ庇ニ候ス

出御 次學典長進ミテ天氣ヲ候フ

次侍從荒世ノ御服ヲ供ス畢リテ返シ給フ侍從學典ニ傳フ

次學典長荒世ノ御麻ヲ執リテ侍從ニ附ス

次侍從御麻ヲ供ス畢リテ返シ給フ侍從學典長ニ傳フ

次學典荒世ノ竹ヲ執リテ侍從ニ附ス

明治二十一年六月節折
大祓次第
明治二十年以前ノ節折大
祓次第ハ第一編ニ在リ

藤子内親王尊御正辰祭
次第

明治二十三年同上

靜子内親王御正辰祭次
第
二十一年四月四日故靜子
内親王一週御式年祭次第
及二十三年四月四日同
親王三週御式年祭次第ト
モ後ニ載ス

明治二十一年五月皇后
宮御誕辰祭

明治二十二年同上

次侍從竹ヲ以テ御體ヲ量リ奉ル五度畢リテ掌典ニ傳フ
 次掌典荒世ノ壺ヲ執リテ侍從ニ附ス
 次侍從壺ヲ供ス畢リテ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ
 次和世ノ具ヲ進ル其式荒世ノ儀ノ如シ畢リテ入御
 次掌典大河ニ向フ 次掌典補御麻ヲ執リテ祓所ニ向フ 次各退出

大祓次第

午後第一時三十分庭上ノ鋪設并ニ祓物ヲ具備ス
 同第二時掌典長以下著床 同時各廳勅奏判任ノ官員各一人著床
 次掌典補二人御麻ヲ捧ケテ庭中ノ案上ニ置キ祓ノ稻ヲ挿ム
 次掌典長掌典ヲ召テ祓ノ事ヲ仰ス
 次掌典案前ニ進ミテ大祓ノ詞ヲ讀畢ル掌典一人進ミテ案上ノ大麻ヲ執リテ退キ著床ノ諸員ニ向ヒ立テ
 祓ヒ畢リテ大麻ヲ掌典補ニ授ク 此間著床ノ諸員起ツ
 次掌典大河道ニ向ヒテ祓却レト宣ル
 次掌典補祓物ヲ執リテ大河ニ向フ 次各退出

式部職ヨリ各廳へ通牒 二十一年六月二十一日

來二十日大祓執行ニ付勅奏判任官一名宛爲總代午後二時參内可有之此段及御通知候也
 追テ總代人名來二十五日迄ニ御申越可有之且參内ノ輩ハ當日ニ限り喪章取除キ候様御達有之度此段
 申添候也

節折竝ニ大祓次第 二十二年六月三十日

節折次第

明治二十二年六月三十日
大祓執行ニ付各廳勅
奏判任官總代ヲシテ參
内セム

明治二十二年六月節折
竝大祓次第

正午十二時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(鳳凰ノ間ヲ用フ) 午後一時宮内省官員參候

次掌典長 出御ヲ奏請ス 次掌典長以下進ミテ庇ニ候ス
 出御 次掌典長進ミテ天氣ヲ候フ
 次侍從荒世ノ御服ヲ供ス畢リテ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ
 次掌典長荒世ノ御麻ヲ執リテ侍從ニ附ス
 次侍從御麻ヲ供ス畢リテ返シ給フ侍從掌典長ニ傳フ
 次掌荒世ノ竹ヲ執リテ侍從ニ附ス
 次侍從竹ヲ以テ 御體ヲ量リ奉ル(五度)畢リテ掌典ニ傳フ
 次掌典荒世ノ壺ヲ執リテ侍從ニ附ス
 次侍從壺ヲ供ス畢リテ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ
 次和世ノ具ヲ進ル其式荒世ノ儀ノ如シ畢リテ 入御
 次掌典大河ニ向フ 次掌典補御麻ヲ執リテ祓所ニ向フ 次各退出

大祓次第

午後一時三十分庭上ノ鋪設并ニ祓物ヲ具備ス同第二時掌典長以下著床 同時各廳勅奏判任ノ官員各一人
 著床
 次掌典補二人御麻ヲ捧ケテ庭中ノ案上ニ置キ祓ノ稻ヲ挿ム
 次掌典長掌典ヲ召テ祓ノ事ヲ仰ス
 次掌典案前ニ進ミテ大祓ノ詞ヲ讀畢ル掌典一人進ミテ案上ノ大麻ヲ執リテ退キ著床ノ諸員ニ向ヒ立テ
 祓ヒ畢リテ大麻ヲ掌典補ニ授ク 此間著床ノ諸員起ツ
 次掌典大河道ニ向ヒテ祓却レト宣ル
 次掌典補祓物ヲ執リテ大河ニ向フ 次各退出

明治二十二年六月三十日
大祓執行ニ付各廳勅
令列任官總代ヲシテ並
内レシム

儀備門 朝儀

四百四十六

式部職ヨリ各大臣樞密院元老院警視廳東京府へ通牒 二十二年六月二十日
來ル三十日午後二時大祓執行ニ付勅奏判任官一名宛爲總代右時限前 賢所前參集所へ參集可有之此段
及御通知候也

追テ總代人名來ル二十五日迄ニ御申越可有之且判任官ハ其等級御記載相成度此段申添候也
式部職ヨリ主殿寮へ通牒 二十二年六月二十日

來ル三十日午後二時大祓執行ニ付各廳勅奏判任官一名宛爲總代 賢所前參集所へ參集候條此段及御
通知候也

式部職ヨリ省中一般へ通牒 二十二年六月二十日

來ル三十日午後一時節折同二時大祓等被爲行候ニ付次第書相添此段及御通知候也

式部職ヨリ内大臣秘書官へ通牒 二十二年六月二十日

前同文

式部職ヨリ御守衛隊司令官へ通牒 二十二年六月三十日

來ル三十日午後一時節折同二時大祓被爲行候ニ付各廳勅奏判任官一名宛爲總代 賢所前參集所へ參集
候條爲御心得此段及御通知候也

明治二十二年六月節折
並大祓次第

節折並ニ大祓次第 二十三年六月三十日

節折次第

正午十二時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(鳳凰間ヲ用フ)

午後一時宮内省官員參候

次掌典長 出御ヲ奏請ス

次掌典長以下進テ庇ニ候ス

出御

次掌典長進テ 天氣ヲ候フ

次侍從荒世ノ御服ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ

次掌典長荒世ノ御麻ヲ執リテ侍從ニ附ス

次侍從御麻ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典長ニ傳フ

次掌典荒世ノ竹ヲ執リテ侍從ニ附ス

次侍從竹ヲ以テ 御體ヲ量リ奉ル(五度)畢テ掌典ニ傳フ

次掌典荒世ノ壺ヲ執リテ侍從ニ附ス

次侍從壺ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ

次和世ノ具ヲ進ル其式荒世ノ儀ノ如シ畢テ

入御

次掌典大河ニ向フ

次掌典補御麻ヲ執テ祓所ニ向フ

次各退出

大祓次第

午後一時三十分庭上ノ鋪設並ニ祓物ヲ具備ス

同二時掌典長以下著床

同時各廳勅奏判任ノ官員各々一人著床

次掌典補二人御麻ヲ捧テ庭中ノ案上ニ置キ祓ノ稻ヲ挿ム

次掌典長掌典ヲ召テ祓ノ事ヲ仰ス

次掌典案前ニ進ミテ大祓ノ詞ヲ畢讀ル掌典一人進テ案上ノ大麻ヲ執リテ退キ著床ノ諸員ニ向ヒ立テ祓

ヒ畢テ大祓ヲ掌典補ニ授ク

此間著床ノ諸員起ツ

儀備門 朝儀

四百四十七

次聖典大河道ニ向ヒテ被却レト宣ル
次聖典補祓物ヲ執リテ大河ニ向フ
次各退出

式部職ヨリ各大臣樞密院會計検査院警視廳東京府へ通牒 二十三年六月二十日
來ル三十日午後二時大祓執行ニ付勅奏判任官一名ツ、爲總代右時限前 賢所前參集所へ參集可有之此
段及御通知候也

追テ總代人名來ル二十五日迄ニ御通牒可有之且判任官ハ該等級御記載相成度候也
式部職ヨリ主殿寮へ通牒 二十三年六月二十日
來ル三十日午後二時大祓執行ニ付各應勅奏判任官一名ツ、總代トシテ 賢所前參集所へ參集候條此段
及御通知候也

式部職ヨリ省中一般へ通牒 二十三年六月二十日
來ル三十日午後一時節折同二時大祓被爲行候ニ付別紙次第書相添此段及御通知候也
式部職ヨリ内大臣秘書官へ通牒 二十三年六月二十日
前同文

式部職ヨリ御守衛隊司令官へ通牒 二十三年六月二十日
前同文 爲御心得此段及御通知候也

式部職ヨリ内事課へ通牒 二十三年六月二十日
來ル三十日午後二時大祓執行ニ付本省勅奏判任官總代人名來ル二十五日迄ニ御通知有之度此段申入候
也
追テ當日時限前 賢所前參集所へ參集之事

明治二十三年六月三十日
大祓執行ニ付各應勅
奏判任官總代ヲシテ奉
内セシム

故敬仁親王御正辰祭次
二十一年七月二十六日故
敬仁親王御式年祭次
第後ニ載ス

明治二十一年八月明宮
御誕辰祭次

明治二十二年同上

前子内親王皇子内親王
御正辰祭次第
明治二十一年九月六日故
子内親王五週年御式年祭
次第及同年九月八日皇子
内親王五週年御式年祭次
第トモ後ニ載ス

三品敬仁親王尊御正辰祭次第 二十二年七月二十六日
午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス
次閉扉
次神饌ヲ供ス
次祝詞
次神饌ヲ撤ス
次閉扉
次各退出
○二十三年同様ニ付畧ス

官報抄録 二十一年八月二十七日
宮内省ハ來ル三十一日明宮御誕辰ニ付キ省中高等官及同宮詰判任官ノ向ハ午前九時通常禮服著用同御
殿へ參賀致スヘキ旨省中へ達シタリ

官報抄録 二十二年九月二日
一昨三十一日ハ嘉仁親王殿下ノ御誕辰ニ附キ宮内省高等官并ニ花御殿詰判任官ノ向ハ午前九時花御殿
へ參賀御祝酒ヲ賜ハリ殿下ニハ九時四十分御出門ニテ御參内續テ青山御所へ御參上アラセラレタリ
○二十三年ニ於テモ本文同様參賀セシモ官報ニ報告ナシ

前子内親王御正辰祭次第 二十二年九月六日
午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス
次閉扉 次神饌ヲ供ス
次祝詞 次神饌ヲ撤ス

次閉扉 次各退出
皇子内親王御正辰祭次第 二十二年九月八日
總テ前同上
二十三年同様ニ付畧ス

雅瑞照彦尊御正辰祭次第

二十一年九月十八日

午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

次閉扉

次神饌ヲ供ス

次祝詞

次神饌ヲ撤ス

次閉扉

次各退出

二十二年二十三年同様ニ付畧ス

秋季祭次第 二十一年九月二十二日

皇靈祭朝次第

午前九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 大眞賢木 恒ノ如シ

次式部職官員著床

次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

皇靈並ニ神殿御親祭次第

明治二十一年秋季祭
祭次第
明治二十年以前ノ皇靈祭
次第ノ第一編ニ載ス

午前第九時三十分宮内省官員著床

次閉扉二前 此間奏樂

次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂 同第十時勅任官著床

出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ 親王大臣扈從

次皇靈へ御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ

次賢所御拜 御鈴恒ノ如シ 御玉串ナシ

次神殿へ御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ畢リテ畢リテ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起

ッ

次親王大臣勅任官拜禮 次麝香間祓候拜禮 次東遊

次宮内省奏任官判任官拜禮 次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉二前 此間奏樂 次各退出

同第十一時三十分宮内省官員著床

次閉扉二前

皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ

御拜ノ間著床ノ諸員起ッ

正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜

午後一時ヨリ同第二時迄奏任官准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上等參拜

次閉扉二前 次各退出

皇靈祭夕次第

午後第四時式部職官員著床

次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

内閣書記官長通達二十一年九月十八日
 來ル二十二日秋季祭ニ付參内并參拜之儀別紙ノ通り式部長官ヨリ通知有之候條此旨及御通達候也
 式部長官通牒二十一年九月十七日
 來ル二十二日秋季祭ニ付
 一勅任官ノ面々午前九時四十分參内
 一奏任官并準奏任及判任官以下ニシテ從六位以上除キテ勳六等以上ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜
 右之通御達可有之此段及御通知候也
 官報抄錄二十一年九月十九日
 來ル二十二日秋季祭ニ付キ非役從四位以上勳三等以上ノ輩ハ午十二時ヨリ午後一時迄ニ非役從六位以
 上勳六等以上ノ輩ハ午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スヘシ
 官報抄錄二十一年九月二十日
 明後二十二日秋季祭ニ付キ有爵並ニ有位ノ輩大禮服用左ノ時限ニ參拜スヘキ旨昨十九日德大寺爵位
 局長官ヨリ在京華族ヘ達シタリ
 午後一時ヨリ午後一時迄有爵並從四位以上ノ輩
 午後一時ヨリ同二時迄正從五位ノ輩

明治二十二年同上

秋季皇靈祭次第 二十二年九月二十三日

秋季皇靈祭朝次第
 午前九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 大眞賢木 恒ノ如シ
 次式部職官員著床 次閉扉 此間奏樂
 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
 次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 皇靈并ニ神殿御親祭次第
 午前九時三十分宮内省官員著床
 次閉扉二前 此間奏樂

次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂
 同第十時親王大臣勅任官及齋香間祇候著床
 出御

次皇靈へ御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ
 次神殿へ御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ畢テ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ
 次親王大臣勅任官及齋香間祇候拜禮 次東遊
 次宮内省奏任官判任官拜禮 次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉二前 此間奏樂 次各退出
 同第十一時三十分宮内省官員著床
 次閉扉二前

皇太后宮 皇后宮 御拜御玉串ヲ奉リ給フ御拜ノ間著床ノ諸員起ツ
 正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜
 同時奏任官及奏任待遇ノ輩准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上門跡寺院住職等參拜
 午後第一時ヨリ同第二時迄判任官及判任待遇ノ輩准判任等參拜
 次閉扉二前 次各退出

皇靈祭夕次第
 午後第四時式部職官員著床
 次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
 次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 式部長官通牒 二十二年九月十六日
 來ル二十三日秋季祭ニ付

一閣下并勅任官ノ面々午前九時四十分
賢所前參集所へ參集
一奏任官并奏任待遇ノ輩及判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩午十二時ヨリ午後一時マテニ
參拜
一判任官並判任待遇ノ輩午后一時ヨリ同二時マテニ參拜
右ノ通り夫々御達可有之此段及御通知候也

官報抄錄二十二年九月十七日
來ル二十三日秋季祭ニ付非役從六位以上勳六等以上ノ輩午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜スヘシ
官報抄錄二十二年九月二十日
爵位局長ハ昨十九日ヲ以テ來ル二十三日秋季皇靈祭ニ附キ有爵并ニ有位ノ輩大禮服用午十二時ヨリ
午後一時マテニ參拜スヘキ旨在京華族へ達セリ

明治二十三年同上

秋季皇靈祭次第 二十三年九月二十三日

秋季皇靈祭朝次第

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大眞賢木恒ノ如シ)
次式部職官員著床 次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出
皇靈並神殿御親祭次第
午前第九時三十分宮内省官員著床
次閉扉(二前) 此間奏樂 次神饌及御幣物ヲ供ス 此間奏樂
同第十時親王及勅任官以上齋香間祇候著床
出御 次皇靈へ御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ
次神殿へ御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ畢テ 入御

御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ

次親王及勅任官以上齋香間祇候拜禮

次東遊 次宮内省奏任官判任官拜禮

次御幣物及神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉(二前) 此間奏樂 次各退出

同第十一時三十分宮内省官員著床 次閉扉(二前)

皇太后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ

皇后陛下御拜同上

皇太子殿下御拜

御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

正午十二時ヨリ午後第一時迄有爵者非役從四位以上同勳三等以上並神佛各宗派管長等參拜

同時奏任官准奏任及奏任待遇ノ輩非役從六位以上同勳六等以上並門跡寺院住職等參拜

午後第一時ヨリ同第二時迄判任官准判任及判任待遇ノ輩等參拜

次閉扉(二前) 次各退出

皇靈祭夕次第

午後第四時式部職官員著床

次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次祝詞 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出

内閣書記官長通達二十三年九月十六日
秋季祭參拜ノ儀別紙ノ通式部長ヨリ通知有之候間此段及御通達候也
式部長官通達二十三年九月十五日
來ル二十三日秋季祭ニ付
一勅任官以上之面々午前九時四十分
賢所前參集所へ參集
一奏任官奏任待遇ノ輩並判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時迄ニ參拜

一判任官判任待遇之輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜
 右之通夫々御遠可有之此段及御通知候也
 官報抄錄二十三年九月二十五日
 一昨二十三日秋季皇靈祭ノ節徳大寺侍從長 天皇陛下ノ御代拜ヲ奉仕シ權典侍錦織隆子皇太后陛下ノ御代拜ヲ奉仕セリ
 官報抄錄二十三年九月十六日
 本月二十三日秋季祭ニ附キ非役從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜スヘシ
 式 部 思

明治二十一年神嘗祭ニ付神嘗御通拜非役所御親祭次第

神宮御遙拜次第 二十一年十月十七日
 午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 表一ノ間 庶ヲ用フ
 其儀表一ノ間南庇東ノ方ニ四尺ノ御屏風ニ雙ヲ立廻シ其内ニ簀薦二枚ヲ敷キ上ニ御座ヲ設ク
 次宮内省官員便宜ノ所ニ候ス
 同第十時出御 次御拜畢リテ入御
 皇太后宮 皇后宮便殿ニ於テ御遙拜
 賢所御親祭次第
 午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 大眞賢木 恒ノ如シ
 次宮内省官員著床
 次開扉 此間奏樂
 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
 同第十時勅任官著床
 出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ 親王大臣扈從
 次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ 御給
 次皇靈神殿等御拜 御五事 畢リテ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ
 次親王大臣勅任官拜禮

次辭香間祓候拜禮 次宮内省奏任官判任官拜禮

次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次開扉 此間奏樂 次各退出

同第十一時宮内省官員著床

次開扉

皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ御拜ノ間著床ノ諸員起ツ
 正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜
 午後一時ヨリ同第二時迄奏任官准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上等參拜
 次開扉 次各退出

内閣書記官長通達二十一年十月十日

來ル十七日神嘗祭ニ付參内并參拜ノ儀別紙ノ通式部長官ヨリ通知有之候條此旨及御通達候也

式部長官通達二十一年十月八日

來ル十七日神嘗祭ニ付
 一勅任官ノ面々午前九時四十分參内
 一奏任官并准奏任及判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜
 右之通り御遠可有之此段及御通知候也
 官報抄錄二十一年十月十九日
 一昨十七日神嘗祭ノ節 聖上ニハ徳大寺侍從長 皇太后宮ニハ權典侍中御門隆子御代拜ヲ奉仕セリ
 官報抄錄二十一年十月二十日
 神嘗祭ニ付キ儀仗兵トシテ第三師團歩兵第十九聯隊第一中隊ハ去ル十四日伊勢國山田ニ向ヒ出發セリ
 官報抄錄二十一年十月十一日
 來ル十七日神嘗祭ニ付キ非役從四位以上勳三等以上ノ輩ハ午後十二時ヨリ午後一時迄ニ非役從六以上勳六等以上ノ輩ハ午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スヘシ
 式 部 職

官報抄錄二十一年十月十二日
 來ル十七日神嘗祭ニ付キ有爵并ニ有位ノ輩大禮服用左ノ時間ニ參拜スヘキ旨ヲ昨十一日徳大寺爵位
 局長官ヨリ在京華族ニ達シタリ
 午後一時ヨリ午後一時迄 有爵並ニ從四位以上ノ輩
 午後一時ヨリ同二時迄 正從五位ノ輩

明治二十二年同上

神宮御遙拜次第 二十二年十月十七日

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス神嘉殿ノ南庇ヲ用フ

其儀神嘉殿ノ南庇ニ四尺ノ御屏風二雙ヲ立廻シ其内ニ簀薦二枚ヲ敷キ上ニ御座ヲ設ク

次宮内省官員便宜ノ所ニ候ス

同第十時 出御

次 御拜畢テ 入御

皇太后宮 皇后宮便殿ニ於テ 御遙拜

賢所御親祭次第 二十二年十月十七日

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス大眞賢木恒ノ如シ

次宮内省官員著床

次開扉

此間奏樂

次神饌ヲ供ス

此間奏樂

同第十時親王大臣勅任官及齋香間祇候著床

出御

次御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御布告文ヲ奏シ給フ御鈴畢テ 入御

御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ

次親王大勳任官及齋香間祇候拜禮

次宮内省奏任官判任官拜禮

次神饌ヲ撤ス

此間奏樂

次開扉

此間奏樂

次各退出

同第十一時宮内省官員著床

次開扉

皇太后宮 皇后宮 御拜御玉串ヲ奉リ給フ

御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜

同時奏任官及奏任待遇ノ輩准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上門跡寺院住職等參拜

午後第一時ヨリ同第二時迄判任官及判任待遇ノ輩准判任等參拜

次開扉

次各退出

内閣書記官長通達 二十二年十月八日

來ル十七日神嘗祭ニ付

一 勅任官ノ面々午前九時四十分

賢所前奏集所ニ參集

一 奏任官並奏任待遇ノ輩及判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩午十二時ヨリ午後一時迄ニ參拜

一 判任官並判任待遇ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜

右ノ通式部長官ヨリ通知有之候間此旨及御通達候也

官報抄錄 二十二年十月十一日

來ル十七日神嘗祭ニ付キ非位從六位以上勳六等以上ノ輩午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜スヘシ

官報抄錄 二十二年十月十一日

爵位局長ハ昨十日ヲ以テ來ル十七日神嘗祭ニ附キ有爵並ニ有位ノ輩大禮服用午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜スヘキ旨在京華族ヘ達セリ

神宮御遙拜次第 二十三年十月十七日

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス神嘉殿ノ南庇ヲ用フ

其儀神嘉殿ノ南庇ニ四尺ノ御屏風二雙ヲ立廻シ其内ニ簀薦一枚ヲ敷キ上ニ御座ヲ設ク

次宮内省官員便宜ノ所ニ候ス

同第十時 出御

次 御拜畢テ 入御

皇太后宮 皇后宮便殿ニ於テ 御遙拜

皇太子殿下御代拜便殿ニ於テ奉仕ス

寶所御親祭次第

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス大眞賢木恒ノ如シ

次宮内省官員著床

次閉扉

此間奏樂

次神饌ヲ供ス

此間奏樂

同第十時親王勅任官及齋香間祇候著床

出御

次御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御布告文ヲ奏シ給フ御給畢テ 入御

御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ

次親王勅任官及齋香間祇候拜禮

次宮内省奏任官判任官拜禮

次神饌ヲ撤ス

此間奏樂

次閉扉

此間奏樂

次各退出

同第十一時宮内省官員著床

次閉扉

皇太后宮 皇后宮 御拜御玉串ヲ奉リ給フ

御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

次皇太子殿下御代拜御玉串ヲ捧ク

正午十二時ヨリ午後第一時迄神佛各宗派管長有爵者非役從四位以上同勳三等以上等參拜

同時奏任官及奏任待遇ノ輩准奏任神職奏任非役從六位以上同勳六等以上門跡寺院住職等參拜

午後第一時ヨリ同第二時迄判任官及判任待遇ノ輩准判任等參拜

次閉扉

次各退出

内閣書記官長心得通達二十三年十月十四日
神嘗祭參拜ノ儀別紙ノ通式部長ヨリ通知有之候條此段及御通達候也
式部長官通達二十三年十月八日

來ル十七日神嘗祭ニ付
一勅任官以上ノ面々午前九時四十分

一寶所前參集所へ參集

一奏任官奏任待遇ノ輩並判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時マテニ

一判任官判任待遇ノ輩午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜
右之通夫々御達可有之此段及御通知候也
官報抄錄二十三年十月二十五日

第三師團歩兵第十八聯隊第五中隊ハ神嘗祭ニ附キ伊勢神宮へ儀仗兵トシテ本月十四日出發セリ
官報抄録二十三年十月十三日
本月十七日神嘗祭ニ付非役従六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後一時マテニ参拜スヘシ
式 部 職

明治二十一年天皇御節
儀制門

天長節御祭典次第 二十一年十一月三日

本日早旦御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 大眞賢木

次前第九時宮内省官員著床

次開扉三前 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞

次御代拜御玉串ヲ捧ク

次皇后宮御代拜同上

次宮内省勅任官拜禮 次同奏任官判任官拜禮

次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出

内閣書記官長通達二十一年十月二十五日

來ル十一月三日

天長節ニ付奏任官以下参賀之儀別紙ノ通り式部長官ヨリ通知有之候且奏任官ハ酒饌可下賜ニ付當日
午前十一時出頭可有之此旨及御通達候也

別紙

式部長官通達二十一年十一月二十二日

來ル十一月三日

天長節ニ付奏任官并准奏任及判任官以下ニシテ従六位以上勳六等以上ノ輩午前九時ヨリ午後二時迄ニ
宮内省へ参賀候様御達可有之此旨及御通知候也

但奏任官ハ酒饌賜方例ノ通り御計取有之度候也

○勅任官以上ハ別ニ案内狀ヲ發シ宴會ニ招待ス以下々々同シ

來ル十一月三日

天長節ニ付各局判任官ノ輩ハ當日午前十時内閣へ参賀候様御達可有之此旨及御通達候也

官報抄録二十一年十月二十五日
來ル十一月三日天長節ニ付非役従六位以上勳六等以上ノ輩午前九時ヨリ午後二時迄ニ宮内省へ参賀ス
ヘシ

式 部 職

官報抄録二十一年十月二十七日

來ル十一月三日天長節ニ付キ有爵并ニ有位ノ輩大禮服用午前九時ヨリ午後二時迄ニ本省へ参賀スヘ
シ但シ當日酒饌下賜候ニ付キ午前十時ヨリ午後十二時ニ芝離宮へ参上スヘキ旨昨二十六日徳大寺爵位局

長官ヨリ在京華族へ達シタリ

官報抄録二十一年十月三十一日

來ル十一月三日
天長節ニ付キ非役正七位以下勳七等以下ノ輩同日午前第十時當廳へ参賀スヘシ

東 京 府 廳

二十二年同文廣告アリ東京府公報ニ載ス但シ第十時ヲ第十時三十分ニ作ル二十三年モ亦同シ但シ午
前第十一時ニ作ル

官報抄録二十一年十一月五日

文部省ニ於テハ今般左ノ天長節歌ヲ選定セリ其歌ハ式部次官男爵高崎正風作ニ係リ其曲ハ第一種ハ東
京音樂學校長伊澤修二作ニ係リ第二種ハ同校教員上眞行作ニ係ル

あまのひかげのかはらね世のうきものゆきかひにはれみ曇りみ定まらで七もいせになりぬるを
今はとおこる時つかせ四方のむら雲ふきはらひ豊さかのなるみひかりをわふく御代こそ樂しけれ

合唱 君は千代ませ八千代ませ君は千代ませ八千代ませ

二段

やまどにしきのうるはしきいろもいよにほふべく大和だましひたぐひなきひかりますくそいぬ
べくひらきたまへるもろくのまなびの道もなすわさもならびすゝみてつきにひに榮ゆく御代こそ樂
しけれ

合唱

君は千代ませ八千代ませ君は千代ませ八千代ませ

三段

よろづのくにもへだてじと水門のどざし開きたるやしまの海のかぎりなくひろきみこゝろまたひつゝ
大船小舟につもる積みて運べば年々に民のけふりもたちそひてよきはふ御代こそ樂しけれ

合唱

君は千代ませ八千代ませ君は千代ませ八千代ませ

四段

めぐみのつゆのかゝらずば民草いかに榮ゆべき此大御代にうまれずばこのさちいかでえらるべき玉のうてなも柴の月もわがおほきみのよるづ代といはふさかづきとりにうたふ今日こそ樂しけれ

君は千代ませ八千代ませ君は八千代ませ八千代ませ、
一昨三日辻文部次官ノ催ニテ上野公園内華族會館ニ於テ天長節歌演奏會ヲ開ケリ其概況ハ午後三時東京音樂學校教員生徒ノ洋琴奏樂アリ次ニ式部次官男爵高崎正風作歌東京音樂學校教員上眞行作曲ニ係ル天長節歌四段ヲ洋琴ニ合奏シ次ニ辻文部次官左ノ祝詞ヲ述フ
國ノ令辰佳節ニ逢フテ之ヲ歌頌スルハ臣民ノ至樂ナリ而シテ獨リ歌頌スルハ人ト俱ニ歌頌スルノ益々樂キニ如カス少ト俱ニ歌頌スルハ衆ト俱ニ歌頌スルノ益々樂キニ如カサルヘシ是本日文部省ノ此天長節歌演奏會ヲ舉行スル所以ナリ冀クハ滿堂ノ貴賓各々懇々ノ感情ヲ表セラレ俱ニ此歌曲ヲ唱ヘ以テ我天皇陛下ノ爲ニ聖德鴻業ヲ奉頌シ我天皇陛下ノ爲ニ千秋万歳ヲ奉祝セラレシコトヲ次ニ同歌東京音樂學校校長伊澤修二作曲ニ係ル一段ヨリ四段ニ至ルヲ四部合唱ニテ洋琴ニ合奏シ終ニ又東京音樂學校教員生徒ノ管絃奏樂アリ當日來賓ハ無慮四百餘名ナリ

明治二十二年同上

天長節御祭典次第二十二年十一月三日

本日早旦御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 大眞賢木 恒ノ如シ

午前第九時宮内省官員著床

次開扉三前 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞

次御代拜御玉串ヲ捧ク

次皇太后宮御代拜同上

次皇后宮御代拜同上

次宮内省勅任官拜禮 次同奏任官判任官拜禮

次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉 此間奏樂 次各退出

内閣書記官長通達二十二年十月二十三日

來ル十一月三日

天長節ニ付奏任官并奏任待遇ノ輩及判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩午前九時ヨリ午後二時マテニ宮内省ヘ參賀且奏任官ヘハ酒饌可下賜ニ付當日午前十一時内閣ヘ出頭可有之此旨及御通達候也

内閣書記官長通達二十二年十月二十三日

明治二十三年同上

内閣送第一八二號

來ル十一月三日

天長節ニ付各局判任官ノ輩午前十一時内閣ヘ參賀候様御達可有之此旨及御通達候也

官報抄錄二十二年十月二十八日

爵位局長ハ一昨二十六日ヲ以テ來ル十一月三日天長節ニ附キ有爵並ニ有位ノ輩大禮服着用午前九時ヨリ午後二時マテニ參賀スヘシ但シ當日酒饌下賜ハルニ附キ午前十時ヨリ午後十二時マテニ芝離宮ヘ參上スヘキ旨ヲ在京華族ヘ達セリ

明治二十三年同上

天長節御祭典次第二十二年十一月三日

本日早旦御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 大眞賢木 恒ノ如シ

午前第九時宮内省官員著床

次開扉三前

此間奏樂

次神饌ヲ供ス

此間奏樂

次祝詞

次御代拜御玉串ヲ捧ク

次皇太后陛下御代拜同上

次皇后陛下御代拜同上

次皇太子殿下御代拜同上

次宮内省勅任官拜禮

次同奏任官判任官同上

次神饌ヲ撤ス

此間奏任

次閉扉

此間奏樂

次各退出

内閣書記官長心得通達二十三年十月二十九日

來ル十一月三日 天長節ニ付奏任並奏任待遇ノ輩及到任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後二時迄ニ宮内省へ參賀且奏任官へハ酒饌可下賜ニ付午前十一時内閣へ出頭可有之此段及御通達候也

内閣書記官長心得通達二十三年十月二十九日 來ル十一月三日 天長節ニ付各局到任官ノ輩午前十一時内閣へ參賀候様御達可有之此段及御通達候也

官報抄錄二十三年十月二十三日 天長節ニ付キ非從從六位以上勳六等以上ノ輩正午十二時ヨリ午後二時マテニ參賀スヘシ

式部 職

官報抄錄二十三年十月二十五日 來ル十一月三日 天長節ニ付キ有爵并ニ有位ノ輩へ芝離宮ニ於テ酒饌ヲ下賜フヘキ處目下惡疫未タ消滅セス稍々懸念ノ次第アルニ依リ代料ヲ以テ下賜フニ附キ同日午後二時ヨリ午後二時迄ニ爵位局ニ於テ受取ルヘキ旨ヲ同日同局長コリ在京華族へ達シタリ

明治二十一年十一月天長節儀式

宮内省ヨリ陸軍省へ通牒二十一年十月二十二日 來ル十一月三日

天長節ニ付午前八時三十分 御出門青山練兵場へ 行幸觀兵式被爲行候旨被仰出候條此段及御達候也

但前日大雨又ハ當日微雨ニテモ 行幸不被爲在候事

宮内省ヨリ參軍へ通牒二十一年十月二十二日

前同文 行幸被爲在候條此段及御通知候也

但同文

宮内省ヨリ近衛都督へ通牒二十一年十月二十二日

前同文 行幸園簿第二公式ニ候條此段及御通知候也

但同文

追テ御道筋ハ別紙ノ通ニ候也

宮内省ヨリ警視總監へ通牒二十一年十月二十二日

來ル十一月三日

天長節ニ付午前八時三十分 御出門青山練兵場へ 行幸觀兵式被爲行園簿第二公式ニ候條先驅ノ警視以下御出門時限前可被差出此段及御通達候也

但前日大雨又ハ當日微雨ニテモ 行幸不被爲在候且御道筋ハ別紙ノ通ニ候條差支有之節ハ早々可被

申越候也

官報抄錄二十一年十一月二日

明三日天長節觀兵式ノ手續左ノ如シ

第一 觀兵式場ハ青山練兵場トス

第二 諸兵隊ハ當日午前八時第一圖ノ如ク式場ニ整列ス

第三 陛下臨御アラントスル稍々前ニ於テ諸兵指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ爲ス此號音ニテ步兵隊ハ著劍肩銃シ他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ動作ヲ爲ス

第四 陛下臨御アレハ諸兵指揮官先ツ式場東入口(青山御所西門前)ニ奉迎ス同時軍樂隊及諸隊ノ喇叭

率ハ「君ケ代」一同ヲ吹奏ス諸兵隊ハ捧銃若クハ捧刀ヲ將校ハ刀ヲ以テ敬禮シ軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス

第五 閱兵ニ方リ諸兵指揮官ハ隊列ノ右翼定位ヨリ凡ソ十歩ノ所ニ進ミ 陛下ヲ奉迎シ以テ閱兵ノ奉

導ヲ爲ス

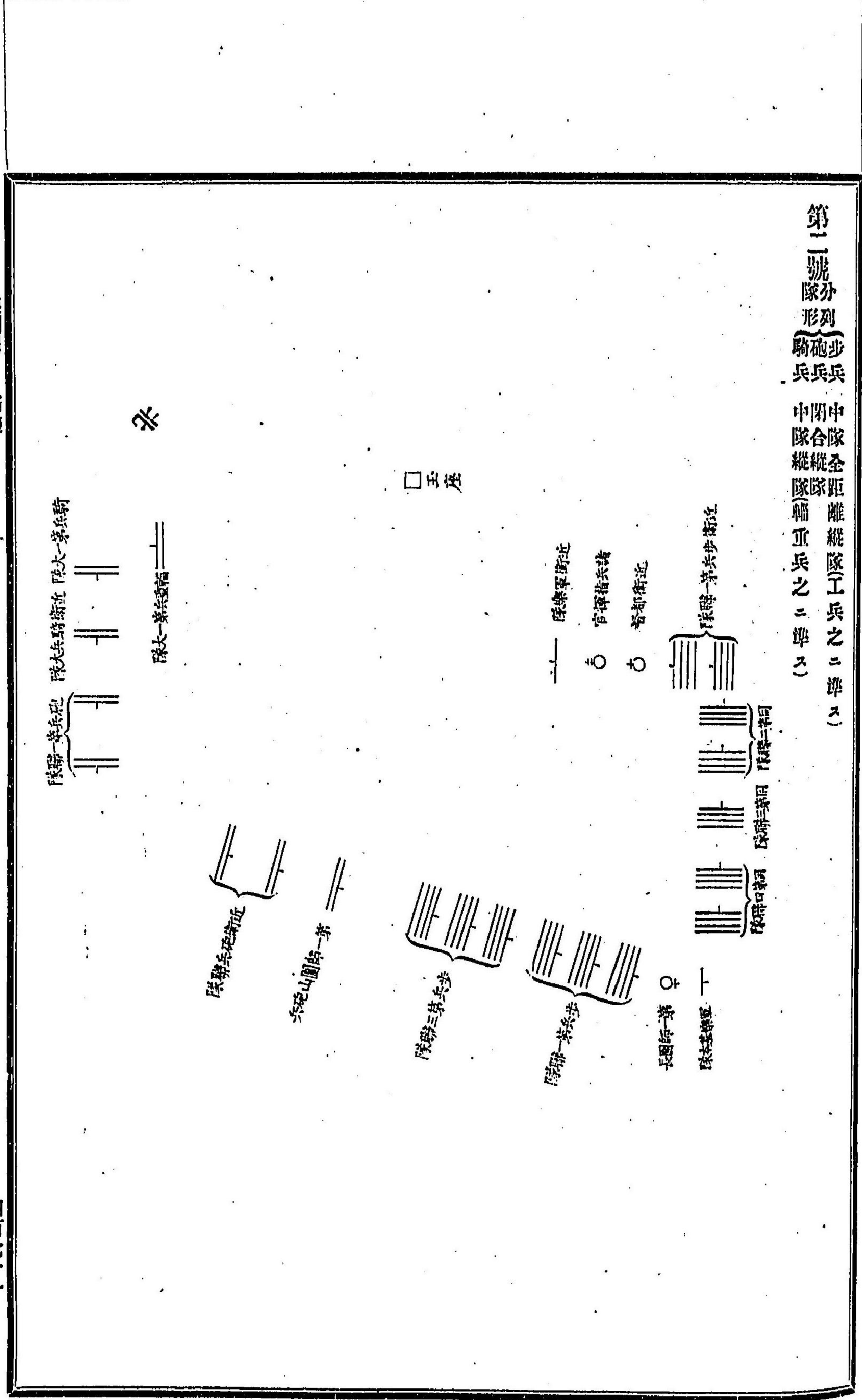
第六 諸隊兵ハ陛下其隊列ノ右翼ニ到リ給ヘハ捧銃若クハ捧刀ヲ爲シ軍樂隊及喇叭率ハ「君ケ代」ヲ吹

奏シ將校軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス其隊ノ閱兵終リ喇叭ノ吹奏ヲ止ムルハ次隊ノ喇叭率次奏ヲ始ムル時ニ

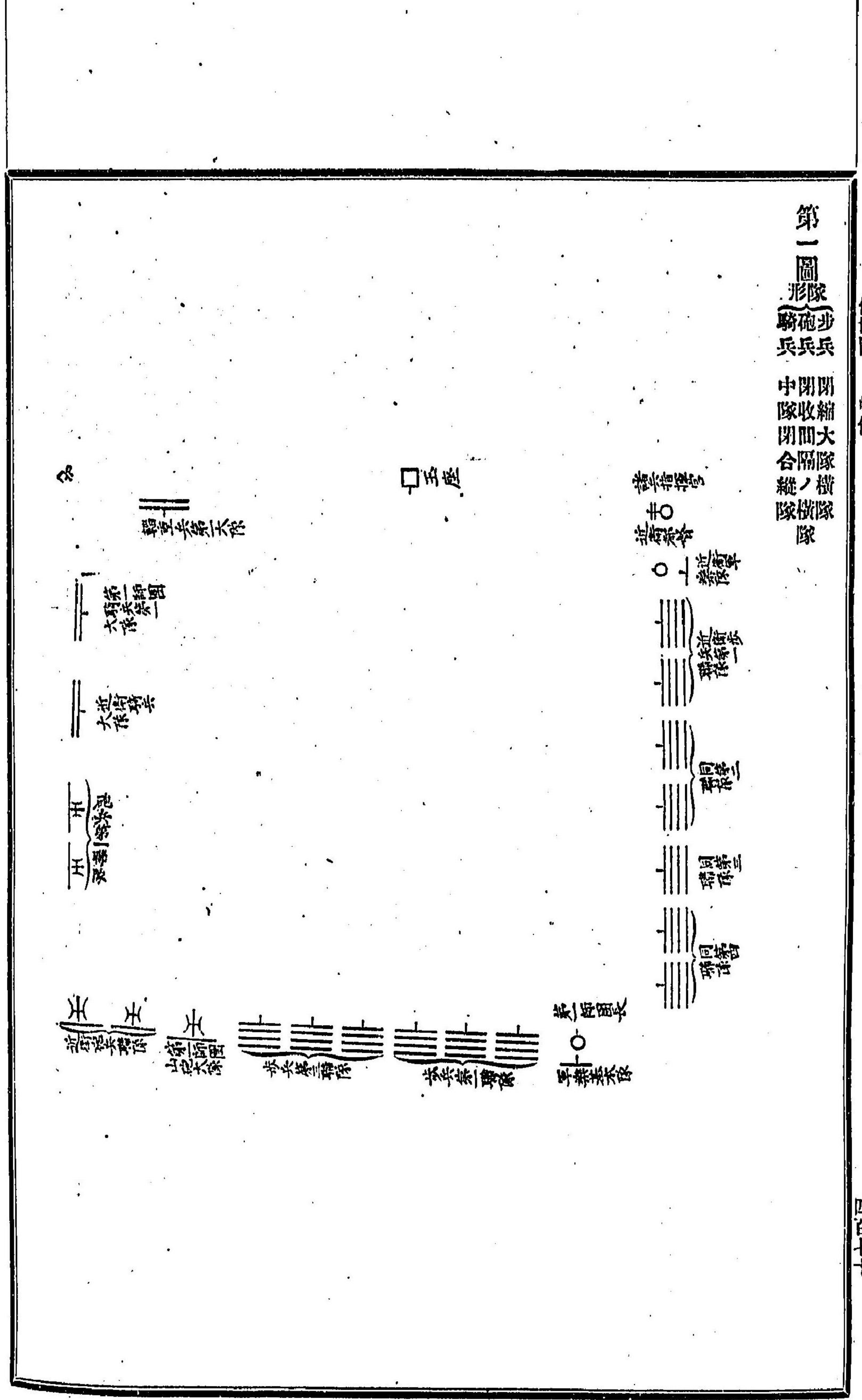
於テス此時步兵隊ハ建銃ヲ爲シ他兵ハ之ニ準スルノ姿勢ヲ爲ス

- 第七 各隊長ハ其隊ノ閱兵終ルヤ第二圖ノ如ク隊形ヲ變換シ以テ分列ノ準備ヲ爲ス
 - 第八 諸兵指揮官ハ分列ノタメ「前へ」ノ號音ノ爲ス此號音ニテ先ツ頭部隊ヨリ順次ニ距離ヲ取り「著
劍ノ儘」行進ヲ始ム
 - 第九 分列ノ時諸兵指揮官ハ諸兵隊ヲ率テ行進シテ以テ敬禮ヲ行ヒタル後 陛下ニ對シ縱隊左側ヨ
リ二十歩ノ地ニ占位ス
 - 第十 分列ノ時軍樂隊ハ奏樂爲シツ、行進シ 陛下ノ前面三十歩通過スルノ後左側面行ニテ諸兵指揮
官ノ齊頭ノ地ニ到リ縱隊ノ左側ニ對シテ占位ス
 - 第十一 近衛軍樂隊ハ所屬步兵隊ノ分列間奏樂シ軍樂基本隊ノ奏樂ヲ始ムルニ至レハ奏樂ヲ止メ第三
圖ニ示ス位地ニ移ル
 - 第十二 軍樂基本隊ハ所屬諸兵隊及近衛騎、砲兵隊ノ分列間奏樂ヲ爲シ終テ第三圖ニ示ス位地ニ移ル
 - 第十三 野砲兵、騎兵及輜重兵隊ノ分列ハ速歩ヲ以テス
 - 第十四 分列ノトキ步兵隊ハ 陛下ヨリ五十歩ノ地ニ到レハ肩銃ヲ爲シ五十歩ヲ過クレハ擔銃ヲ爲ス
他ノ諸兵ハ之ニ準シ將校軍旗ハ 陛下ヲ距ル六歩前ニ於テ敬禮ヲ爲シ六歩ヲ過キ舊姿勢ニ復ス
 - 第十五 分列終レハ遂次諸兵隊ハ第三圖ノ如ク閉合ノ隊形ヲ取り左側面トナリ步兵隊ハ建銃他ノ諸
兵ハ之ニ準ルノ姿勢ヲ爲シ奉送ノ準備ヲ爲ス
 - 第十六 陛下還御ノ時諸兵指揮官ハ奉送ノタメ一聲ノ號音ヲ爲ス此號音ニテ軍樂隊及喇叭卒ハ「君ケ
代」三回ヲ奏シ諸兵ハ捧銃若クハ捧刀ヲ爲シ將校軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス
 - 第十七 陛下還御ノ後諸兵指揮官ハ「解散」ノ號音ヲ爲ス此號音ニテ諸兵隊皆退場ス
- 注意書
- 一 式場ノ都合ニ依リ諸隊ハ其定間隔ヲ減縮シ觀兵式手續書第一圖ニ示ス通位置スヘシ
 - 一 分列ノ時敬禮點ヲ表スルタメ 陛下ヨリ五十歩前後ノ兩點ニ標兵ヲ置ク
 - 一 奉送ノタメ諸兵隊側面ノ隊形(第三圖)ニ轉スル時喇叭卒ハ其隊ノ後方ニ移ルヘシ

- 一 輜重兵隊ハ乘馬編成ヲ以テ出場スヘシ
- 一 號音及傳令等ノタメ第一師團騎兵大隊ヨリ下士二名、喇叭卒二名當日式場ニ於テ諸兵指揮官ノ
許ニ出スヘシ
- 一 觀兵式ニ出場スヘキ諸兵隊將校以下ノ人員表ヲ近衛師團毎ニ取調當日午前八時十分マテニ觀
兵式場ニ於テ諸兵指揮官ニ進呈スヘシ
- 一 當日微雨又ハ前日大雨ナレハ諸隊出場ニ及ハス

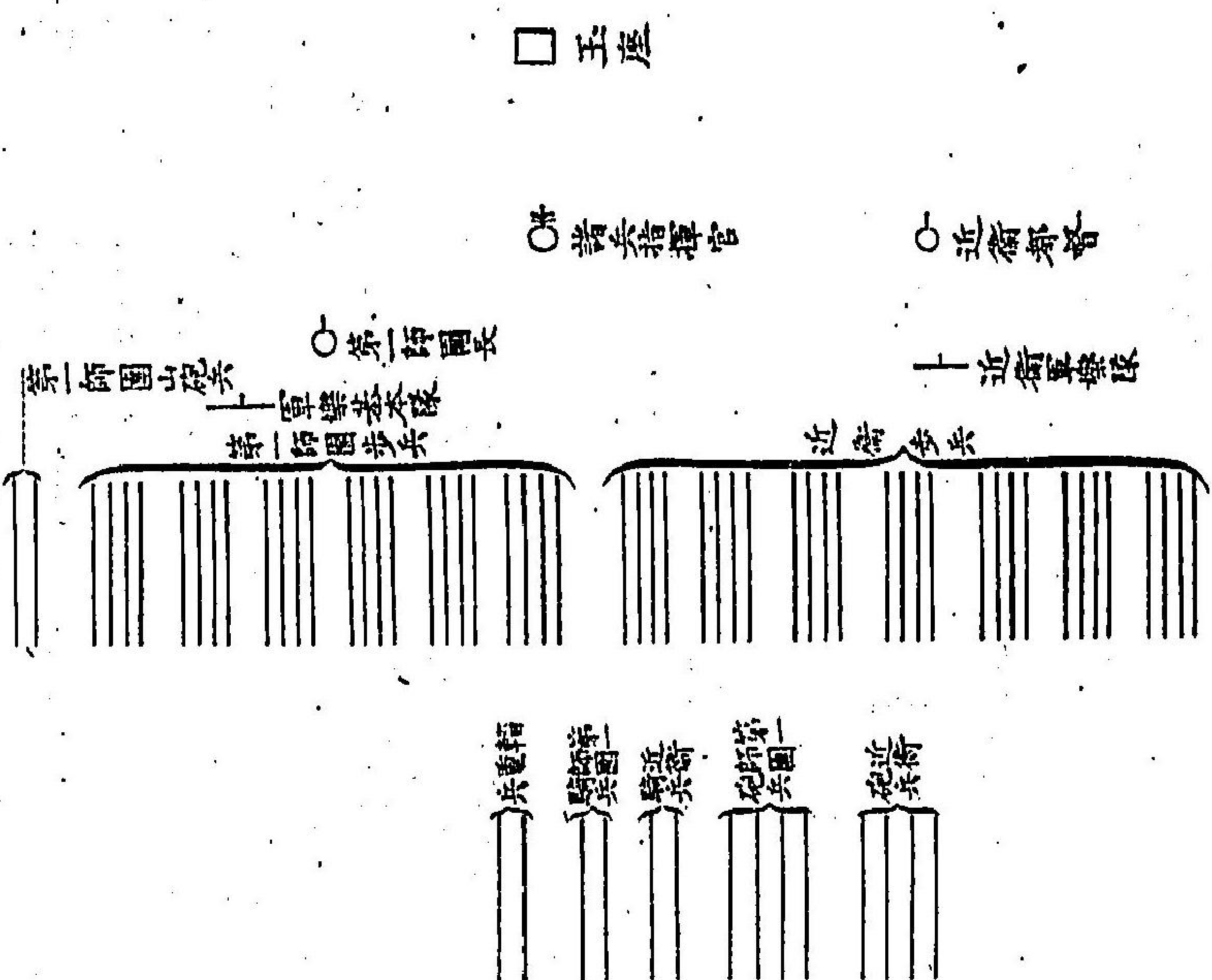


第二號分形(步兵) 中隊全距離縱隊(步兵之標準)



第一號分形(步兵) 中隊全距離縱隊(步兵之標準)

第三圖形 歩兵左側面他兵之準ニ



明治二十二年同上

宮内省ヨリ陸軍省へ通牒 二十二年十月二十一日
來ル十一月三日 天長節ニ付午前八時三十分御出門青山練兵場へ行幸觀兵式被爲行候旨被仰出候條此
段及御達候也

但前日大雨又ハ當日微雨ニテモ行幸不被爲在候事

宮内省ヨリ近衛都督へ通牒 二十二年十月二十一日

前同文

行幸觀兵式被爲行函薄ハ第二公式ニ候條此段及御通知候也

但同文

追テ御道筋ハ別紙ノ通ニ候也

宮内省ヨリ警視廳へ通牒 二十二年十月二十一日

前同文

函薄第二公式ニ候條先驅ノ警視以下可被差出且御道筋別紙之通ニ有之候條支障有之候ハ、早々御申出
可有之此段及御通達候也 (別紙見ス)

但同文

宮内省ヨリ各國公使へ通牒 二十二年十月二十八日

來ル十一月三日 天長節ニ付青山練兵場ニ於テ觀兵式被爲行候間此段及御通知候敬具

追テ閣下并公使館附各員中御來觀ノ節ハ大禮服御着用午前八時四十分迄ニ御參著相成度尤前日大雨

又ハ當日微雨ニテモ該式不被爲行候也

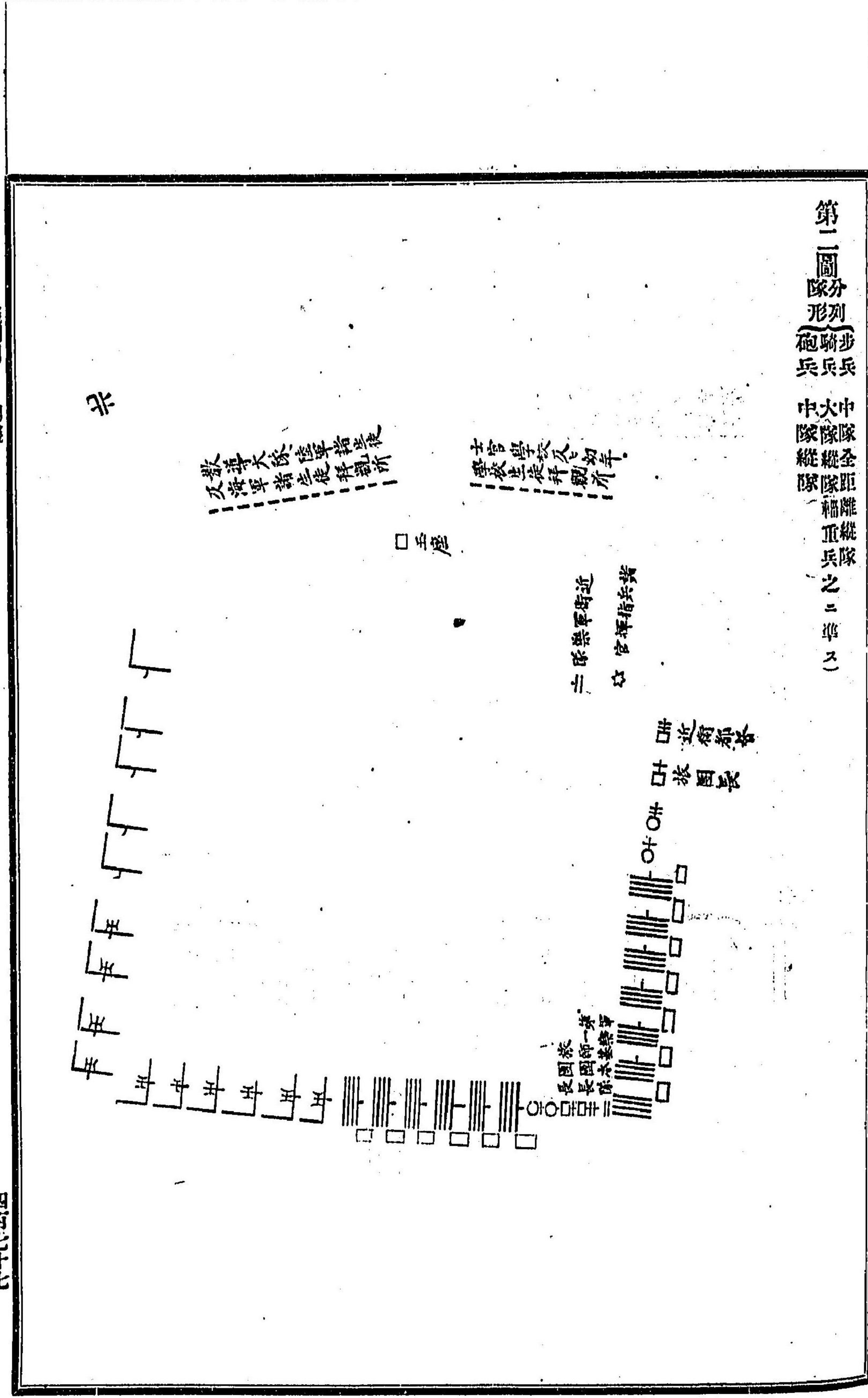
公使館附人員無之分ハ追書中閣下以下各員中マテノ十字ヲ削ル

官報抄錄 二十二年十一月三日

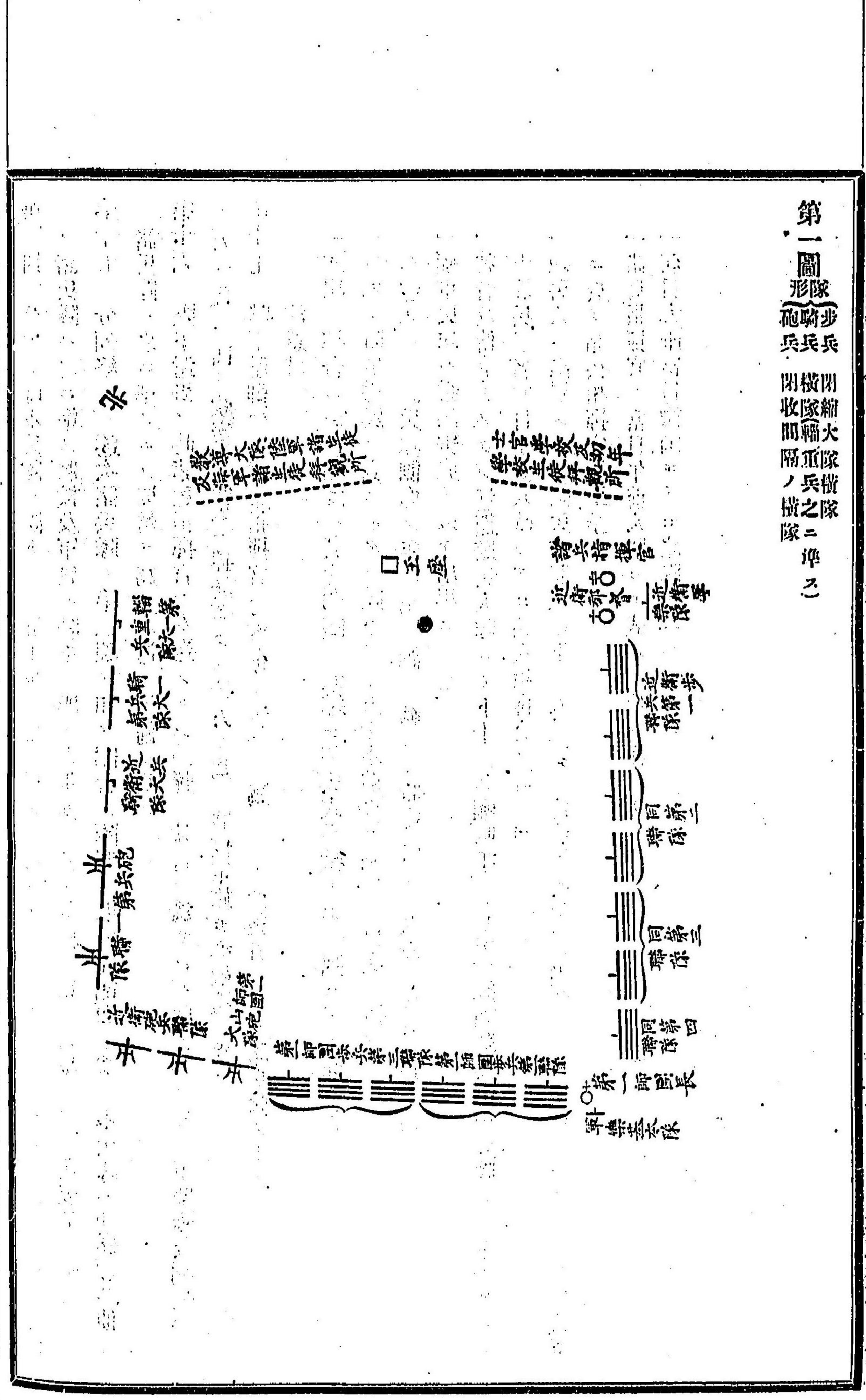
明三日天長節觀兵式ノ手續ハ左ノ如シ

第一 觀兵式場ハ青山練兵場トス
 第二 諸兵隊ハ當日午前八時第一圖ノ如ク式場ニ整列ス
 第三 天皇陛下臨御アラントスル稍々前ニ於テ諸兵指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ爲サシム此號音ニ於テ諸兵隊ハ著劍肩銃シ其他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ動作ヲ爲ス
 第四 陛下臨御アレハ諸兵指揮官先ツ式場東入口(青山御所西門前)ニ奉迎ス同時軍樂隊及諸隊ノ喇叭手ハ「君ケ代」一回ヲ吹奏ス諸兵隊ハ捧銃若クハ捧刀ヲ將校ハ刀ヲ以テ敬禮シ軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス
 第五 關兵ニ方リ諸兵指揮官ハ隊列ノ右翼定位ヨリ凡ソ十歩ノ所ニ進ミ陛下ヲ奉迎シ以テ關兵ノ奉導ヲ爲ス
 第六 諸兵隊ハ陛下其隊列ノ右翼ニ到リ給ヘハ捧銃若クハ捧刀ヲ爲シ軍樂隊及喇叭手ハ「君ケ代」ヲ吹奏シ將校軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス其隊ノ關兵終リ喇叭ノ吹奏ヲ止ムルハ兵隊ノ喇叭手吹奏ヲ始ムル時ニ於テス此時步兵隊ハ建銃ヲ爲シ其他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ姿勢ヲ爲ス
 第七 各隊長ハ其隊ノ關兵終ルヤ第二圖ノ如ク隊形ヲ變換シ以テ分列ノ準備ヲ爲ス
 第八 諸兵指揮官ハ分列ノ爲メ「前」ノ號音ヲ爲ス此號音ニ於テ先頭部隊ヨリ順次ニ距離ヲ取り著劍ノ(儘)行進ヲ始ム
 第九 分列ノ時諸兵指揮官ハ諸兵隊ヲ率ヒ行進シ刀ヲ以テ敬禮ヲ行ヒタル後陛下ニ對シ縱隊左側ヨリ二十歩ノ地ニ占位ス
 第十 分列ノ時近衛軍樂隊ハ奏樂ヲ爲シツ、進行シ陛下ノ前面三十歩通過スルノ後左ニ方向ヲ變換シテ諸兵指揮官ノ左側齊頭ノ地ニ到リ縱隊ニ面シテ占位シ所屬步兵隊ノ分列間奏樂ス
 第十一 軍樂基本隊ハ近衛軍樂隊奏樂ヲ止ムルヤ直ニ奏樂ヲ始メ近衛軍樂隊ト同様ノ動作ヲ爲シ第一師團諸兵隊及近衛騎兵砲兵隊ノ分列間奏樂ヲ爲ス
 第十二 近衛軍樂隊及軍樂基本隊ハ奏樂ヲ終レハ直ニ第三圖ニ示ス位置ニ移ル
 第十三 野砲兵騎兵及輜重兵隊ノ分列ハ速歩ヲ以テ行フ

第十四 分列ノ時步兵隊ハ陛下ヨリ五十歩ノ地ニ到レハ肩銃ヲ爲シ五十歩ヲ過クハ擔銃ヲ爲ス其他ノ諸兵隊ハ之ニ準ス將校及軍旗ハ陛下ヲ距ル六歩前ニ於テ敬禮ヲ爲シ六歩ヲ過キ舊姿勢ニ復ス
 第十五 分列終レハ逐次諸兵隊ハ第三圖ノ如ク閉合ノ隊形ヲ取り左側面ト爲リ步兵隊ハ建銃、其他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ姿勢ヲ爲シ奉送ノ準備ヲ爲ス
 第十六 陛下還御ノ時諸兵指揮官ハ奉送ノタメ一聲ノ號音ヲ爲サシム此號音ニ於テ軍樂隊及喇叭手ハ「君ケ代」三回ヲ吹奏シ諸兵ハ捧銃若クハ捧刀ヲ爲シ將校軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス
 第十七 陛下還御ノ後諸兵指揮官ハ解散ノ號音ヲ爲サシム此號音ニ於テ諸兵隊皆退場ス
 注意書
 一 式場ノ都合ニ依リ諸隊ハ其定間隔ヲ減縮シ觀兵式手續書第一圖ニ示ス通位置スヘシ
 一 分列ノ時敬禮點ヲ表スルタメ陛下ヨリ五十歩前後ノ兩點ニ標兵ヲ置ク
 一 奉送ノタメ諸兵隊側面ノ隊形(第二圖)ニ轉スル時喇叭手ハ其隊ノ後方ニ移ルヘシ
 一 輜重兵隊ハ乘馬編成ヲ以テ出場スヘシ
 一 號音及傳令等ノタメ近衛騎兵大隊ヨリ下士二名喇叭手一名第一師團騎兵第一大隊ヨリ下士若クハ上等兵二名當日午前八時マテニ諸兵指揮官ノ許ニ出スヘシ
 一 觀兵式ニ出場スヘキ諸兵隊將校以下ノ人員表ヲ近衛師團毎ニ取調ヘ當日午前八時マテニ觀兵式場ニ於テ諸兵指揮官ニ進呈スヘシ
 一 諸兵指揮官ハ當日午前八時ヨリ式場玉座前面ニアリ
 一 前日大雨當日微雨ニテモ諸隊出場ニ及ハス

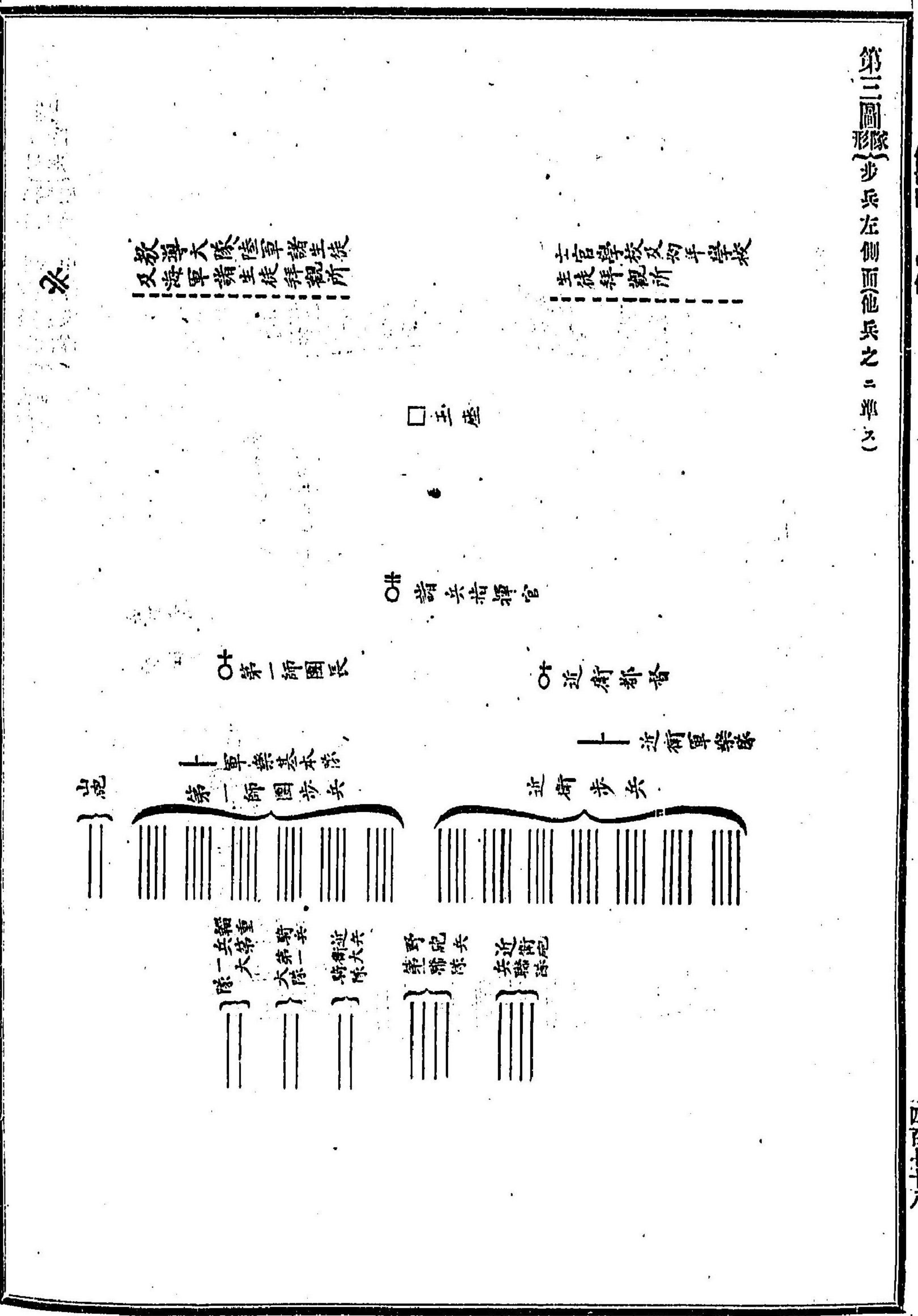


第二圖 隊分形列



第一圖 形隊

第三圖形 歩兵左側面他兵之ニ準之



明治三十三年同上

官報抄録二十二年十月二十二日
 來ル十一月三日 天長節ニ附キ午前八時三十分御出門青山練兵場へ行幸觀兵式行ハセラル、旨仰出サ
 レタリ尤モ前日大雨又ハ當日微雨ニテモ行幸アラセラルレタル御都合ナリ御道筋ハ左ノ如シ
 正門御出門右へ櫻田門虎門ヲ經テ翠平町右へ葵阪ヲ上リ左へ右へ赤阪田町通同町一丁目左へ傳馬町
 牛啼阪ヲ上リ青山御所外廓ニ沿ヒ右へ左へ青山練兵場ニ到ル
 官報抄録二十二年十一月五日
 豫テ仰出サレシ如ク一昨三日 天皇陛下ハ午前八時三十分御出門青山練兵場へ行幸觀兵式ヲ行ハセラ
 レ十時五十分還御アラセラレタリ

宮内大臣ヨリ陸軍大臣へ通牒 二十三年十月二十五日
 來ル十一月三日

天長節ニ付午前八時三十分 御出門青山練兵場へ 行幸觀兵式被爲行候旨被 仰付候條此段及御達候
 也

但前日大雨又ハ當日微雨ニテモ 行幸不被爲在候事
 宮内大臣ヨリ近衛都督へ通牒 二十三年十月二十五日

前同文
 行幸觀兵式被爲行儀第二公式ニ候條此段及御通牒候也

但同文
 追テ御道筋ハ別紙之通ニ候也
 宮内大臣ヨリ警視總監へ通牒 二十三年十月二十五日

前同文
 園遊第二公式ニ候條先驅之警視以下可被差出且御道筋別紙之通ニ候條支障有之候ハ、早々可被申出候
 此段及御通牒候也(別紙略)

但同文
 式部職ヨリ各國公使へ通牒 二十三年十月二十八日

來ル十一月三日

天長節ニ付青山練兵場ニ於テ觀兵式被爲行候間此段及御通知候敬具

追テ閣下竝公使館附各員中御來觀ノ節ハ大禮服御着用午前八時四十分迄ニ御參著相成度尤前日大雨

又ハ當日微雨ニテモ該式不被爲行候也閣下以下十字ヲ附ル

式部職議案二十三年十月十日

來ル十一月三日
天長節觀兵式ニ付諸邊案別紙之通取調相候也

天長節觀兵式次第第二十三年十一月三日

一時刻諸兵隊青山練兵場へ著到ス

一午前八時三十分 御出門鹵簿第二公式

一臨幸ノ報ヲ得テ指揮官喇叭手ニ命シ號音ヲ爲サシム

一御著場指揮官以下入口ニ奉迎諸隊敬禮樂隊奏ス

一テント内ニ 入御

一御乘馬指揮官御先導ニテ場内御一週閱兵式ヲ行ハセラル

但親王以下乘馬扈從

一御一週畢テ分列式 御覽

但親王以下乘馬ノ儘陪覽

一式畢レハテント内ニ 入御續テ 還幸

一還幸ノ節諸隊ノ奉送奉迎ノ時ノ如シ

明治二十三年十一月天
長節觀兵式ハ觀止御風
氣ニ付行ハセラル

宮内大臣ヨリ陸軍大臣へ通牒 二十三年十一月一日

聖上御風氣ニ付天長節觀兵式不被爲行候旨被 仰出候條此段及御違候也

宮内大臣ヨリ近衛都督觀兵式諸兵指揮官へ通牒 二十三年十一月一日

前同文 及御通牒候也

宮内大臣ヨリ警視廳へ通牒 二十三年十一月一日

前同文 及御通牒候也

宮内大臣ヨリ各親王へ通牒 二十三年十一月一日

前同文 申進候也

追テ當日宴會ハ被爲行候間此段爲念申進候也

宮内大臣ヨリ各廳驛香間祇候へ通牒 二十三年十一月一日

前同文 及御通知候也

追テ同文申入候也

式部職ヨリ省中一般へ通牒 二十三年十一月一日

前同文

追テ同文 及御通知候也

式部職ヨリ各國公使へ通牒 二十三年十一月一日

來ル三日 天長節觀兵式ノ儀及御通知置候處

皇帝陛下御風氣ニ付觀兵式不被爲行候此段得貴意候敬具

官報抄錄二十三年十一月五日

一昨三日ハ天長節ニ付青山練兵場へ 行幸觀兵式行ハセラルヘキ處御風氣ニ付キ觀兵式行ハセラル
サレトモ午十二時ヨリ宮中ニ於テ御豫定ノ通宴會ヲ開カセラレタリ

官報抄錄二十三年十一月一日

明後三日天長節觀兵式手續左ノ如シ

第一 觀兵式場ハ青山練兵場トス
第二 諸兵隊ハ當日午前第八時第一圖ノ如ク式場ニ整列ス

- 第三 天皇陛下臨御アヲントスル稍々前ニ於テ諸兵指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ爲サシム此號音ニ於テ步兵隊ハ著劍肩銃シ其他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ動作ヲ爲ス
- 第四 陛下臨御アレハ諸兵指揮官先ツ式場東入口ニ奉迎ス同時軍樂隊及諸隊ノ喇叭手ハ「君ケ代」一同ヲ吹奏ス諸兵隊ハ捧銃若クハ捧刀ヲ將校ハ刀ヲ以テ敬禮シ軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス
- 第五 閱兵ニ方リ諸兵指揮官ハ隊列ノ右翼定位ヨリ凡ソ十歩ノ所ニ進ミ 陛下ヲ奉迎シ以テ閱兵ノ奉導ヲ爲ス
- 第六 諸兵隊ハ 陛下其隊列ノ右翼ニ到リ給ヘハ捧銃若クハ捧刀ヲ爲シ軍樂隊及喇叭手ハ「君ケ代」ヲ吹奏シ將校軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス其隊ノ閱兵終リ喇叭ノ吹奏ヲ止ムルハ次隊ノ喇叭手吹奏ヲ始ムル時ニ於テス此時步兵隊ハ建銃ヲ爲シ其他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ姿勢ヲ爲ス
- 第七 各隊長ハ其隊ノ閱兵終ルヤ第二圖ノ如ク隊形ヲ變換シ以テ分列ノ準備ヲ爲ス
- 第八 諸兵指揮官ハ分列ノタメ「前ヘ」ノ號音ヲ爲ス此號音ニ於テ先頭部隊ヨリ順次ニ距離ヲ取り「著劍ノ儘行進ヲ始ム
- 第九 分列ノ時諸兵指揮官ハ諸兵隊ヲ率ヒ行進シ刀ヲ以テ敬禮ヲ行ヒタル後 陛下ニ對シ縱隊左側ヨリ二十歩ノ地ニ占位ス
- 第十 分列ノ時近衛軍樂隊ハ奏樂ヲ爲シツ、進行シ陛下ノ前面三十歩通過スルノ後左ニ方向ヲ變換シテ諸兵指揮官ノ左側齊頭ノ地ニ到リ縱隊ニ面シテ占位シ所屬步兵隊ノ分列間奏樂ス
- 第十一 軍樂學舍生徒隊ハ近衛軍樂隊奏樂ヲ止ムルヤ直ニ奏樂ヲ始メ近衛軍樂隊ト同様ノ動作ヲ爲シ第一師團諸兵隊及近衛騎兵砲兵隊ノ分列間奏樂ヲ爲ス
- 第十二 近衛軍樂隊及軍樂學舍生徒隊ハ奏樂ヲ終レハ直ニ第三圖ニ示ス位置ニ移ル
- 第十三 野砲兵騎兵、及輜重兵隊ノ分列ハ速歩ヲ以テ行フ
- 第十四 分列ノ時步兵隊ハ 陛下ヨリ五十歩ノ地ニ到レハ肩銃ヲ爲シ五十歩ヲ過クレハ擔銃ヲ爲ス其他ノ諸兵隊ハ之ニ準ス將校及軍旗ハ 陛下ヲ距ル六歩前ニ於テ敬禮ヲ爲シ六歩ヲ過キ舊姿勢ニ復ス

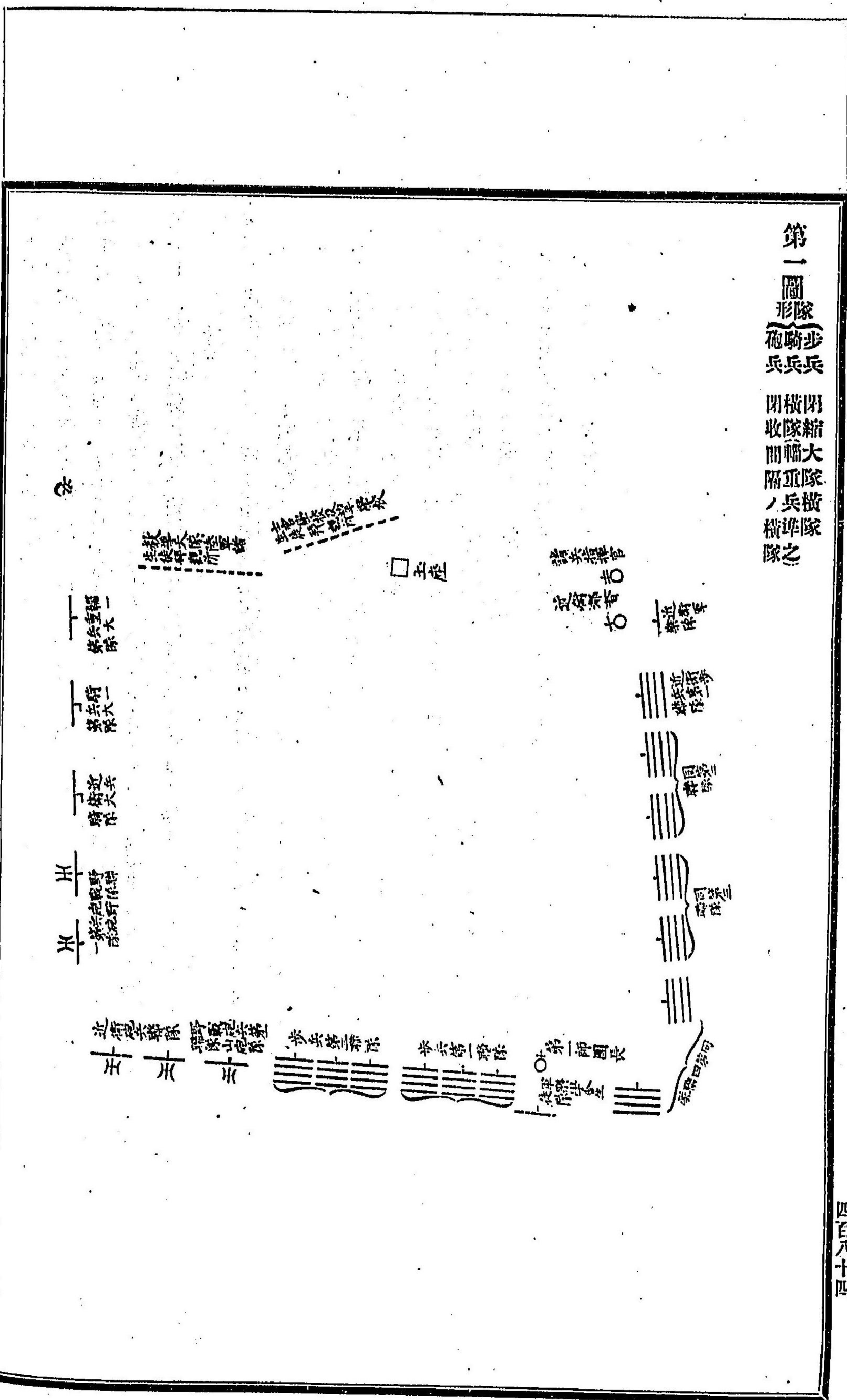
第十五 分列終レハ逐次諸兵隊ハ第三圖ノ如ク閉合ノ隊形ヲ取り左側面ト爲リ步兵隊ハ建銃、其他ノ諸兵隊ハ之ニ準スルノ姿勢ヲ爲シ奉送ノ準備ヲ爲ス

第十六 陛下還御ノ時諸兵指揮官ハ奉送ノタメ一聲ノ號音ヲ爲サシム此號音ニ於テ軍樂隊及喇叭手ハ「君ケ代」三回ヲ吹奏シ諸兵ハ捧銃若クハ捧刀ヲ爲シ將校軍旗モ亦敬禮ヲ爲ス

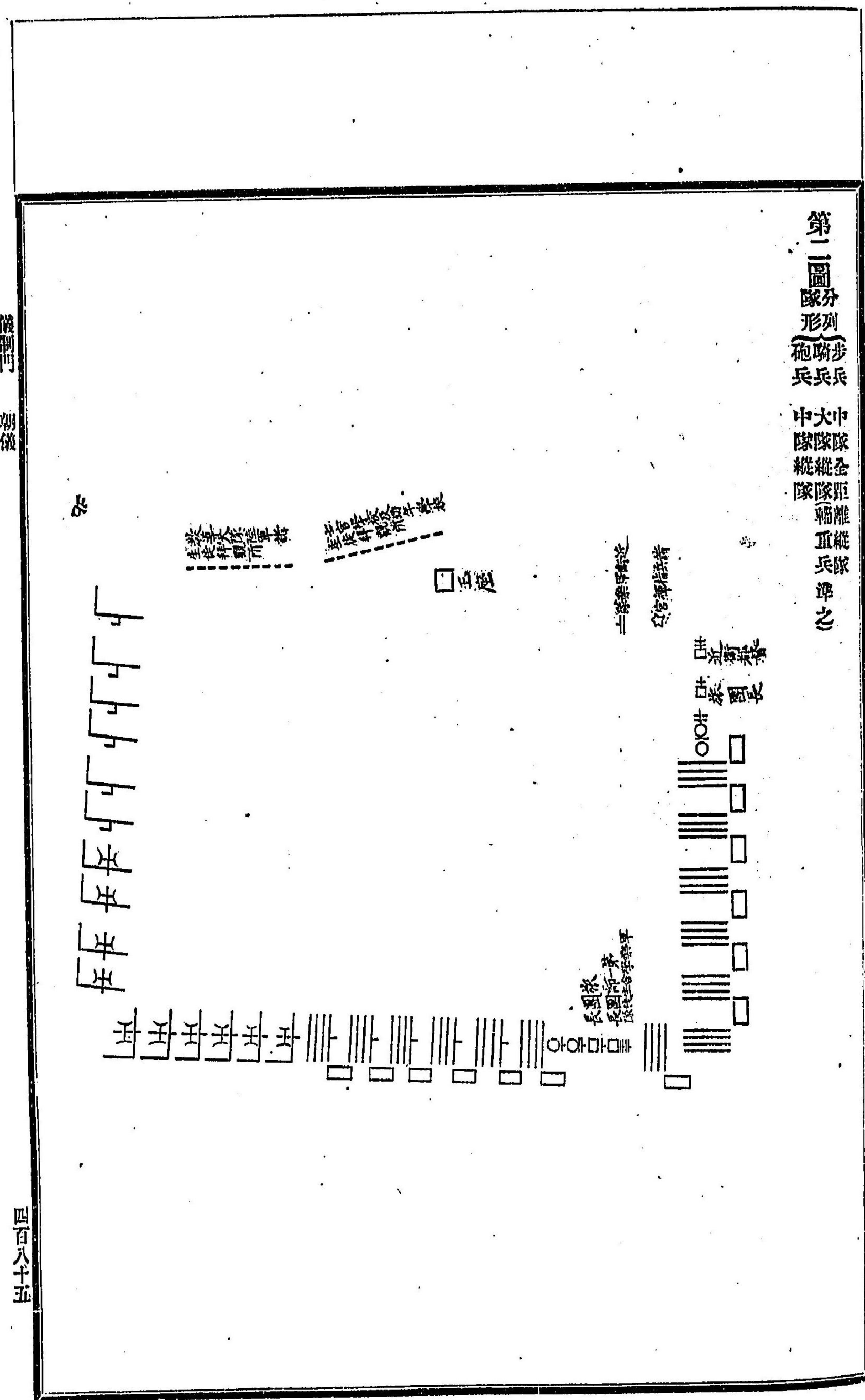
第十七 陛下還御ノ後諸兵指揮官ハ「解散」ノ號音ヲ爲サシム此號音ニ於テ諸兵隊皆退場ス

- 注意書
- 一 式場ノ都合ニ依リ諸隊ハ其定間隔ヲ減縮シ觀兵式手續書第一圖ニ示ス通り位置スヘシ
 - 一 分列ノトキ敬禮點ヲ表スルタメ 陛下ヨリ五十歩前後ノ兩點ニ標兵ヲ置ク
 - 一 奉送ノタメ諸兵隊側面ノ隊形(第三圖)ニ轉スル時喇叭手ハ其隊ノ後方ニ移ルヘシ
 - 一 輜重兵隊ハ乘馬編成ヲ以テ出場スヘシ
 - 一 號音及傳令等ノタメ近衛步兵隊ヨリ軍曹二名第一師團騎兵第一大隊ヨリ下士若クハ上等兵二名喇叭手一名當日午前八時迄ニ諸兵指揮官ノ許ニ出スヘシ
 - 一 觀兵式ニ出場スヘキ諸兵隊將校以下ノ人員表ヲ近衛師團毎ニ取調當日午前八時迄ニ觀兵式場ニ於テ諸兵指揮官ニ進呈スヘシ
 - 一 諸兵指揮官ハ當日午前八時ヨリ式場玉座前面ニアリ
 - 一 前日大雨當日微雨ニテモ諸隊出場ニ及ハス

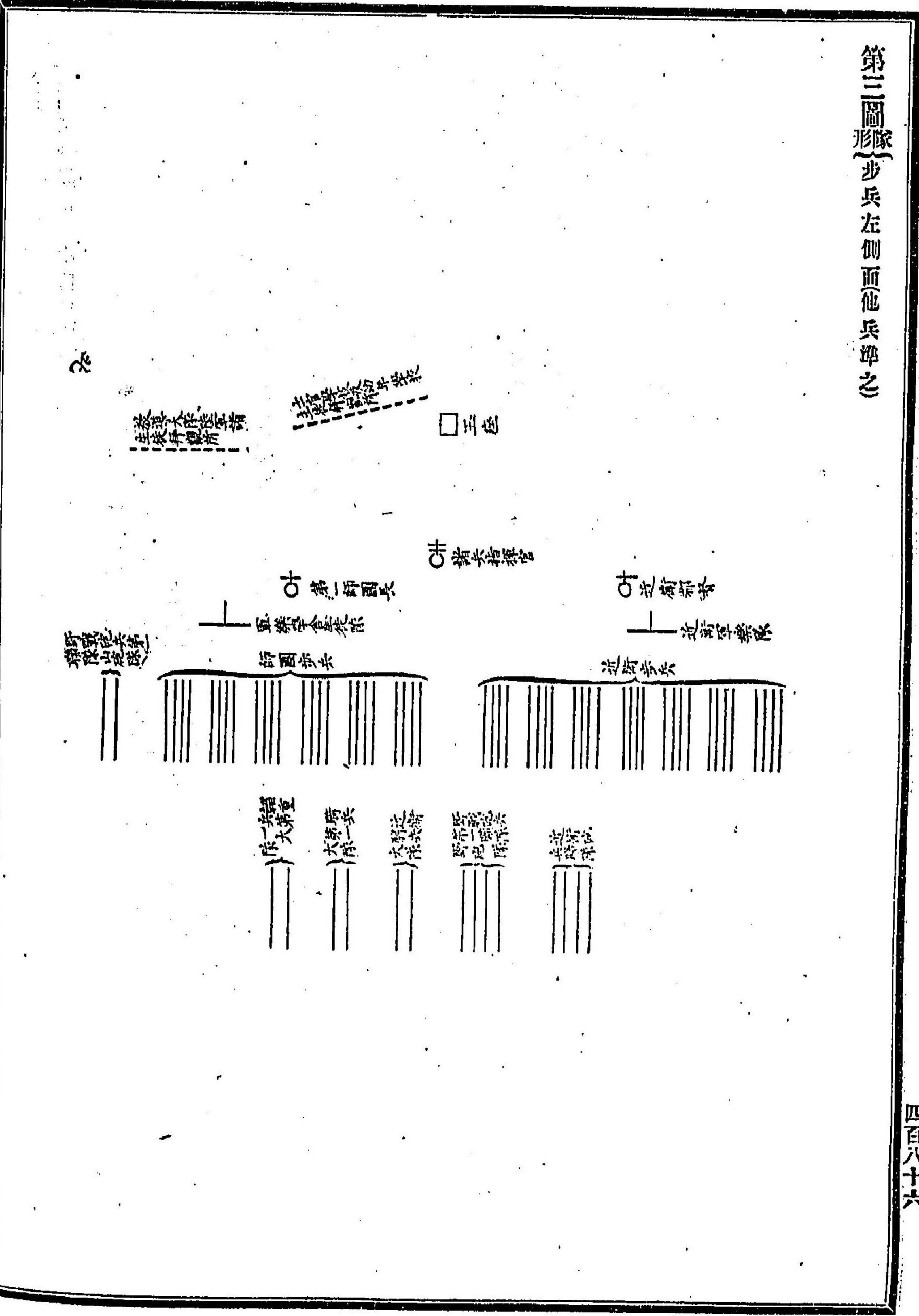
第一圖 形隊
砲騎步兵
兵兵兵



第二圖 形列
砲騎步兵
兵兵兵



第三圖形 步兵左側面他兵準之



故猷仁親王御正辰祭次第
明治二十二年一週御式年
祭次第ハ後ニ載ス

稚高依姬尊御正辰祭次第
第

明治二十一年鎮魂祭次第
第

故猷仁親王御正辰祭次第 二十三年十一月十二日
午前第十時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

次開扉

次神饌ヲ供ス

次祝詞

次神饌ヲ撤ス

次閉扉

稚高依姬尊御正辰祭次第 二十一年十一月十三日
午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

次開扉

次神饌ヲ供ス

次祝詞

次神饌ヲ撤ス

次閉扉

鎮魂祭次第 二十一年十一月二十二日
○二十二年二十三年總テ同様ニ付畧ス

午後第四時神座以下ヲ裝飾ス 表一ノ間ヲ以テ宮
次掌典長以下手水ノ儀アリ 掌典補之ヲ勤ム

次掌典長以下祓ノ所ニ立ツ

次學典補祓詞ヲ讀ム訖テ柳枝ヲ執テ祓フ

是ヨリ先宮内省勅奏任官南庇ニ著床令人東庇北方ニ著床

次學典長東庇ノ南頭學典學典補等順次著床

次神降

此間諸官員起ツ

次安知女ノ曲ヲ奏ス

次八代物ヲ供ス

此間神樂歌ヲ奏ス

次神饌ヲ供ス二前

此間神樂歌ヲ奏ス

次學典長齋殿ニ昇リ祝詞ヲ奏ス畢テ掖座ニ著ク

此間諸官員起ツ

次學典絲結ノ座ニ著ク

次御衣竝御玉緒渡御

此時警蹕諸官員起ツ殿上ノ式ニ付御衣等ノ管幸櫃ニ不納學典長學典面伏ス

次學典長以下八開手ヲ拍ツ學典手ツカヲ直ニ齋殿ノ案上ニ奉安

次內學典進テ宇氣槽ニ昇ル段八度

次學典補齋殿前後ノ幔ヲ垂ル學典絲結ヲ奉仕ス十結內學典鉾ヲ執テ宇氣槽ヲ衝十度畢テ御玉緒ヲ本ノ管ニ

納ム學典補前幔ヲ褰ク學典齋殿ニ進ミ御衣管ヲ執テ蓋ヲ開キ神前ニ向ヒ振動十度訖テ本ノ所ニ納置

此間神樂歌ヲ奏ス

次御衣竝御玉緒入御

此時警蹕諸官員起ツ

次皇太后宮御衣竝御玉緒渡御

此時警蹕諸官員起ツ

次學典御衣等ノ管ヲ齋殿ノ案上ニ奉安以下振動同上

此間神樂歌ヲ奏ス

次御衣等人御

此時警蹕諸官員起ツ

次皇后宮御衣竝御玉緒渡御以下入御ニ至ル迄ノ式總テ同上

次學典掖座ニ復ス學典補後幔ヲ褰ク

次學典復床

次大直歌

次學典長再拜諸官員之ニ應ス

次倭舞此儀略ス

次學典長以下後手ヲ拍ツ初ノ如シ

次學典長復床

次神饌ヲ撤ス

此間神樂歌ヲ奏ス

次八代物ヲ撤ス

此間神樂歌ヲ奏ス

次神昇

此間諸官員起ツ

次各退出

鎮魂祭次第第二十二年十一月二十二日
午後第四時神座以下ヲ裝飾ス實所便殿ヲ以テ其所トス
同第五時掌典長以下手水ノ儀アリ掌典補之ヲ勤ム
次掌典長以下祓ノ所ニ立ッ

次掌典補祓詞ヲ讀ム詔ヲ柳枝ヲ執テ祓フ

是ヨリ先宮内省勅奏任官南庇北面ニ著床伶人南庇東面ニ著床

次掌典長齋殿ノ東上南面掌典掌典補等順次著床

次神降

此間諸官員起ッ

次安知女ノ曲ヲ奏ス

次八代物ヲ供ス

此間神樂歌ヲ奏ス

次神饌ヲ供スニ前

此間神樂歌ヲ奏ス

次掌典長齋殿ニ昇リ祝詞ヲ奏ス畢テ掖座ニ著ク

此間諸官員起ッ

次掌典系結ノ座ニ著ク

次御衣竝御玉緒渡御

此時警蹕諸官員起ッ殿上ノ式ニ付御衣等ノ管辛櫃ニ不納掌典長掌典面伏ス

次掌典長以下八開手ヲ拍ッ掌典手ツカフ直ニ齋殿ノ案上ニ奉安掌典進テ宇氣槽ニ昇ル

次掌典補齋殿前後ノ幔ヲ垂ル掌典系結ヲ奉仕ス十内掌典銚ヲ執テ宇氣槽ヲ衝十畢テ御玉緒ヲ本ノ篋ニ

納ム掌典補前幔ヲ褰ク掌典齋殿ニ進ミ御衣篋ヲ執テ蓋ヲ開キ神前ニ向ヒ振動十詔ヲ本ノ所ニ納置

此間神樂歌ヲ奏ス

次御衣竝御玉緒入御

此時警蹕諸官員起ッ

次皇太后宮御衣竝御玉緒渡御

此時警蹕諸官員起ッ

次掌典御衣等ノ篋ヲ齋殿ノ案上ニ奉安以下振動同上

此間神樂歌ヲ奏ス

次御衣等入御

此時警蹕諸官員起ッ

次皇后宮御衣竝御玉緒渡御以下入御ニ至ル迄ノ式總テ同上

次皇太子御衣竝御玉緒渡御以下入御ニ至ル迄ノ式總テ同上

次掌典掖座ニ復ス掌典補後幔ヲ褰ク

次掌典復床

次大直歌

次掌典長再拜諸官員之ニ應ス

次倭舞

次掌典長以下後手ヲ拍ッ初ノ如シ

次掌典長復床

次神饌ヲ撤ス

此間神樂歌ヲ奏ス

次八代物ヲ撤ス

此間神樂歌ヲ奏ス
次神昇
此間諸官員起ッ
次各退出

明治二十三年向上

鏡魂祭次第二十三年十一月二十二日

午後第四時神座以下ヲ裝飾ス(實所便殿ヲ以テ其所トス)
同第五時掌典長以下手水ノ儀アリ(掌典補之ヲ勤ム)

次掌典長以下祓ノ所ニ立ッ
次掌典補祓詞ヲ讀ム詔ヲ榊枝ヲ執テ祓フ

是ヨリ先宮内省勅奏任官南庇北面ニ著床冷人南庇東面ニ著床
次掌典長齋殿ノ東上南面掌典補等順次著床

次神降

此間諸官員起ッ

次安知女ノ曲ヲ供ス

次八代物ヲ奏ス

此間神樂歌ヲ奏ス

次神饌ヲ供ス(二前)

此間神樂歌ヲ奏ス

次掌典長齋殿ニ昇リ祝詞ヲ奏ス畢テ掖座ニ著ク

此間諸官員起ッ

次掌典絲結ノ座ニ著ク

次御衣竝御玉緒渡御

此時警蹕諸官員起ッ(殿上ノ式ニ付御衣等ノ筥辛櫃ニ不納掌典手ツカラ直ニ齋殿ノ案上ニ奉安)掌典
長掌典面伏ス

次掌典長以下八開手ヲ拍ッ(四段毎段八度)掌典補之ヲ催ス

次内掌典進テ宇氣槽ニ昇ル

次掌典補齋殿前後ノ幔ヲ垂ル掌典絲結ヲ奉仕ス(十結)内掌典鉢ヲ執テ宇氣槽ヲ衝(十度)畢テ御玉緒ヲ本
ノ筥ニ納ム掌典補前幔ヲ褰ク掌典齋殿ニ進ミ御衣筥ヲ執テ蓋ヲ開キ神前ニ向ヒ振動(十度)訖テ本ノ
所ニ納置

此間神樂歌ヲ奏ス

次御衣竝御玉緒入御

此時警蹕諸官員起ッ

次皇太后陛下御衣竝御玉緒渡御

此時警蹕諸官員起ッ

次掌典御衣等ノ筥ヲ齋殿ノ案上ニ奉安以下振動同上

此間神樂歌ヲ奏ス

次御衣等入御

此時警蹕諸官員起ッ

次皇后陛下御衣竝御玉緒渡御以下入御ニ至ル迄ノ式總テ同上

次皇太子殿下御衣竝御玉緒渡御以下入御ニ至ル迄ノ式總テ同上

次掌典掖座ニ復ス掌典補後幔ヲ褰ク

次掌典復床

次大直歌

次掌典長再拜諸官員之ニ應ス
 次倭舞
 次掌典長以下後手ヲ拍ツ初ノ如シ
 次掌典長復床
 次神饌ヲ撤ス
 此間神樂歌ヲ奏ス
 次八代物ヲ撤ス
 此間神樂歌ヲ奏ス
 次神昇
 此間諸官員起ツ
 次各退出

明治二十一年新嘗祭次第

新嘗祭夕次第二十一日十一月二十三日

午後第二時神殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス
 同第四時宮内省官員著床
 次掌典掌典補ヲ率テ神座ヲ設ク
 次掌典寢具ヲ神座ノ上ニ供ス
 供シ畢テ掌典長之ヲ檢ス
 同第五時四十分掌典掌典補ヲ率テ忌火ノ御燈ヲ神殿ノ四隅ニ點ス
 此時各所ニ庭燎ヲ點ス
 同第六時在京勅任官及齋香間祓候著床
 出御

侍從二人左右ニ燭ヲ秉ル

侍從長式部長官等前行

宸儀御歩

侍從劍璽ヲ奉ス内大臣宮内大臣以下供奉恒ノ如シ

親王大臣扈從

次隔殿ノ御座ニ 著御

侍從劍璽ヲ案上ニ奉安

侍從長式部長官侍從等ハ隔殿ノ庇ノ座ニ候ス自餘供奉ノ群官假囑ニ著床

次神饌行立

掌典補一人燭ヲ執ル

掌典一人削木ヲ執ル

同一人海老鱈槽ヲ執ル

同一人多志良加ヲ執ル

陪膳采女御楊枝筥ヲ執ル

後取采女御巾筥ヲ執ル

采女一人神食薦ヲ執ル

同一人御食薦ヲ執ル

同一人御箸筥ヲ執ル

同一人枚手筥ヲ執ル

掌典補一人御飯筥ヲ執ル

同一人鮮物筥ヲ執ル

同一人干物筥ヲ執ル

同一人菓子筥ヲ執ル
 同一人海藻汁漬ヲ執ル
 同一人鮑汁漬ヲ執ル
 同一人空蓋ヲ執ル
 同一人籠八足机ヲ昇ク
 同一人酒八足机ヲ昇ク
 同一人御粥八足机ヲ昇ク
 同一人御直會八足机ヲ昇ク

次警蹕

此時親王以下著床ノ諸員起ッ

伶人神樂歌ヲ奏ス

次神殿ノ御座ニ著御

此後式部長官準典長東ノ隔殿ノ座ニ著ク

次神降準典長奉仕

此時親王以下著床ノ諸員起ッ

次御手水

次御供進

次御告文ヲ奏シ給フ

次御直會

次神饌ヲ撤ス

次御手水

次行立直ニ退下

次親王大臣勅任官及辨香間祇候於庭上拜禮

次宮内省奏任官判任官同上

次神昇準典長奉仕

此時親王以下著床ノ諸員起ッ

次隔殿ニ出御

此間侍從劍璽ヲ奉シテ戶外ニ候ス

還御

供奉初ノ儀ノ如シ

同曉次第

午前第一時準典長神座以下ヲ檢ス

次在京勅任官著床以下 還御ニ至ル總テ夕ノ儀ノ如シ

神降神昇例文

新嘗祭解除次第第二十一 十一月二十三日

午前第十時神嘉殿ヲ鋪設ス

其儀準典補殿内ノ四隅ニ木綿ヲ著タル榊ヲ樹テ中央ニ八足机ヲ置キ上ニ米鹽切麻ヲ盛タル三方ヲ

置ク其前ニ祓ノ座ヲ設ク

次準典著床祓詞ヲ讀ム

次準典米鹽切麻ヲ殿ノ四面ニ散ス

次鋪設ヲ撤ス

祓詞

右例文

賢所

皇靈 新嘗祭次第二十二年十一月二十三日

神殿

午後第六時三十分開扉總テ内堂
典率仕

次神饌ヲ供ス三前

次御幣物ヲ供ス皇靈

次祝詞三前

次御幣物神饌等ヲ撤ス

次閉扉

官報抄錄二十一年十一月二十六日
第三師團歩兵第十九聯隊第六中隊ハ新嘗祭儀仗兵トシテ勢州山田ニ向ヒ去ル二十一日出發セリ

明治二十二年同上

新嘗祭夕次第二十二年十一月二十三日

午後第二時神殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

同第四時宮内省官員著床

次掌典掌典補ヲ率テ神座ヲ設ク

次掌典寢具ヲ神座ノ上ニ供ス

供シ畢テ掌典長之ヲ檢ス

次掌典長祝詞ヲ申ス

同第五時四十分掌典掌典補ヲ率テ忌火ノ御燈ヲ神殿ノ四隅ニ點ス

此時各所ニ庭燎ヲ點ス

同第六時便殿 出御

同時親王大臣勅任官及齋香間祇候著床二十三年ニハ大臣ノ二字ヲ削リ麩香
間祇候ノ下ニ錦鶏間祇候ヲ加フ倣之

次出御

侍從劔璽ヲ奉ス

侍從長式部長等前行

侍從二人左右ニ燭ヲ秉ル

次隔殿ノ御座ニ 著御

侍從劔璽ヲ案上ニ奉安

侍從長式部長侍從等ハ隔殿ノ庇ノ座ニ候ス

次神饌行立

掌典補一人燭ヲ執ル

掌典一人削木ヲ執ル

同一人海老鱈槽ヲ執ル

同一人多志良加ヲ執ル

陪膳采女御楊枝筥ヲ執ル

後取采女御巾筥ヲ執ル

采女一人神食薦ヲ執ル

同一人御食薦ヲ執ル

同一人御箸筥ヲ執ル

同一人枚手筥ヲ執ル

掌典一人御飯筥ヲ執ル

同一人鮮物筥ヲ執ル

掌一人干物筥ヲ執ル

掌典補一人菓子筥ヲ執ル

同一人海菜汁漬ヲ執ル

同一人匍汁漬ヲ執ル
 同一人空蓋ヲ執ル
 同一人羹八足机ヲ昇ク
 同一人酒八足机ヲ昇ク
 同一人御粥八足机ヲ昇ク
 同一人御直會八足机ヲ昇ク
 次警蹕
 此時親王以下著床ノ諸員起ツ
 伶人神樂歌ヲ奏ス
 次神殿ノ御座ニ 著御
 此後式部長兼典長東ノ隔殿ノ座ニ著ク
 次御手水
 次御供進
 次御告文ヲ奏シ給フ
 次御直會
 次神饌ヲ撤ス
 次御手水
 次行立直ニ退下
 次親王大勅任官及辭香間祇候於庭上拜禮
 次宮内省奏任官判任官同上
 次御隔殿へ 出御
 此間侍從劔璽ヲ奉シテ戶外ニ候ス

還御

供奉初ノ儀ノ如シ
 同 曉次第
 午前第一時學典長神座以下ヲ檢ス
 次親王大勅任官著床以下 還御ニ至ル迄ヲ總テ夕ノ儀ノ如シ
 新嘗祭解除次第 二十二年十一月二十三日
 午前第十時神嘉殿ヲ鋪設ス
 其儀學典補殿内ノ四隅ニ木錦ヲ著タル榊ヲ樹テ中央ニ八足机ヲ置キ上ニ米鹽切麻ヲ盛タル三方ヲ
 置ク其前ニ祓ノ座ヲ設ク
 次學典著座祓詞ヲ讀ム
 次學典米鹽切麻ヲ殿ノ四面ニ散ス
 次鋪設ヲ撤ス
 祓詞
 右例文
 賢所
 皇靈 新嘗祭次第 二十二年十一月二十三日
 神殿
 午後第六時三十分開扉 總テ内學
 次神饌ヲ供ス三前
 次御幣物ヲ供ス皇靈
 次祝詞三前
 次御幣物神饌ヲ撤ス

次閉扉

官報抄錄二十二年十一月二十六日
第三師團歩兵第六聯隊第十二中隊ハ本月二十三日神宮新嘗祭ニ附キ儀仗兵トシテ勢州山田ニ向ヒ同二
十一日出發セリ

明治二十三年閏上

新嘗祭夕次第 二十三年十一月二十三日

午後第二時神殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

同第四時宮内省官員著床

次掌典掌典補ヲ率テ神座ヲ設ク

次掌典寢具ヲ神座ノ上ニ供ス

供シ畢テ掌典長之ヲ檢ス

次掌典長祝詞ヲ申ス

同第五時四十分掌典掌典補ヲ率テ忌火ノ御燈ヲ神殿ノ四隅ニ點ス

此時各所ニ庭燎ヲ點ス

同第六時便殿 出御

同時親王及勅任官以上齋香間祇候錦鷄間祇候著床

次 出御

侍從劍璽ヲ奉ス

侍從長式部長等前行

侍從二人左右ニ燭ヲ秉ル

次隔殿ノ御座ニ 著御

侍從劍璽ヲ案上ニ奉安

侍從長式部長侍從等ハ隔殿ノ庇ノ座ニ候ス

次神饌行立

次警蹕

此時親王以下著床ノ諸員起ッ

伶人神樂歌ヲ奏ス

次神殿ノ御座ニ 著御

此時式部長掌典長東ノ隔殿ノ座ニ著ク

次御手水

次御供進

次御告文ヲ奏シ給フ

次御直會

次神饌ヲ撤ス

次御手水

次行立直ニ退下

次親王及勅任官以上齋香間祇候錦鷄間祇候於庭上拜禮

次宮内省奏任官判任官同上

次隔殿へ 出御

此間侍從劍璽ヲ奉シテ戶外ニ候ス

還御

供奉初ノ儀ノ如シ

同曉次第

午前第一時掌典長神座以下ヲ檢ス

次親王及勅任官以上著床以下 還御ニ至ル迄總ヲ夕ノ儀ノ如シ

官報抄錄二十三年十一月二十五日
第三師團步兵第六聯隊第五中隊ハ本月二十三日新嘗祭ニ附キ勢州神宮へ儀仗兵トシテ同二十一日該地ヲ出發セリ

明治二十一年後桃園院天皇御親祭次第

後桃園院天皇御親祭次第二十一年十二月六日

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

同時三十分宮内省官員著床

次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞

同第十時出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ 親王扈從

次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ

次賢所神殿等御拜(御鈴恒ノ如シ御玉串無之)畢テ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ッ

次親王拜禮 次宮内省勅任官拜禮

次同奏任官判任官拜禮

次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂

次各退出

同十一時宮内省官員著床

次開扉

皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ御拜ノ間著床ノ諸員起ッ

次閉扉 次各退出

明治二十二年同上

後桃園院天皇御親祭次第二十二年十二月六日

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

同時三十分宮内省官員著床

次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂

次祝詞

同第十時親王以下著床

出御

次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ畢テ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ッ

次親王拜禮 次宮内省勅任官拜禮 次同奏任官判任官拜禮 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次閉扉 此間奏樂 次各退出

同十一時宮内省官員著床

次開扉

皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ御拜ノ間著床ノ諸員起ッ

次東宮御代拜御玉串ヲ捧ク

次閉扉 次各退出

式部長ヨリ親王へ申讀二十二年十一月二十九日

十二月六日 後桃園院天皇

同 十二日 光格天皇

右御例祭ニ付兩日共午前九時四十分賢所前參集所へ御參可有之此段申進候也

官報抄錄二十二年十二月七日

昨六日後桃園院天皇御祭典ニ附キ御親祭アラセラルヘキ筈ノ處御都合ニ依リ德大寺侍從長御代拜奉仕

又 皇太后陛下御代拜ハ權典侍平松好子 皇后陛下御代拜ハ權掌侍津守好子 皇太子殿下御代拜ハ中山東宮侍從長奉仕セリ

明治二十三年同上

後桃園院天皇御親祭次第二十三年十二月六日

午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

同時三十分宮内省官員著床

次開扉 此間奏樂
 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
 次祝詞
 同第十時親王以下著床
 出御
 次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ畢テ入御
 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ッ
 次親王拜禮
 次宮内省勅任官拜禮
 次同奏任官判任官拜禮
 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉 此間奏樂
 次各退出
 同十一時宮内省官員著床
 次開扉
 皇太后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ
 皇后陛下御拜同上
 御拜ノ間著床ノ諸員起ッ

明治二十一年光緒天皇御親祭次第

明治二十二年同上
明治二十三年ハ五十年御式奉祭ニ付例年ト區別シテ二掲載ス

次皇太子殿下御代拜御玉串ヲ奉ク
 次閉扉
 次各退出
 光格天皇御親祭次第 二十一年十二月十二日
 午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス
 同時三十分宮内官員著床
 次開扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞
 同第十時出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ 親王扈從
 次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ
 次賢所神殿等御拜(御鈴恒ノ如シ御玉串無之)畢テ入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ッ
 次親王拜禮 次宮内省勅任官拜禮 次同奏任官判任官拜禮
 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 同十一時宮内省官員著床
 次開扉
 皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ
 御拜ノ間著床ノ諸員起ッ
 次閉扉 次各退出
 光格天皇御親祭次第 二十二年十二月十二日
 午前第九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス

明治三十一年御禮樂次第

同時三十分宮内省官員著床
 次閉扉 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞
 同第十時親王以下著床 出御
 次御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ 畢リテ 入御 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ
 次親王拜禮 次宮内省勅任官拜禮 次同奏任官判任官拜禮
 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次閉扉 此間奏樂 次各退出
 同十一時宮内省官員著床
 次閉扉
 皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ
 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ
 次東宮御代拜御玉串ヲ捧ク
 次閉扉 次各退出
 官報抄錄二十二年十二月十三日
 昨十二日 光格天皇御祭典ニ附キ御親祭アラセラルヘキ筈ノ處御都合ニ依リ德大寺侍從長御代拜奉仕
 又 皇太后陛下御代拜ハ權掌侍吉田瀧子奉仕 皇后陛下ニハ御拜御代拜共之ナシ 皇太子殿下御代拜ハ中山東宮侍從長奉仕セリ

御神樂次第 二十一年十二月十五日
 午後第三時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大眞賢木恒ノ如シ) 同第四時宮内省官員著床
 次閉扉三前 此間奏樂 次御饌ヲ供ス 此間奏樂
 同第五時各廳勅任官一人宛著床
 出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ 親王大臣扈從

明治三十三年同上

次御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奉シ給フ 畢テ入御 賢所御鈴恒ノ如シ 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ
 次親王大勅任官拜禮 次宮内省奏任官判任官拜禮
 皇太后宮 皇后宮御拜御玉串ヲ奉リ給フ 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ
 次東宮御代拜御玉串ヲ捧ク 學典賢木ノ枝ヲ人長ニ授ク
 次御神樂 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 人長賢木ノ枝ヲ學典ニ致ス學典之ヲ宮内省當番ニ附シテ奉獻
 次閉扉 此間奏樂 次各退出

御神樂次第 二十二年十二月十六日
 午後第三時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大眞賢木恒ノ如シ) 同第四時宮内省官員著床
 次閉扉三前 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂
 同第五時親王大臣以下及各廳勅任官一人宛著床
 出御
 次御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文ヲ奏シ給フ 畢リテ 入御 賢所御鈴恒ノ如シ 御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ
 次親王大勅任官拜禮 次宮内省奏任官判任官拜禮
 皇太后宮 皇后宮 御拜御玉串ヲ奉リ給フ 御拜ノ間著床ノ諸員起ツ
 次東宮御代拜御玉串ヲ捧ク 學典賢木ノ枝ヲ人長ニ授ク
 次御神樂 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 人長賢木ノ枝ヲ學典ニ致ス學典之ヲ宮内省當番ニ附シテ奉獻
 次閉扉 此間奏樂 次各退出

御神樂次第 二十三年十二月十五日
 午後第三時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(大眞賢木恒ノ如シ)

同第四時宮内省官員著床

次開扉(三前)

此間奏樂

次神饌ヲ供ス

此間奏樂

同第五時親王各大臣樞密院議長及各廳勅任官一人宛著床

出御

次御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ畢テ入御

賢所御鈴恒ノ如シ

御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ

次親王以下勅任官等拜禮

次宮内省奏任官判任官拜禮

皇太后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ

皇后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ

御拜ノ間著床ノ諸員起ツ

次皇太子殿下御代拜御玉串ヲ捧ク

學典賢木ノ枝ヲ人長ニ授ク

次御神樂

次神饌ヲ撤ス

此間奏樂

人長賢木ノ枝ヲ學典ニ致ス學典之ヲ宮内省當番ニ附シテ奉獻

次閉扉

此間奏樂

次各退出

明治二十二年十二月

折大祓次第

節折次第二十一(二十二年十二月三十一日)

正午十二時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(表一ノ間ヲ用フ)午後第一時宮内省官員參候 次學典長出御ヲ奏請ス

次學典長以下進テ庇ニ候ス

出御 次學典長進ミテ天氣ヲ候フ 次侍從荒世ノ御服ヲ供ス畢リテ返シ給フ侍從學典ニ傳フ 次學典

長荒世ノ御麻ヲ執リテ侍從ニ附ス 次侍從御麻ヲ供ス畢リテ返シ給フ侍從學典長ニ傳フ 次學典荒世

ノ竹ヲ執テ侍從ニ附ス 次侍從竹ヲ以テ御體ヲ量リ奉ル(五度)畢リテ學典ニ傳フ 次學典荒世ノ壺ヲ

執リテ侍從ニ附ス 次侍從壺ヲ供ス畢リテ返シ給フ侍從學典ニ傳フ 次和世ノ具ヲ進ル其式荒世ノ儀

ノ如シ畢リテ入御 次學典大河ニ向フ 次學典補御麻ヲ執テ祓所ニ向フ 次各退出

大祓次第二十一(二十二年十二月三十一日)

午後第一時三十分庭上ノ鋪設竝ニ祓物ヲ具備ス

同第二時學典長以下著床

同時各廳勅奏判ノ官員各一人著床 次學典補二人御麻ヲ捧テ庭中ノ案上ニ置キ祓ノ稻ヲ挿ム 次學典

長學典ヲ召テ祓ノ事ヲ仰ス 次學典案前ニ進ミテ大祓ノ詞ヲ讀畢ル學典一人進ミテ案上ノ大祓ヲ執

リテ退キ著床ノ諸員ニ向ヒ立テ祓ヒ畢リテ大祓ヲ學典補ニ授ク 此間著床ノ諸員起ツ 次學典大河道

ニ向フテ祓却ント宣ル 次學典補祓物ヲ執テ大河ニ向フ 次各退出

節折次第二十二(二十二年十二月三十一日)

正午十二時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(鳳凰間ヲ用フ) 午後第一時宮内省官員參候

次學典長出御ヲ奏請ス 次學典長以下進テ庇ニ候ス

出御 次掌典長進テ天氣ヲ候フ 次侍從荒世ノ御服ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ
 次掌典長荒世ノ御麻ヲ執テ侍從ニ附ス 次侍從御麻ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典長ニ傳フ
 次掌典荒世ノ竹ヲ執テ侍從ニ附ス 次侍從竹ヲ以テ御體ヲ量リ奉ル(五度)畢テ掌典ニ傳フ
 次掌典荒世ノ壺ヲ執テ侍從ニ附ス 次侍從壺ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ
 次和世ノ具ヲ進ル其式荒世ノ儀ノ如シ畢テ入御
 次掌典大河ニ向フ 次掌典補御麻ヲ執テ祓所ニ向フ 次各退出

大祓次第

午後第一時三十分庭上ノ鋪設並ニ祓物ヲ具備ス 同第二時掌典長以下著床
 同時各廳勅奏判任ノ官員各一人著床 次掌典補二人御麻ヲ捧テ庭中ノ案上ニ置キ祓ノ稻ヲ挿ム
 次掌典長掌典ヲ召テ祓ノ事ヲ仰ス
 次掌典案前ニ進テ大祓ノ詞ヲ讀畢ル掌典一人進テ案上ノ大麻ヲ執テ退キ著床ノ諸員ニ向ヒ立テ祓ヒ畢
 テ大麻ヲ掌典補ニ授ク 此間著床ノ諸員起ツ
 次掌典大河道ニ向フテ祓却レト宣ル 次掌典補祓物ヲ執テ大河ニ向フ 次各退出

明治二十三年向上

節折次第 二十三年十二月三十一日

正午十二時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス(鳳凰間ヲ用フ)
 午後第一時宮内省官員參候
 次掌典長出御ヲ奏請ス
 次掌典長以下進テ庇ニ候ス
 出御

次掌典長進テ天氣ヲ候フ
 次侍從荒世ノ御服ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ

次掌典長荒世ノ御麻ヲ執リテ侍從ニ附ス
 次侍從御麻ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典長ニ傳フ
 次掌典荒世ノ竹ヲ執リテ侍從ニ附ス
 次侍從竹ヲ以テ御體ヲ量リ奉ル(五度)畢テ掌典ニ傳フ
 次掌典荒世ノ壺ヲ執リテ侍從ニ附ス
 次侍從壺ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ
 次和世ノ具ヲ進ル其式荒世ノ儀ノ如シ
 入御

次掌典大河ニ向フ
 次掌典補御麻ヲ執リテ祓所ニ向フ
 次各退出

大祓次第

午後第一時三十分庭上ノ鋪設並ニ祓物ヲ具備ス
 同第二時掌典長以下著床
 同時各廳勅奏判任ノ官員各一人著床
 次掌典補二人御麻ヲ捧ケテ庭中ノ案上ニ置キ祓ノ稻ヲ挿ム
 次掌典長掌典ヲ召シテ祓ノ事ヲ仰ス
 次掌典案前ニ進ミテ大祓ノ詞ヲ讀畢ル掌典一人進テ案上ノ大麻ヲ執リテ退キ著床ノ諸員ニ向ヒ立テ祓
 ヒ畢テ大麻ヲ掌典補ニ授ク

此間著床ノ諸員起ツ

次掌典大河道ニ向ヒテ祓却レト宣ル
 次掌典補祓物ヲ執リテ大河ニ向フ

明治二十一年歲末祝詞
會十日時

次各退出

式部職ヨリ親王へ申牒二十一年十二月十七日

來ル二十九日ヨリ三日ノ間歲末御祝詞言上ノ爲メ御參内可有之此段申進候也

式部職ヨリ各大臣へ通牒二十一年十二月十七日

來ル二十九日ヨリ三日ノ内奏任官以上並准奏任及判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩參内歲末御祝詞申上候様御達可有之且判任官ハ御廳ニ於テ祝詞相受ケ例ノ通言上有之度此段及御通知候也

追テ出張官員ハ御祝詞言上ニ不及且華族以上ニシテ判任官奉職ノ輩ハ直テニ當省へ出頭御祝詞申上候條爲御心得申添候也

官報抄錄二十一年十二月二十六日

來ル二十九日ヨリ三日ノ内華族有爵位ニ有位ノ輩通常服用參内歲末御祝詞申上ケキ旨一昨二十四日若倉爵位局長官ヨリ在京華族へ達セリ

官報抄錄二十一年十二月十九日

來ル二十九日ヨリ三日ノ内非役從六位以上勳六等以上ノ輩參内歲末御祝詞言上スヘシ

式部 職

式部職ヨリ親王へ申牒二十一年十二月十一日

來ル二十九日ヨリ三日ノ内歲末御祝詞言上ノ爲メ御參内可有之此段申進候也

式部職ヨリ各省廳へ通牒二十一年十二月十一日

來ル二十九日ヨリ三日ノ内奏任官以上并奏任待遇及判任官已下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩參内歲末御祝詞申上候様御達可有之且判任官判任待遇ノ輩ハ御廳ニ於テ祝詞相受例ノ通言上御取計有之度此段及御通知候也

追テ出張官員ハ御祝詞言上ニ不及且華族ニシテ判任官奉職ノ輩ハ直テニ當省へ御祝詞申上候條此段爲御心得申添候也

式部職ヨリ内務省へ通牒二十一年十二月十一日

明治二十二年同上

明治二十三年同上

來ル二十九日ヨリ三日ノ内奏任官以上並奏任待遇及判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩參内歲末御祝詞申上候様御達可有之且判任官ハ御廳ニ於テ祝詞相受例ノ通言上御取計有之度此段及御通知候也

官報抄錄二十二年十二月十八日

本月二十九日ヨリ三日ノ内非役從六位以上勳六等以上ノ輩參内歲末御祝詞言上スヘシ

官報抄錄二十二年十二月十四日

式部 職

式部職ヨリ親王へ申牒二十三年十二月十五日

來ル二十九日ヨリ三日ノ内歲末御祝詞言上ノ爲メ御參内可有之此段申進候也

式部職ヨリ各大臣樞密院會計検査院行政裁判所鐵道廳警視廳東京府貴族院衆議院へ通牒二十三年十二月十五日

來ル二十九日ヨリ三日ノ内奏任官以上並奏任待遇及判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩參内歲末御祝詞申上候様御達可有之且判任官判任待遇ノ輩ハ御廳ニ於テ祝詞相受例ノ通言上御取計有之度此段及御通知候也

追テ各地出張官員ハ御祝詞言上ニ不及且非役從六位以上勳六等以上ノ輩參内歲末御祝詞申上候條爲御心得申添候也

○行政裁判所鐵道廳貴族院衆議院へハ例ノ通ノ字ヲ省ク

式部職ヨリ内務大臣へ通牒二十三年十二月十五日

來ル二十九日ヨリ三日ノ内奏任官以上並奏任待遇及判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上ノ輩參内歲末御祝詞申上候様御達可有之且判任官判任待遇ノ輩ハ御廳ニ於テ祝詞相受例ノ通言上御取計有之度此段及御通知候也

式部職ヨリ爵位局へ通牒二十三年十二月十五日
 來ル二十九日ヨリ三日ノ内有爵位有華族ノ輩參内歳末御祝詞申上候儀ニ有之候此段及御通知候也
 式部職ヨリ伊藤岩村宮中顧問官へ通牒二十三年十二月十五日
 來ル二十九日ヨリ三日ノ内參内歳末御祝詞言上可有之此段及御通知候也
 式部職ヨリ東條正八位四屋那河元々老院書記官妙法院門跡村田寂順へ通牒二十三年十二月十五日
 前同文

式部職ヨリ内大臣秘書官へ通牒二十三年十二月十五日
 來ル二十九日ヨリ三日ノ内省中高等官以上參内歳末御祝詞言上可有之此段及御通知候也
 式部職ヨリ省中一般へ通牒二十三年十二月十五日
 來ル二十九日ヨリ三日ノ内省中高等官並判任官准判任判任待遇ノ輩等歳末御祝詞言上可有之此段及御通知候也

内閣書記官長通牒二十三年十二月二十六日
 一判任官並判任待遇ノ輩歳末御祝詞トシテ來二十九日午前十時内閣へ參賀
 一來一月一日午前九時判任官並判任官待遇ノ輩内閣へ參賀
 右之通牒中御達可有之此旨及御通知候也
 官報抄録二十三年十二月二十日
 本月二十九日ヨリ三日ノ内非役從六位以上同勳六等以上ノ輩參内歳末御祝詞言上スヘシ
 式部職

明治二十一年除夜祭次郎

賢所 皇靈 除夜祭次郎二十一年十二月三十一日
 神殿
 午後第五時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 次式部職官員著床 次閉扉(三前) 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次各退出

明治二十三年同上

賢所 皇靈 除夜祭次郎二十三年十二月三十一日
 神殿
 午後第五時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 次式部職官員著床 次閉扉(三前) 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次各退出

明治二十三年同上

賢所 皇靈 除夜祭次郎二十三年十二月三十一日
 神樂
 午後第五時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス 次式部職官員著床 次閉扉(三前) 此間奏樂 次神饌ヲ供ス 此間奏樂 次祝詞 次神饌ヲ撤ス 此間奏樂 次閉扉(三前) 此間奏樂

即位ノ禮及大嘗祭ハ京
都ニ於テ行ハセラル

皇室典範節錄 二十二年二月十一日(全文ハ宮廷
内ニ載ス)
第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

故靜子内親王一週御式年祭次第 二十一年四月四日

午前第八時御靈殿ヲ裝飾ス

次宮内省官員著床

次開扉

此間奏樂雨儀之
ヲ器ス

次神饌ヲ供ス

此間奏樂

次祝詞

次御代拜御玉串ヲ捧侍從
ヲ奉仕

次皇太后宮御代拜同上女官
ヲ奉仕

次皇后宮同上

次親王拜禮御玉串ヲ奉ヲ奉
ラル

次宮内省勅奏任官拜禮玉串ヲ奉ヲ奉
ル

次奏任女官同上

次宮内省判任官拜禮

次判任女官同上

次神饌ヲ撤ス

故靜子内親王三週御式
年祭次第

此間奏樂

次閉扉

此間奏樂

次各退出

故靜子内親王三週御式年祭次第 二十三年四月四日

午前第九時御靈殿ヲ裝飾ス

次宮内省官員著床

次開扉

此間奏樂

次神饌ヲ供ス

此間奏樂

次祝詞

次御代拜御玉串ヲ捧侍從
ヲ奉仕

次皇太后陛下御代拜同上女官
ヲ奉仕

次皇后陛下御代拜同上

次皇太子殿下御代拜同上東宮侍
從ヲ奉仕

次親王拜禮御玉串ヲ奉ヲ奉
ラル

次宮内省勅奏任官拜禮玉串ヲ奉ヲ奉
ル

次奏任女官拜禮同上

次宮内省判任官拜禮

次判任女官同上

次神饌ヲ撤ス

三品敬仁親王尊十年御式年祭次第
式祭次第
明治二十二年閏二十三年
ノ御正辰祭次第ハ前ニ載
ス

此間奏樂
次閉扉
此間奏樂
次各退出

三品敬仁親王尊十年御式年祭次第 二十一年七月二十六日
午前第八時御靈殿ヲ裝飾ス
次宮内省官員著床

次閉扉

此間奏樂 雨儀之
次神饌ヲ供ス

此間奏樂

次祝詞

次御代拜御玉串ヲ捧ク侍從
次皇太后宮御代拜同上女官
次皇后宮同上

次親王拜禮御玉串ヲ奉ラル

次宮内省勅奏任官拜禮玉串ヲ奉ル

次奏任女官同上

次宮内省判任官拜禮

次判任女官同上

次神饌ヲ撤ス

此間奏樂

次閉扉

此間奏樂

次各退出

官報抄錄二十一年七月二十七日
昨二十六日ハ故三品敬仁親王ノ十年御式年相嘗ニ付キ午前八時宮中ニ於テ九時三十分御墓所ニ於テ御
祭典ヲ行ハセラル。聖上御代拜ハ侍從伯耆萬里小路通房 皇太后宮御代拜ハ權掌侍吉見光子 皇后宮
御代拜ハ權掌侍數嘉根子ナリ

故昭子内親王五年御式年祭次第 二十一年九月六日

午前第八時御靈殿ヲ裝飾ス

次宮内省官員著床

次閉扉

此間奏樂 雨儀之
次神饌ヲ供ス

此間奏樂

次祝詞

次御代拜御玉串ヲ捧ク侍從
次皇太后宮御代拜同上女官
次皇后宮同上

次親王拜禮御玉串ヲ奉ラル

次宮内省勅奏任官拜禮玉串ヲ奉ル

次奏任女官同上

故昭子内親王及故昭子
内親王五年御式年祭次第
明治二十二年閏二十三年
ノ御正辰祭次第ハ前ニ載
ス

明治二十二年紀元節
中ニ於テ憲法發布式ヲ
行ハセラル、ニ付諸次
第ヲ定ム

次宮内省判任官拜禮
次判任女官同上
次神饌ヲ撤ス
此間奏樂
次閉扉
此間奏樂
次各退出
同日午前第九時三十分御墓祭
次神饌等前ニ準ス但奏樂ハ雨儀ト雖トモ略セズ
故章子内親王五年御式年祭次第二十一年九月八日
總テ同前

宮内省告示第二十二年二月三日

來ル十一日紀元節宮中ニ於テ憲法發布式ヲ行ハセラル、ニ付諸次第左ノ如ク定メラル

○紀元節御親祭次第

午前第八時宮内省官員著床
次閉扉
此間奏樂
次神饌及御幣物ヲ供ス
此間奏樂
午前第九時親任官公爵勳一等勅任官府縣知事齋香間祇候俟爵著床
次出御内大臣宮内大臣侍從長式部長官以下供奉恒ノ如シ
親王内閣總理大臣樞密院議長各大臣扈從

次賢所 御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜憲法發布ノ御告文ヲ奏シ給フ

御鈴恒ノ如シ

次皇靈殿 御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ

次神殿 御拜畢テ 入御

御拜ノ間親王以下著床ノ諸員起ツ

次親王内閣總理大臣樞密院議長各大臣親任官公爵勳一等勅任官府縣知事齋香間祇候俟爵拜禮

次宮内省著床諸員拜禮

次御幣物及神饌ヲ撤ス

此間奏樂

次閉扉

此間奏樂

次各退出

○憲法發布式次第

期ニ先ツテ

神宮へハ學典長公爵九條道孝ヲ

神武天皇御陵へハ式部次官男爵高崎正風ヲ

孝明天皇御陵へハ學典子爵竹屋光昭ヲ 勅使トシテ發遣シ奉幣セラル

官國幣社へハ地方官ヲ 勅使トシテ奉幣セラル

當日午前第十時内閣總理大臣百官有司ヲ率テ正殿ノ式場ニ入り班列ス

入場諸員左ノ如シ

内閣總理大臣

樞密院議長

各大臣
親任官
公卿
勳一等
勳任官
府縣知事
辨香問祓候
侯爵
伯子男爵總代各一名
次出御
此間奏樂君ヶ代
御列
舍人
式部官
式部長官
侍從長
劍璽 勅任侍從之ヲ奉ス
宸儀
侍從
親王
内大臣
憲法ヲ納メタル箇ヲ奉ス

天皇御靈 侍從之ヲ奉ス
宮内大臣
近衛將官佐官
關係宮内官
次高御座ニ 著御扈從ノ親王諸官左右ニ侍立ス
次内大臣憲法ヲ奉ル
次勅語アリ憲法ヲ内閣總理大臣ニ下付シ給フ内閣總理大臣進テ之ヲ奉受ス
此間祝砲執行
次入御
此間奏樂君ヶ代
次各退出
御式中
皇后陛下ハ 高御座ノ右側ニ別ニ 御座ヲ設ケテ參觀シ給フ
各國公使公使館員ハ左側ニ參列シテ陪觀ス
勅任取扱雇外國人
勳三等以上内外國人
在京奏任官三等以上
始審裁判所長
奏任官内閣樞密院 四等以下每等總代各一名
府縣會議長
右正殿廊下ニ於テ拜觀ヲ許サル
○青山練兵場觀兵式 臨御次第_{當日雨雪ナレハ止ム}

午後第一時三十分 御出門

鹵簿

國儀式

皇帝

皇后兩陛下御同車

親王御息所内閣總理大臣樞密院議長各大臣親任官供奉

次式場 著御天幕内ニ 入御

次閱兵式

分列式

右畢テ 還幸

發布式參列拜觀ノ諸員ハ先著參觀ス

一午後第七時親王内閣總理大臣樞密院議長各大臣外國公使親任官等ノ諸員ヲ召シ豐明殿ニ於テ宴會ヲ

催サル

一午後第九時發布式參列拜觀ノ諸員ヲ召シ正殿ニ於テ舞樂 天覽

舞樂目錄

大和歌

久米舞

佛樂

太平樂

打球樂

春庭花

胡蝶並舞

長慶子

正殿式場ノ圖

